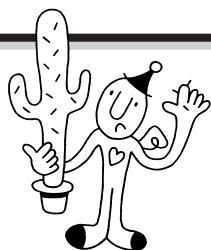
VALUESTAR

もっと知りたいパソコン

オプション周辺機器の取り付けに挑戦！
機能や設定など、もっと知りたいあなたに！
パソコン各部の名前や仕様一覧も収録！

周辺機器をつなぐには…

接続方法を読んでから

接続方法は周辺機器によって異なります。買ってきていきなり接続するのではなく、まずはこのマニュアル、周辺機器に添付のマニュアルをよく読んで、接続方法を理解してからにしましょう。

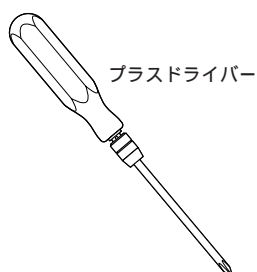
確実に

周辺機器の接続や操作､はずしたネジの取り付けなどは確実に行ってください｡周辺機器やパソコンが動作しなくなる場合があります。また、ドライバーなどでパソコンや周辺機器を傷つけないようにしてください。

あわてない

周辺機器を接続すると、ドライバなどのインストール画面が出てきます。意味がわからなくてもあわてってはいけません。落ちついて画面の説明をよく読んでみましょう。

用意するもの

必要なもの

このパソコンのスタビライザを取り外したり、取り付けるときに必要です。
また、周辺機器などを取り付けるときにあると便利です。周辺機器によっては、ネジの大きさが違うものがあるので、ドライバーは 2、3 種類の大きさを用意しましょう。

あると便利なもの

本体の中にネジなどを落としてしまったときなどにあると便利です。

ドライバーは単品ではなく、セットになっているものを購入したほうがよいでしょう。

この本には、プリンタなどの周辺機器をパソコンに接続したり、パソコン内部にメモリなどを取り付けたりするときの説明や、パソコンの設定を変更したりするときに役立つ情報が載っています。

はじめてパソコンを使う方にとっては、他の本にくらべると少し難しいかもしれませんが、この本はあなたがもっとパソコンに詳しくなるための道案内をしてくれます。説明をよく読んで、まちがいのないように操作してください。そして、思う存分にパソコンを使いこなしてください。

2000年5月　初版

808-884670-005-A

『もっと知りたいパソコン』の読み方

この「『もっと知りたいパソコン』の読み方」を参考にして、知りたい情報を探してください。

パソコンをパワーアップしたい	パソコンをもっと知りたい、使いたい
PART 1 ～ 10	PART 11 ～ 付録

PART 1 ～ 10

このパソコンで使える周辺機器（PART1）

●このパソコンに取り付けることができる周辺機器の説明です。

周辺機器を取り付けるときのポイント（PART1）

●このパソコンに周辺機器を取り付けるときの、ポイントや注意です。

本体のコネクタに接続する周辺機器について

●プリンタなどの周辺機器、本体の開け方と閉め方、USB 対応機器、IEEE1394 対応機器の説明です。

PART 1　PART 2　PART 3　PART 4

本体のカバーを開けて増設する周辺機器について

●メモリ、PCI ボード、PC カード、SCSI 対応機器、ハードディスクなどの説明です。

PART 5　PART 6　PART 7　PART 8　PART 9

困ったときの対処方法、ハードウェアを使うときのポイントなど

●トラブルの対処法、ハードウェアの使用上の注意などの説明です。

PART 10

PART 11 ～ 付録

PART 11

●パソコンの使い方を広げるアプリケーションの紹介です。自分流のパソコンの使い方を楽しんでください。

詳しい使用環境の設定

PART 12

●BIOS セットアップメニューとこのパソコンのリソースについての説明です。

パソコンのお手入れ、本体やキーボードの各部の名称、機能仕様など

付　録

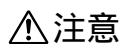
●このパソコンのお手入れについて確認したい場合はここをご覧ください。また、本体やキーボードの各部の名称や機能仕様、マウスのスクロールボタン、FAX モデムボード機能仕様もここに記載しています。

このマニュアルの表記について

◆手順は左、補足説明は右に（PART1～PART11）

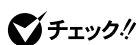
このマニュアルでは、操作手順は順番に画面を示しながら説明しています。実際のパソコンの画面を確かめながら操作を進めてください。パソコンの画面でむやみにマウスを操作すると、思わぬ画面が表示されることがあります。このマニュアルで、どこを操作すればよいのか必ず確認してください。また、ページの右側のグレーの部分には操作に関連する補足説明や用語解説などが記載されています。 はじめてパソコンを扱う方は、 右側の説明もよく読んでください。

◆このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています

⚠警告　注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

⚠注意　注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。

電源ケーブルのプラグを抜くように指示するものです。

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。

パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

◆このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

【　】	【　】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
プリンタ、コネクタなど	「プリンター」や「コネクター」などの末尾に付く「ー」を省略して表記しています。これは、パソコンの画面に表示される用語や、パソコン関連書籍などでよく使われている表記に準拠しているためです。
CD-R/RWドライブ	CD-R/RWモデルでは、CD-R/RWドライブのことを指します。 CD-R/RW with DVD-ROMモデルでは、CD-R/RW with DVD-ROMドライブのことを指します。
「添付ソフトの使い方」	「スタート」-「サポートセンタ」-「添付ソフトの使い方」を開き、各ソフトの使い方を参照することを示します。「添付ソフトの使い方」は、「ランチ-NX」から開くこともできます。
「サポートセンタ」	「サポートセンタ」を起動して、各項目を参照することを示します。「サポートセンタ」は、画面右上の「サポートセンタ」をクリックして起動します。

◆このマニュアルでは、各モデル（機種）を次のような呼び方で区別しています

下記の表をご覧になり、購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

このパソコン	表の各モデル（機種）を指します。
液晶ディスプレイセットモデル	液晶ディスプレイがセットになっているモデルのことです。
CD-R/RW with DVD-ROMモデル	CD-R/RW with DVD-ROMドライブを搭載しているモデルのことです。
CD-R/RWモデル	CD-R/RWドライブを搭載しているモデルのことです。
TVモデル	テレビ/地上波データ放送を見るための機能を搭載したモデルのことです。
Office 2000モデル	Office 2000 Personalがあらかじめインストールされているモデルのことです。

型名	型番	表記の区分			
		本体の形状	内蔵CD-R/RWドライブ・DVD-ROMドライブ	ディスプレイ	添付アプリケーション
VC733J/3FD	PC-VC733J3FD	コンパクトタイプ	CD-R/RW with DVD-ROMモデル	液晶ディスプレイセットモデル（15型液晶）	Office 2000モデル
VC667J/3FD	PC-VC667J3FD		CD-R/RWモデル		
VC667J/3XD	PC-VC667J3XD			液晶ディスプレイセットモデル（14型液晶）	
VT667J/3FD	PC-VT667J3FD	TVモデル	CD-R/RW with DVD-ROMモデル	液晶ディスプレイセットモデル（15型液晶）	

※購入された製品の型名、型番の末尾に「9」が付加されている場合は、末尾の「9」を除いて、モデル名を確認してください。

◆本文中の画面、イラスト

本文中の画面やイラストはモデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。

◆このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

（本文中の表記）	（正式名称）
Windows、Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating System 日本語版
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System
Office 2000 Personal	Microsoft® Office 2000 Personal（Microsoft Word 2000、Microsoft Excel 2000、Microsoft Outlook® 2000、Microsoft/Shogakukan Bookshelf® Basic）
MS-IME 2000	Microsoft® IME 2000
Easy CD Creator	Easy CD Creator™ 4 Standard
DirectCD	DirectCD™ 3

■技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく端末機器の設計についての認証を受けています。申請回線と認証番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

認証機器名：SF-EJQ-ST
認 証 番 号
　電話回線：A00-0408JP

導入にあたっては、「MDMNEJQ.INF」または「MDEJQNT5.INF」のファイルを含む専用ドライバを必ず使用してください。
使用されない場合は、この技術基準を遵守できない場合がありますので、十分にご注意ください。

■高調波電流規制について

この装置の本体は、高調波ガイドライン適合品です。

■電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。 取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

■瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。
（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

■レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準（JIS・C-6802、IEC825）クラス1適合のCD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブが搭載されています。

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBit-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
(4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
(5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
(6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
(7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® 98および本機に添付のCD-ROMは、本機のみでご使用ください。
(8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
(9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

■輸出する際の注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。
本製品の輸出については、外国為替及び外国貿易法に基づいて通商産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

目 次
CONTENTS

目 次
CONTENTS

PART

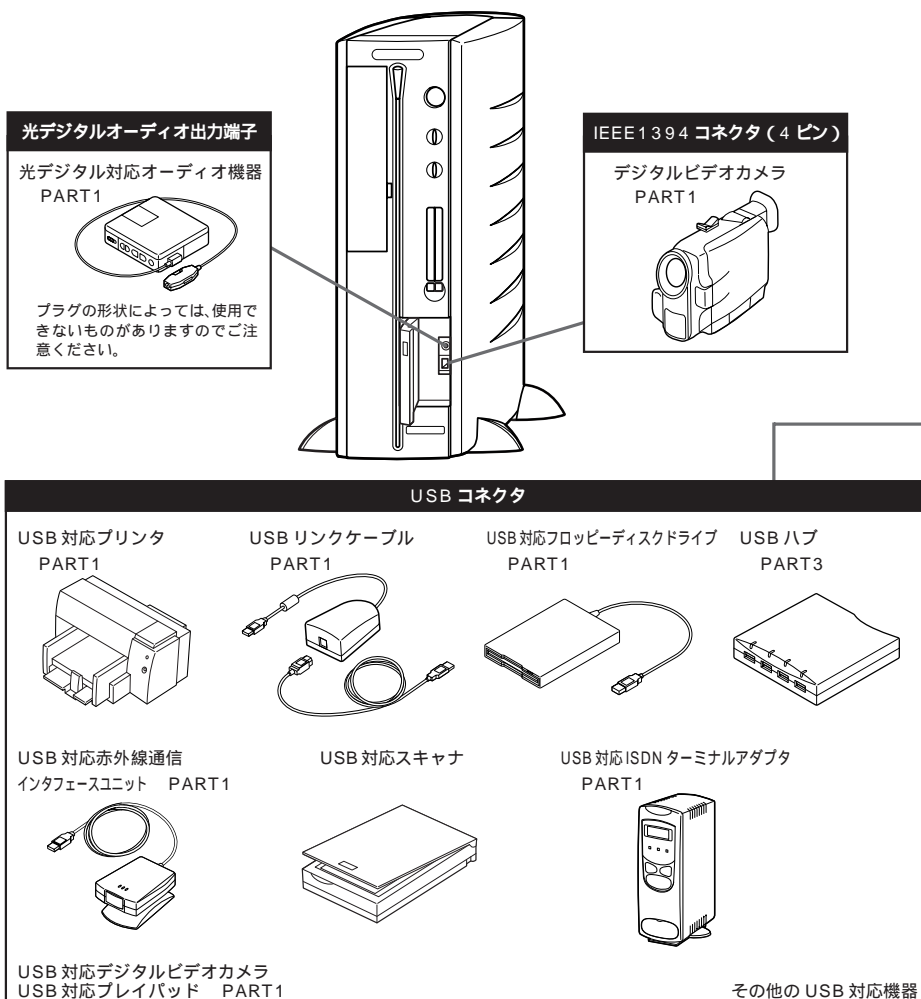
1

このパソコンで使える周辺機器

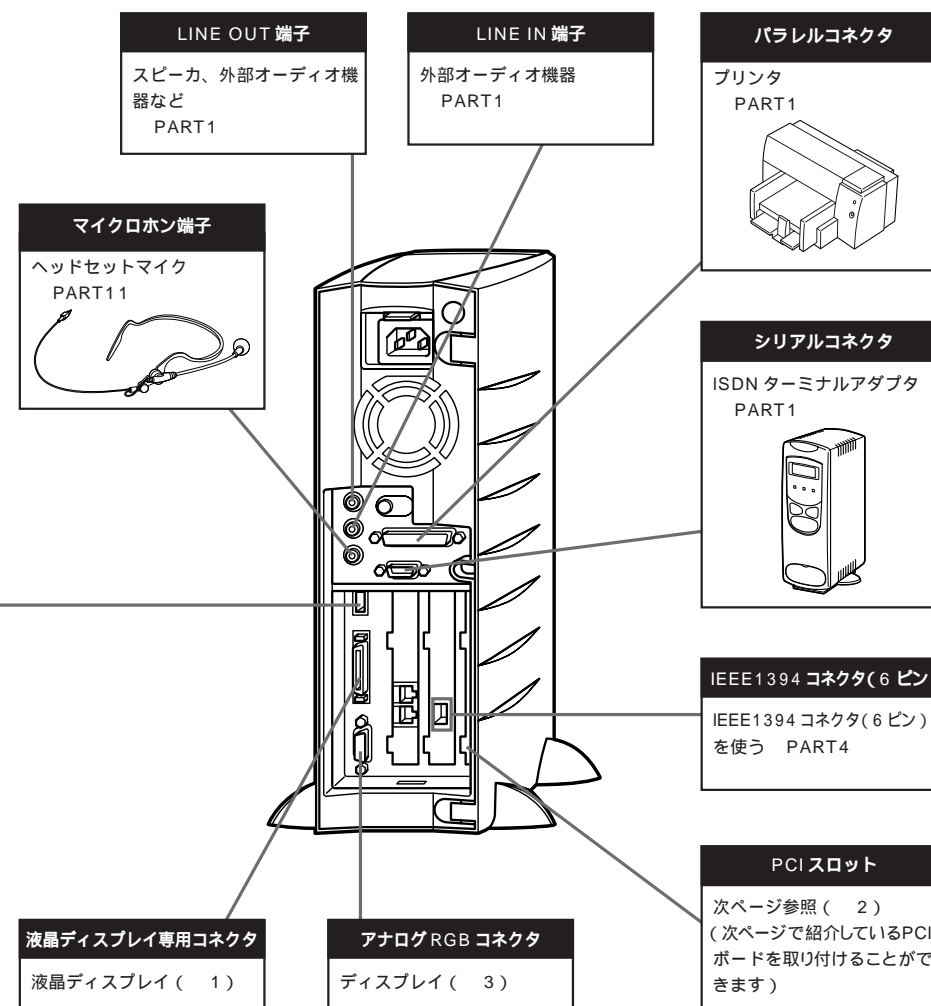
プリンタやデジタルカメラ、スキャナなどの周辺機器をつなげば、あなたのパソコンライフがますます豊かなものになります。ここでは、このパソコンで使える周辺機器について紹介します。

このパソコンに取り付けることができる周辺機器

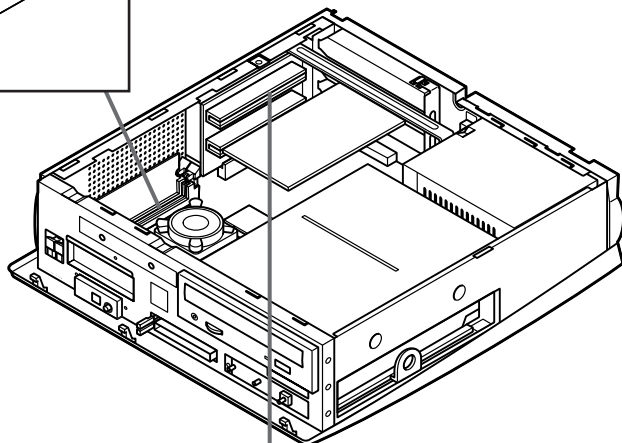
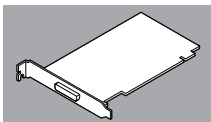
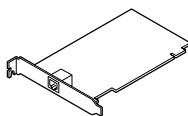
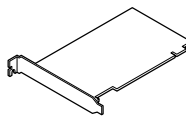
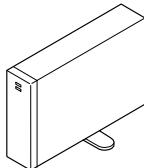
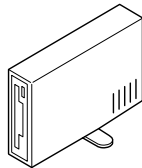
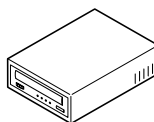
本体前面に取り付けることができる周辺機器

周辺機器の取り付けの際は、その周辺機器がこのパソコンで使えるかどうか十分確認してください。
また、取り付け手順については、周辺機器のマニュアルやこのマニュアルを参考にしてください。

・USB コネクタが不足するときは、別売の USB ハブを使ってコネクタを増やすことができます。
・USB コネクタは、本体背面に 1 つ、セットの液晶ディスプレイに 2 つあります。

本体背面に取り付けることができる周辺機器

下の図はリアカバーを外した状態です。

※ 1 セットの液晶ディスプレイを接続する専用コネクタです。セットの液晶ディスプレイ以外は接続できません。
※ 2 TV モデルは地上波 TV& データ放送ボードで占有済みです。
※ 3 TV モデルにはありません。

本体内部に取り付けることができる周辺機器

下の図はルーフカバーを外した状態です。

・TV モデルは PCI スロットの空きがありませんので、PCI ボードを増設できません。

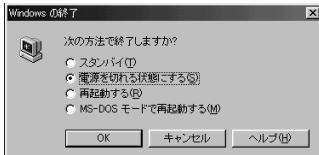
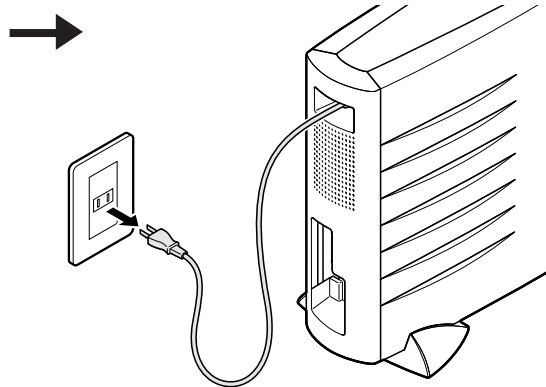
周辺機器を取り付けるときのポイント

購入する前に、このパソコンで使えることを確認しよう

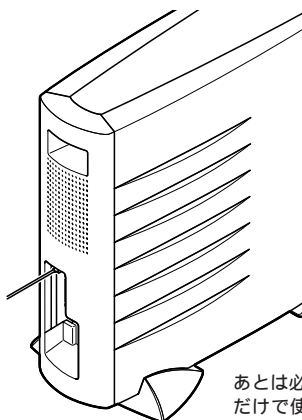
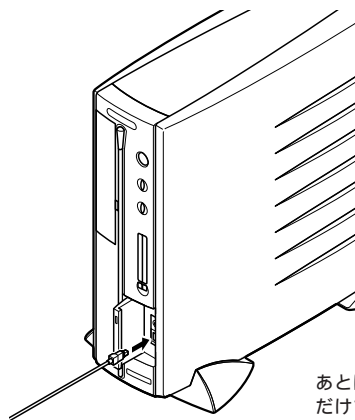
たとえば同じプリンタでも、接続方法や対応パソコンの種類などが、機種によって異なります。機器によっては、このパソコンでは使えない場合があるのです。
せっかく買ってきたのに使えなかった、ということにならないように、周辺機器を購入する前に、その周辺機器がこのパソコンで使えるかどうかを確認しましょう。
なお、NECのインターネットホームページ「98Information」や「PCサポート情報コーナー　PICROBO」などで周辺機器や増設方法を紹介しているので、インターネットに接続できる方は、参考にしてください。

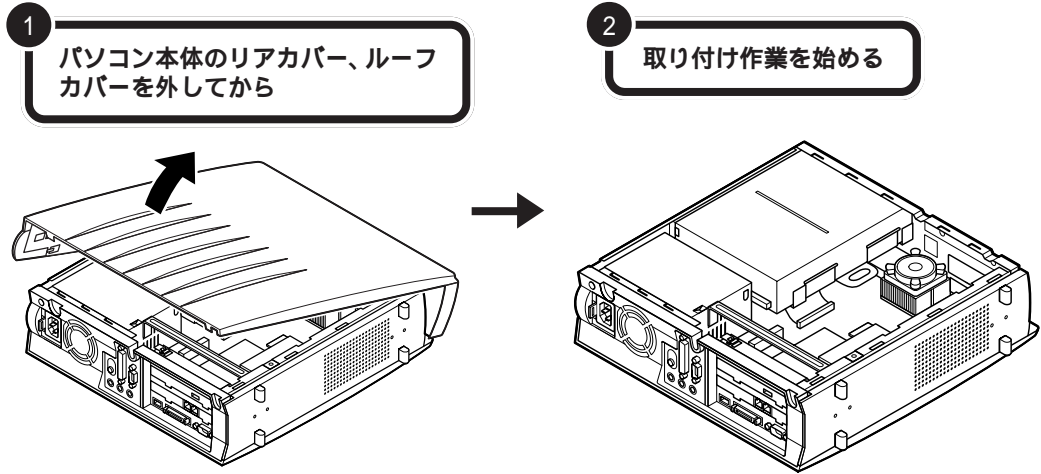
「98Information」のアドレス（URL）　http://www.nec.co.jp/98/
「PCサポート情報コーナー　PICROBO」のアドレス（URL）　http://www.nec.co.jp/picrobo/

パソコンの電源を切ってから取り付けよう

周辺機器を取り付けるときは、原則として、パソコン本体の電源を切り、コンセントから電源ケーブルを抜きます。そうしないと、感電したり、パソコンや周辺機器が故障してしまうかもしれないからです。

3
取り付け作業を始める

USB 対応機器、IEEE1394 対応機器なら、電源を入れたまま取り付けられる

USB対応機器やIEEE1394対応機器は、一般の周辺機器とは異なり、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外したりできるようになっています。ふだんは取り外しておいて、必要になったときに接続し、使い終わったらまた取り外す、というような使い方ができます。

メモリや PCI ボードなどは、本体のカバーを開けて中に取り付ける

メモリを増やすために必要な「増設 RAM サブボード」や、SCSI対応機器などを使うために必要な「PCIボード」などは、パソコン本体の中に取り付ける場所があります。これらの機器を取り付けるときは、パソコン本体のカバーを開けることになります。PART2 の「本体の開け方と閉め方」をよく読んで、慎重に行ってください。

参照　カバーの開け方→ PART2 の「本体の開け方と閉め方」（p.28）

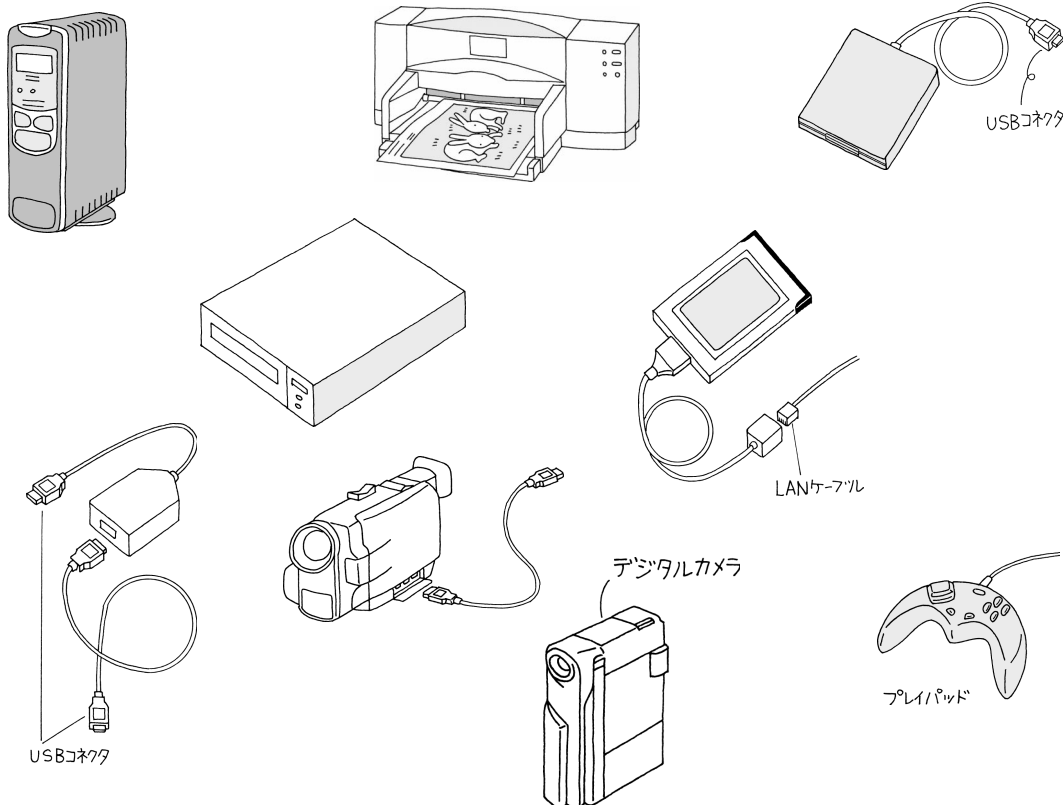
取り付けただけではすぐに使えない周辺機器

ヘッドホンやオーディオ機器のように、パソコンにケーブルを接続しただけでそのまま使い始められるものもあります。ほとんどの周辺機器は、取り付けただけでは使えず、取り付けた後にパソコン上で設定を行う必要があります。
たとえば、

- ハードディスクを増設したら、そのハードディスクをフォーマットする必要がある（詳しくはPART9 を参照）
- プリンタや SCSI インターフェイスボードなどを取り付けたら、「ドライバ」という専用のソフトウェアを設定する必要がある（詳しくは PART2 を参照）
- ターミナルアダプタやスキャナ、プレイパッドなどを取り付けたら、それらを便利に使うためのアプリケーションやユーティリティが必要になる

詳しくは、このマニュアルの各 PART の説明や、お使いの周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

周辺機器選びで失敗しないために

プリンタなどの周辺機器にはさまざまな種類があり、接続の規格にもいろいろあります。機器によっては、このパソコンでは使えないものもあるので注意が必要です。

■事前に情報を集めよう

パソコン雑誌などでは、プリンタやデジタルカメラなど、ジャンル別に周辺機器の新製品を紹介する特集記事が載ることがよくあります。自分の欲しい製品がないか、チェックするときに役立ちます。また、インターネットでは、次のホームページでこのパソコンで使える周辺機器を紹介していますので、参考にしてください。

「98 Information」のアドレス（URL）
http://www.nec.co.jp/98/

「PCサポート情報コーナー　PICROBO」のアドレス（URL）
http://www.nec.co.jp/picrobo/

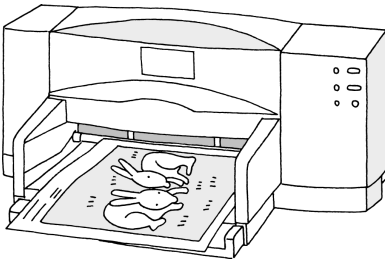
■接続の規格に気をつけよう

このパソコンにはシリアルコネクタ（RS-232C）、パラレルコネクタ（セントロニクスなどと記載）、USBコネクタ、IEEE1394コネクタ、光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子、PCIスロット、PCカードスロットがあります。周辺機器の中には、同じ種類でも複数の規格に対応しているものがあります。規格には、それぞれ適しているもの、適していないものがありますので、購入するときは、パソコンに詳しい友人やパソコンショップの店員さんなどに相談しましょう。

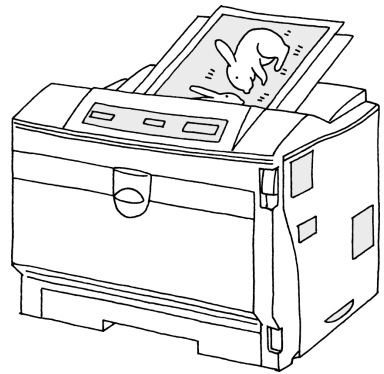
プリンタ

プリンタは、パソコンで作った文書はもちろん、写真なども印刷できます。プリンタの種類もいろいろあります。ここでは、プリンタの種類と接続の流れを簡単に説明します。

プリンタには次のような種類があります。用途に合ったプリンタを選びましょう。

●インクジェットプリンタ

価格が手ごろなものからあり、個人用としては、もっともポピュラーなタイプです。細かい粒子状にしたインクを紙に吹き付けて印刷します。写真などを美しくカラーで印刷できますが、印刷に多少時間のかかるものもあります。

●レーザープリンタ（ページプリンタ）

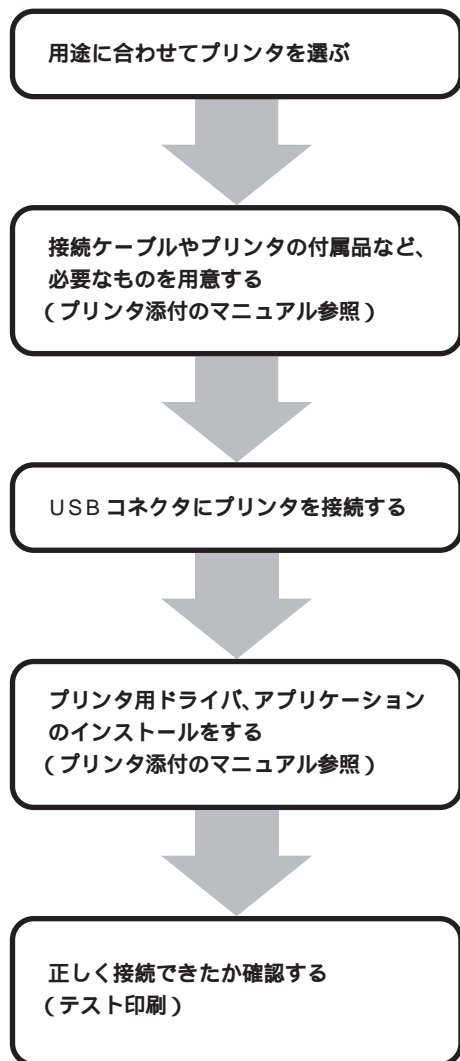
コピー機と同じようにトナーを紙に焼きつけて印刷するプリンタです。音が静かで、高速に印刷ができます。しかし、カラー印刷ができるものは高価なため、モノクロ印刷のものが主流になっています。

●ドットインパクトプリンタ

紙にインクリボンをあてて、その上からピンを打ち付けて印字する方式です。印字文字が粗く、大きな音をたてますが、カーボン紙などを使った複写式の伝票などを印刷するときにこのタイプを使います。

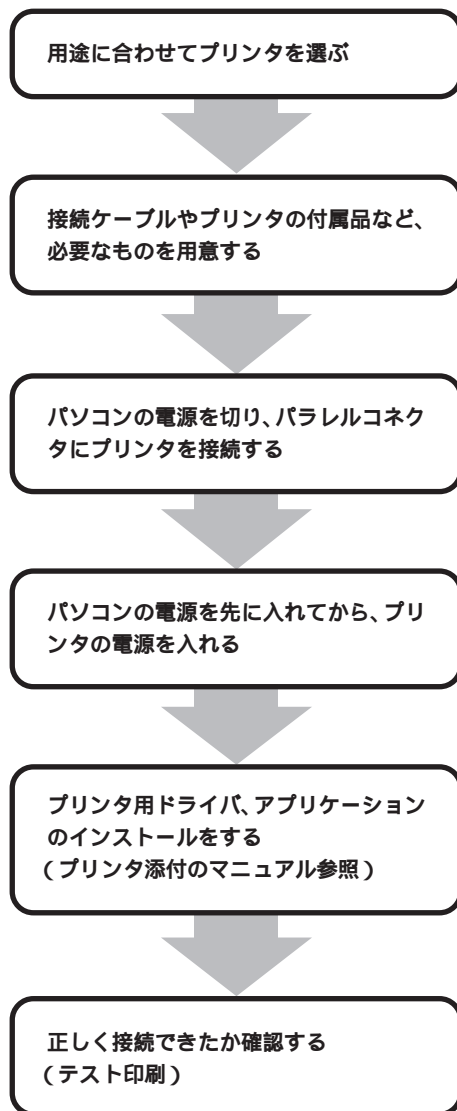
■プリンタを使う

ここではプリンタが使えるようになるまでの手順を説明します。
プリンタは、本体のUSBコネクタまたはパラレルコネクタに接続します。

・USBコネクタに接続する場合

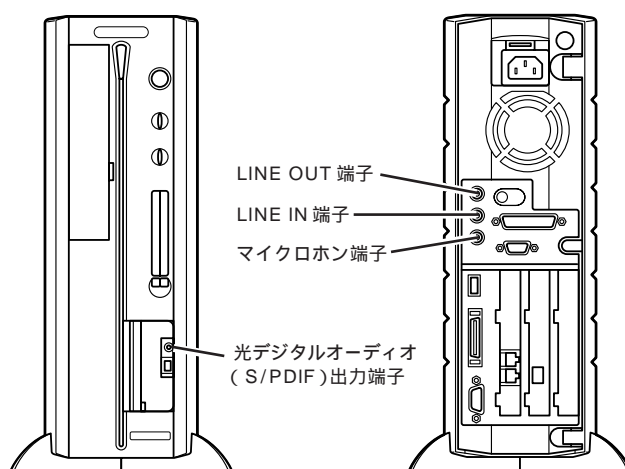
1. 用途に合わせてプリンタを選ぶ
2. 接続ケーブルやプリンタの付属品など、必要なものを用意する（プリンタ添付のマニュアル参照）
3. USBコネクタにプリンタを接続する
4. プリンタ用ドライバ、アプリケーションのインストールをする（プリンタ添付のマニュアル参照）
5. 正しく接続できたか確認する（テスト印刷）

ほとんどの場合、専用のドライバやアプリケーション（プリンタに添付してあるもの）のインストールが必要になります（接続するだけですぐに使えるプリンタもあります）。詳しくはプリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

・パラレルコネクタに接続する場合

1. 用途に合わせてプリンタを選ぶ
2. 接続ケーブルやプリンタの付属品など、必要なものを用意する
3. パソコンの電源を切り、パラレルコネクタにプリンタを接続する
4. パソコンの電源を先に入れてから、プリンタの電源を入れる
5. プリンタ用ドライバ、アプリケーションのインストールをする（プリンタ添付のマニュアル参照）
6. 正しく接続できたか確認する（テスト印刷）

ドライバ

情報をパソコンから周辺機器へ適切に伝えるためのソフトウェアです。周辺機器を接続したとき、最初に一度だけ組み込み（インストール）ます。

AV 機器を接続する

このパソコンにはマイクロホン端子や AV 機器などを接続する端子（光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力、LINE IN、LINE OUT）があります。パソコンの音を外部のスピーカで鳴らしたり、光デジタル対応のオーディオ機器に録音したり、マイクロホンでパソコンに音を取り込んだりすることができます。

上の図はリアカバーを外した状態です。

■光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子

この端子に MD デッキや AV アンプなどのデジタル入力機能を持ったオーディオ機器を接続して音を聴いたり、パソコンで再生した音をオーディオ機器にデジタル録音できます。

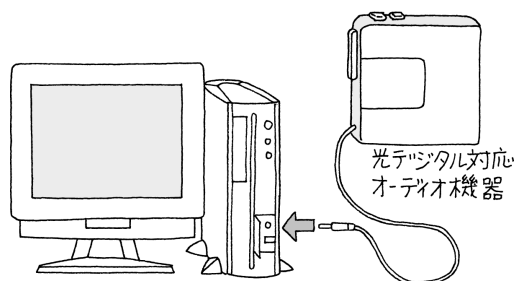
このパソコンには MD にデジタル録音できる Jet-Audio Player がインストールされています。

参照
Jet-Audio Playerについて→「添付ソフトの使い方」-「Jet-Audio Player」

●音源

光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子からは、WAVE音源、MIDI音源が光デジタルで出力されます。また、ドルビーデジタル5.1チャンネル出力（ドルビーデジタルサラウンドに対応。ただし、ドルビーデジタルによる5.1チャンネルで再生するためには、対応したオーディオ機器が必要です）にも対応しています。なお、DTS 出力には対応していません。

チェック!!

・ドルビーデジタル5.1チャンネル出力をするには、対応サウンドドライバへの変更が必要です。詳しくは、「サポートセンタ」→「困ったときのQ&A」→「トラブル解決Q&A」→「追加情報」→「5.その他」の「Q:S/PDIFからドルビーデジタル 5.1 チャンネル出力をしたい」をご覧ください。

・音楽CDを光デジタル出力するには、音楽CDを再生していない状態で「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「マルチメディア」の「音楽 CD」タブをクリックし、「この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする」を☑にして、「OK」ボタンをクリックします。ただし、この場合、音楽CDの再生音を「サウンドレコーダー」で録音することはできません。
・S/PDIFの出力設定の変更は以下のように行います。なお、あらかじめ、CyberTrio-NXをアドバンスモードにしておいてください。
「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「システム」の「デバイスマネージャ」タブで「サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラ」の左の⊞をクリックし、「Creative SB AudioPCI(WDM)」をダブルクリックします。
「Creative SB AudioPCI(WDM)のプロパティ」画面の「設定」タブをクリックし、アウトプットモードを変更します。
オートセンス：この端子に光デジタルケーブルを接続したときは、光デジタルを出力します。ヘッドホン、スピーカを接続したときは音声を出力します。
デジタル　：この端子から光デジタルのみを出力します。ディスプレイのスピーカ、LINE OUT端子から音声は出力されません。
アナログ　：この端子、ディスプレイのスピーカ、LINE OUT 端子から音声を出力します。
・必ず、オーディオ機器の電源を切ってから接続してください。

●オーディオ機器を接続する時の注意

・デジタルオーディオ入力機器によっては光デジタルに対応していないことがあります。そのときは、変換ユニットが別途必要になることがあります。
・デジタル入力を持ったオーディオ機器を接続するときには、市販の光デジタルケーブルを使用してください。
・このパソコンの光デジタル出力のサンプリング周波数は 48kHz です。オーディオ入力機器を接続するときは、そのオーディオ機器が48kHzのサンプリング周波数に対応している必要があります。詳しくは、オーディオ機器のマニュアルで確認してください。
・この端子の形状は光ミニ端子（丸型）です。ただし、プラグ形状によっては使用できないものがありますので、ケーブルは、よくお確かめの上、ご購入ください。

■マイクロホン端子

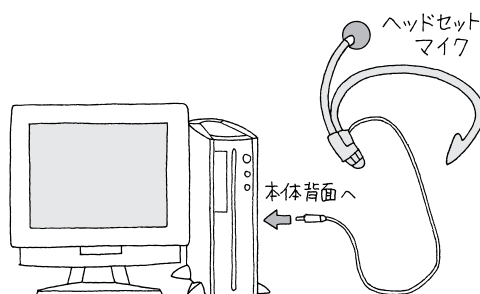
この端子にヘッドセットマイクやマイクロホンを接続して、パソコンに音を取り込むことができます。マイクロホン端子は、本体背面にあります。

●音量の調節

マイクロホンからの入力音量は、Windows 98 の「ボリュームコントロール」の機能で調節します。

●ハウリングについて

マイクロホンを本体のスピーカに近づけると、スピーカから「キーン」という大きな音が出ることがあります。これをハウリング現象といいますが故障ではありません。この場合は、次の対策を行ってください。

・マイクロホンをスピーカから遠ざける
・「ボリュームコントロール」で入力音量（ボリューム）を小さくする

●取り込んだ音声の利用

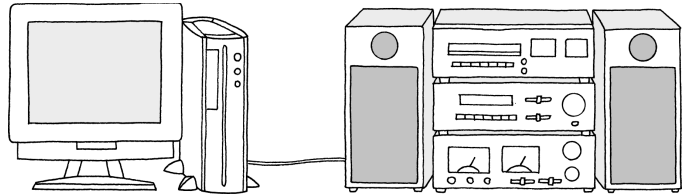
マイクロホンから取り込んだ音声は、「サウンドレコーダー」というアプリケーションを使って録音し、ファイルに保存することができます。詳しくは、サウンドレコーダーのヘルプをご覧ください。

また、このパソコンに添付のヘッドセットマイクを接続して、アプリケーションCD-ROMから「SmartVoice3.0」をインストールすると音声でパソコンの操作や文字の入力を行うことができます。

参照

「SmartVoice」を使う→PART11の「音声でパソコンを操作する」(p.113)

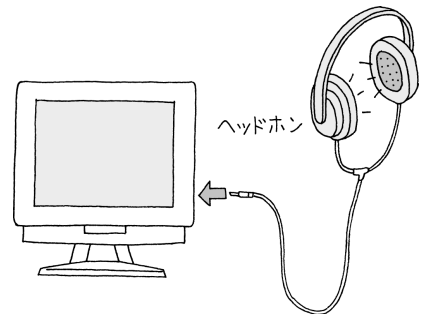
■LINE IN端子

この端子に外部オーディオ機器を接続して、パソコンで音を聴いたり録音したりできます。この端子に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのオーディオケーブルです。

■LINE OUT端子

この端子に外付けスピーカや外部オーディオ機器を接続して、パソコンの音を聴いたり、テープレコーダ等に録音したりできます。この端子に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのオーディオケーブルです。ミニプラグ付きのオーディオケーブルは、パソコン本体とは別売なので、電器店などで購入してください。

ケーブルを外部オーディオ機器側に接続するときは、「LINE IN」、「AUX IN」などの入力端子に接続してください。また、外部オーディオ機器に「MIC IN」しかない場合は、「抵抗入り」のオーディオケーブルを購入してください。

■ヘッドホン端子

この端子にイヤホンやヘッドホンを接続して、パソコンの音を聴くことができます。ヘッドホンは液晶ディスプレイのヘッドホン端子に接続します。この端子に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのヘッドホンです。お持ちのヘッドホンのプラグが大きくて入らないときは、電器店などで「ステレオ標準プラグ→ステレオミニプラグ」変換プラグを購入してください。キーボードの【🔉】【🔊】ボタンで調節しても音量が小さすぎるような場合は、Windows 98の「ボリュームコントロール」の機能で調節してください。

チェック!!

ヘッドホン端子を接続するときは、ボリュームをしぼってから接続してください。

■映像出力端子（TV モデルのみ）

TVモデルのこの端子にテレビを接続することで、パソコンの画像やDVD-Videoの映像を大画面でお楽しみいただけます。

参照

- 映像出力端子→『TV モデルガイド』付録の「本体の各部の名称」
- DVD-Video を見る→「添付ソフトの使い方」-「DVD プレーヤ」

チェック!!

- 接続には別売のビデオケーブルが必要です。
- S 映像入力端子のある AV 機器に接続してください。また、TV モデルに添付の「ビデオ変換ケーブル」を使えば、RCA 端子のある AV 機器にも接続できます。
- この端子に接続した外部ビデオ機器でパソコンの画像を録画することはできません。また、ビデオ機器経由でテレビに表示することもできません（同方式でテレビ出力しているビデオ一体型テレビを含む）。
- この端子に接続した機器で表示できる解像度は、640 × 480、800 × 600、1,024 × 768 ドットです。
- テレビに映し出すと、小さな文字などが判読できなくなる場合があります。
- テレビに表示した画面の位置がずれている場合などは、「Video-out Utility」で調整してください。

● Video-out Utility の使い方

デスクトップ右下のタスクトレイにある をダブルクリックすると、「Video-out Utility」画面が表示されます。
「Video-out Utility」には次のような機能があります。

- 表示位置の調整
  「表示位置調整」の◁、△、▽、▷ボタンで調整する
- 画面拡大（4 倍拡大）機能
- 静止画キャプチャ（フリーズ）機能
- NTSC/PAL 出力切り替え機能

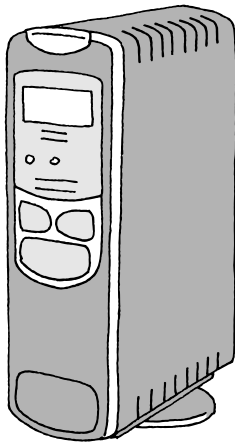
詳しくは、Video-out Utility のヘルプをご覧ください。

ターミナルアダプタ

ここでは、より高速にインターネットを楽しむことができるISDN回線と、このパソコンにつなげられるターミナルアダプタ（ISDNターミナルアダプタ）について簡単に説明します。

ISDN回線を利用すると、モデムと比べてより高速なデータ通信速度でインターネットを楽しむことができます。さらに、次のようなメリットがあります。

・ノイズの混入や信号の減衰がない
・一本の回線で二本分利用できるため、インターネットに接続しながら電話をかけられる

ISDN回線を利用するときには、ターミナルアダプタのほかにDSUという装置が必要です。DSUを内蔵するタイプのターミナルアダプタもあります。

ISDN回線を使って高速でインターネットに接続するには、プロバイダがISDN回線に対応していないと接続できません。

ISDNターミナルアダプタを使う前に次のことを確認してください。

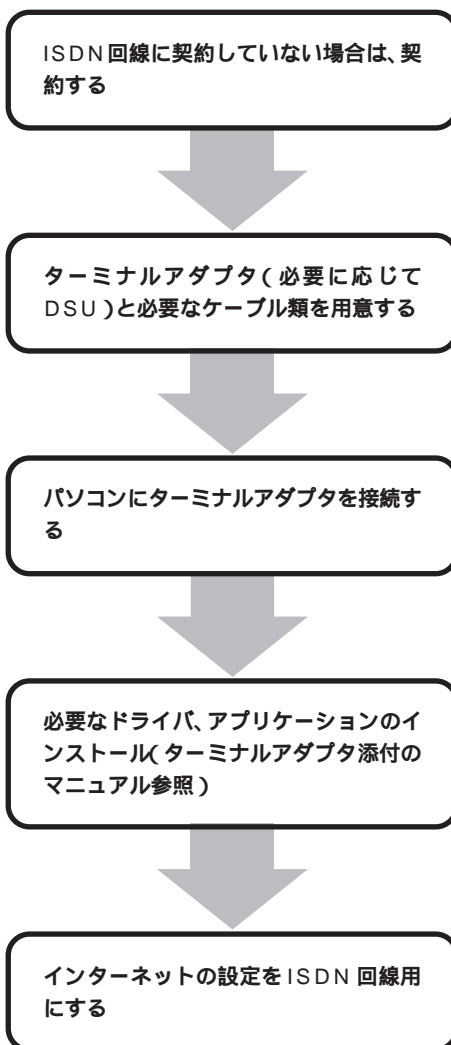
・ISDN回線の契約をしていること
・DSUが内蔵されていること（ターミナルアダプタにDSUが内蔵されていない場合、別途用意してください）
・ISDN回線用のコンセントがモジュラー式になっていること

このパソコンにターミナルアダプタを接続するときは、USBコネクタか、シリアルコネクタに接続します。

■ターミナルアダプタを使う

接続後、ドライバやターミナルアダプタを使うためのアプリケーションのインストールが必要になります。
詳しくはターミナルアダプタに添付のマニュアルをご覧ください。

USB 対応のターミナルアダプタは、本体の USB コネクタに接続します。また、無線対応のターミナルアダプタ（AtermIW50/D）とマルチモバイルカード（AtermRC25）を利用することもできます。こうすると、本体とターミナルアダプタをケーブルで接続する必要がなくなります。

ターミナルアダプタを接続したら、インターネットの設定をISDN回線用に変更してください。

デジタルカメラ

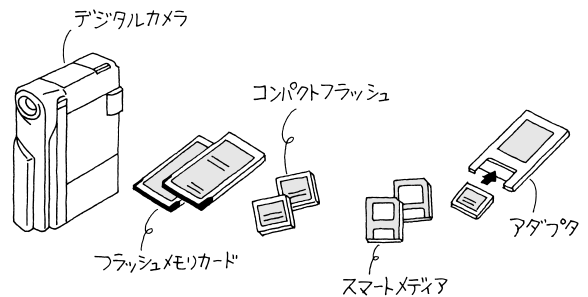
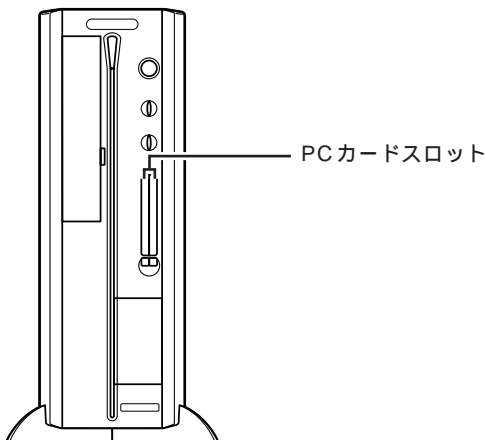
デジタルカメラで撮影した写真(画像)をこのパソコンに取り込んで、画像データとして保存すると、いろいろなアプリケーションで活用できます。

■用意するもの

デジタルカメラによって、パソコンへのデータの取り込み方法が異なります。詳しくはデジタルカメラに添付のマニュアルをご覧ください。ここでは、フラッシュメモリカードに記録するタイプのものを例として説明しています。

・デジタルカメラ
・フラッシュメモリカードまたは PC カードスロット用のアダプタ

フラッシュメモリカードに写真を記録するタイプのデジタルカメラの場合、カメラからフラッシュメモリカードを取り出して、そのままこのパソコンの PC カードスロットに取り付けることができます。

コンパクトフラッシュやスマートメディアなど、小型のメモリカードに写真を記録するデジタルカメラの場合、小型のメモリカードをPCカードスロットにセットできるようにするための専用のアダプタが必要になります。

■画像データを取り込む

デジタルカメラで写真を撮る

↓

PCカードスロットにメモリーカードをセットする(必要に応じてPCカードスロット用のアダプタを使う)

↓

画像を取り込む(デジタルカメラのマニュアル参照)

参照

PC カードの取り扱い方→「PART5 PC カードを使う」(p.49)

このパソコンには画像などを編集して電子アルバムなどにできる ThumbsStudio がインストールされています。

参照

ThumbsStudio について→「添付ソフトの使い方」-「ThumbsStudio」

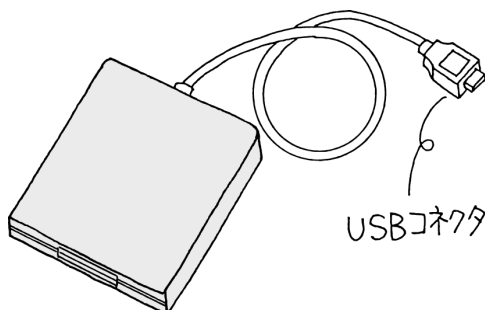
その他の機器のご紹介

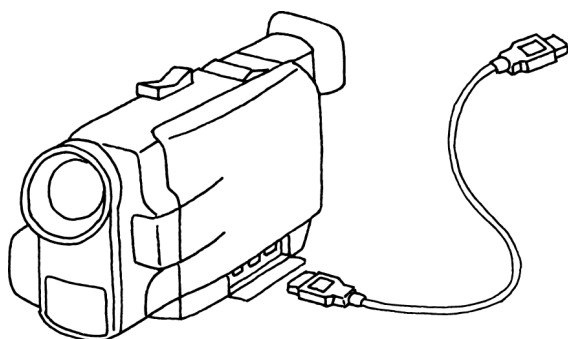
その他の周辺機器の紹介です。ここでは比較的よく使われる周辺機器を簡単に説明します。周辺機器選びの参考にしてください。

■ 3.5 インチフロッピーディスクドライブ

3.5 インチフロッピーディスクドライブは、もらったフロッピーディスクのデータを読み取ったり、このパソコンのデータをフロッピーディスクに書き込んだりするために必要な周辺機器です。

フロッピーディスクは、記憶容量がハードディスクの数千分の 1 以下しかありませんが、文字や数字が中心のデータをやりとりするには、もっとも手軽に使える記録メディア(媒体)です。最近は、インターネットや電子メールでデータをやりとりすることが多くなりましたが、インターネットに接続していない人へデータを渡すときには、フロッピーディスクが便利です。

3.5 インチフロッピーディスクには「2HD」(1.44M バイト)と「2DD」(720K バイト)の 2 種類の規格がありますが、一般に販売店で売られているのは「2HD」(1.44M バイト)が主流です。

チェック!!

正規ユーザ登録時に、フロッピーディスクユニットをご希望されると「USB 対応フロッピーディスクユニット」をプレゼントいたします(2001 年 3 月 31 日まで)。詳しくは、『はじめにお読みください』PART3 の「正規ユーザの登録を行う」をご覧ください。なお、フロッピーディスクユニットのデザインは、時期によって異なる場合がありますのでご了承願います。

■デジタルビデオカメラ

このパソコンにデジタルビデオカメラを接続すると、ビデオ映像をパソコンに取り込むことができます。
また、DV 端子(IEEE1394 コネクタ)付のデジタルビデオカメラなら、一本のケーブルで映像も音声も高速に取りこむことができます。

デジタルビデオカメラの接続方法や使用方法については、「PART4 IEEE1394対応機器を使う」および、デジタルビデオカメラに添付のマニュアルをご覧ください。

参照

IEEE1394 について→「PART4 IEEE1394 対応機器を使う」(p.45)

このパソコンには映像を編集できる VideoStudio が添付されています。

参照

VideoStudio について→「添付ソフトの使い方」-「VideoStudio」

■外付け用ハードディスクドライブ

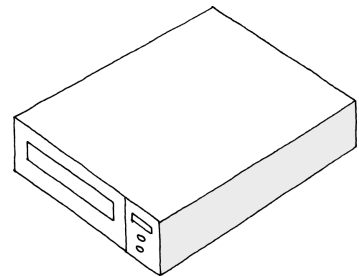
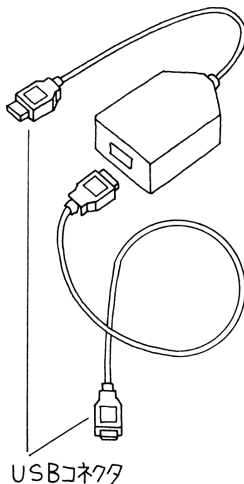
データをたくさん保存したり、多くのアプリケーションをインストールしていくとハードディスクが足りなくなってきます。そんなときは外付け用ハードディスクを増設して容量を増やすことができます。

■ MO ディスクドライブ

3.5 インチ MO ディスク（光磁気ディスク）を扱うことができるドライブです。3.5 インチ MO ディスクの記憶容量は 128M バイト、230M バイト、540M バイト、640M バイト、1.3G バイトがあり、扱えるディスクがドライブの種類によって異なります。日本国内でもっとも普及している大容量メディアです。

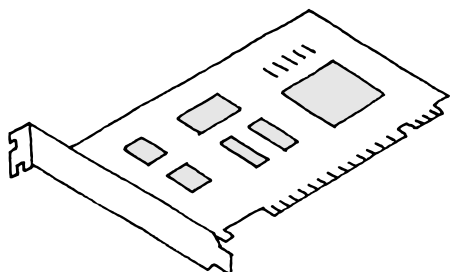
このほかに PD、Zip、Jaz などの大容量メディアがあります。

■ DVD-ROM ドライブ

CD-ROM の約 7 倍にあたる 4.7G バイト（片面の場合）のデータを記録できる読み出し専用のDVD-ROMを再生できるドライブです。D VD-ROM は映画や音楽などを楽しむメディアとして普及がはじまっています。DVD-ROM ドライブでは、DVD-ROM、CD-ROM、CD-R/RW ドライブで保存した CD-R や CD-RW が利用できます。

■ USB リンクケーブル

USB インターフェイスを使って、複数のパソコン同士（4 ～ 5 台までを推奨）を USB リンクケーブル（PK-UP010）で接続すると、LAN ボードや LAN カードで接続したときと同じようにデータの移動、ファイルやプリンタの共有などができるようになります。

USB インターフェイスを搭載したパソコン同士なら LAN ボードや LAN カードを使うよりも手軽で簡単に接続できます。

参照
USB 対応機器の使い方→「PART3 USB 対応機器を使う」（p.35）

■ PCIボード

PCIボードには次のようなものがあります。

・SCSIインターフェイスボード
このパソコンにハードディスクドライブや、MOディスクドライブなどのSCSIインターフェイス対応機器を接続するためのボードです。

参照
SCSIインターフェイスボードを使う→「PART8 SCSIインターフェイス対応機器を使う」（p.71）

・3Dグラフィックアクセラレータボード
3Dグラフィック、2Dグラフィックを高速描画することができるボードです。CADや3Dグラフィックス、3Dゲームなどに対応しています。また、動画の再生もなめらかに表示することができます。2Dアクセラレーション機能もありますので、アプリケーションでも高速画面描画することができます。

・衛星インターネットボード
衛星を利用したインターネット高速接続サービスを利用するためのボードです。ホームページの閲覧やダウンロードサービスなどのスピードが最大1Mbps（受信側のみ）と高速なので、何十メガバイトもあるデータや情報を短時間でダウンロードすることができます。ただし、インターネットが混雑しているときなどは、通信速度が遅くなってしまうこともあります。

・LANボード
LANボードはこのパソコンをLAN（Local Area Network）に接続するためのPCIボードです。LANは同じ建物の中など比較的近距離で、複数のコンピュータを接続したネットワークのことです。LANでコンピュータ同士を接続すれば、データの移動、ファイルやプリンタの共有などが簡単にできるようになります。

LANに接続するためのコネクタには、いくつかの異なる規格があります。現在市販されているLANボードの多くは100BASE-TXまたは10BASE-Tという規格のコネクタに対応するものです。それ以外のコネクタに接続する場合、パソコンの販売店などにご相談ください。また、LANボードと同じ機能を持つものにLANカードがあります。LANカードはPCカードスロットに取り付けます。

PCIボードは、ここで紹介しているものの他にもいろいろなメーカーから、多種多様な機能を持つものが発売されています。これらのPCIボード購入時には、必ずこのパソコンで動くかどうかメーカー、ご購入元で確認してください。

参照
PCIボードの使い方→「PART6　PCIボードを使う」（p.57）

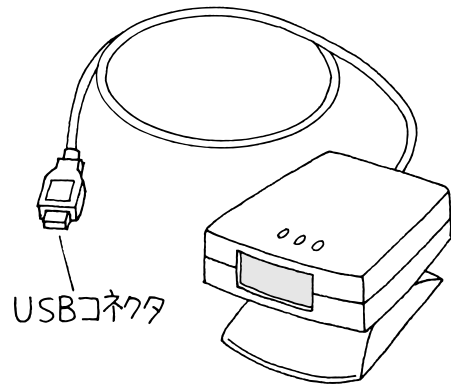
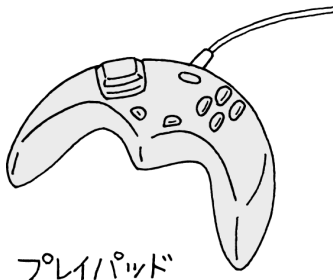
■赤外線通信インタフェースユニット

赤外線通信インタフェースユニット（PK-UP007）を使えば、赤外線通信に対応したノートパソコンなどとケーブルで接続しなくてもデータをやりとりできます。

赤外線通信は、無線でデータのやりとりができますが、通信できる距離や角度などに制限があります。詳しくは赤外線通信インタフェースユニットのマニュアルをご覧ください。

このパソコンで赤外線通信インタフェースユニットを使うときは、USB コネクタに接続します。

参照

USB 対応機器の使い方→「PART3 USB 対応機器を使う」（p.35）

■プレイパッド

ゲームを楽しむときに使うゲーム専用のコントローラです。このパソコンには、プレイパッド（PK-GP101E）が接続できます。
このパソコンでプレイパッドを使うときは、USBコネクタに接続します。

参照

USB 対応機器の使い方→「PART3 USB 対応機器を使う」（p.35）

PART

2

機器を取り付ける前に

メモリを増設したり、いろいろなボードや周辺機器を取り付けることで、より快適な使用環境を整えることができます。しかし、周辺機器の中には、接続してからさまざまな設定や準備が必要になるものがあります。
ここでは、これらの機器を取り付けるときに必要な準備と作業の方法について説明します。

接続から準備完了までの流れ

**周辺機器を接続すると、パソコンの画面に見慣れない表示が出てきて、そのまま止まってしまったように思えることがあります。「故障かな？」とあわてる必要はありません。
はじめて新しい機器を接続したあとの流れは、次の 3 通りのパターンに分かれます。あらかじめ頭に入れておきましょう。**

ドライバなどをインストールする

接続した周辺機器を使うためにはほとんどの場合、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。
ドライバは、周辺機器によって異なります。あらかじめパソコンに用意されているドライバが使える場合と、周辺機器に添付されているドライバが必要な場合があります。

●プラグ＆プレイに対応していない周辺機器の場合

プラグ＆プレイに対応していない周辺機器の場合、ドライバや、専用のアプリケーションのインストールは手動で行います。
詳しくは周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

●プラグ＆プレイに対応している周辺機器の場合

下のような画面が表示されたら、まずは画面の指示にしたがって作業を進めます（ 次へ＞ をクリックしていってください）。

・パソコンに用意されていたドライバが使える場合

下のような画面が表示された場合は、このパソコンにあらかじめ用意されていたドライバがインストールされました。そのまま 完了 をクリックしてください。

これでドライバのインストールは終了です。

プラグ＆プレイ
パソコン本体に周辺機器をつなぐと自動的に種類を認識して必要な設定を行う機構。
つなぐだけですぐに使えることから付いた呼び名です。

Windows を再起動する必要がある場合があります。そのときは画面の指示にしたがって、再起動してください。

・周辺機器に添付のドライバが必要な場合

下のような画面が表示されるのは、周辺機器に添付のドライバが必要な場合です。この場合は周辺機器に添付のマニュアルをご覧になりドライバをインストールしてください。

周辺機器によっては専用のアプリケーションをインストールする必要があることがあります。詳しくは、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

Windows を再起動する必要があることがあります。そのときは画面の指示にしたがって、再起動してください。

周辺機器によっては、フロッピーディスクでドライバが添付されていることがあります。その場合は、別売のUSB対応フロッピーディスクドライブを使うか、ホームページ上からドライバを入手できないか周辺機器のメーカーにお問い合わせください。

周辺機器の取り外しと再接続

プリンタなどのUSB対応機器、デジタルビデオカメラなどのIEEE1394対応機器、メモリカードなどのPCカードは、パソコンの電源を入れたまま、取り付け、取り外しができます。
同じ周辺機器を再接続したときは、ドライバなどをインストールする必要はありません。ただし、画面が少しのあいだ止まったり、何か画面が表示されたりすることがあります。画面が表示されたら、その指示にしたがってください。これは装置の故障ではありません。しばらく待てば使えるようになります。

チェック!!

PCカードの取り外しを正しい手順で行わないと、このパソコンが正常に動作しなくなることがあります。PCカードの取り外しを行うときは、必ず正しい手順で取り外してください。

参照

PCカードの取り外し→PART4の「PCカードの入れ方と出し方」(p.51)

機器を取り付けるときのご注意

本体を開けて、機器を取り付けるときには、次の点にご注意ください。

⚠警告

雷が鳴り出したら、パソコンやアンテナ線、電源ケーブル、ディスプレイのケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル（電話線）、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

⚠注意

本体内部に手を入れるときは、指をはさんだり、ぶつけたり、切ったりしないように注意してください。

濡れた手で触らないでください。

電源ケーブル、ACアダプタがコンセントに接続されているとき、濡れた手で本体に触れると感電の原因となります。

電源ケーブル、ACアダプタがコンセントに接続されているときは、本体のカバー類を外さないでください。

感電の原因となります。

周辺機器の取り付けや取り外しをするときは、必ず電源ケーブル、ACアダプタのプラグを、コンセントから抜いてください。

パソコンや周辺機器の故障や感電の原因となります。

このパソコンの使用直後は、CPUやCPUの周辺に触れないでください。

CPUが高温になっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。

電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜いてください。

ケーブルを引っ張って抜くと、断線して火災の原因となります。

本体を解体した状態で使用しないでください。

感電や火災の原因となります。

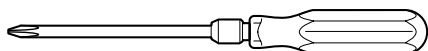
ACアダプタはTVモデルのみに添付されています。

本体の開け方と閉め方

メモリを増設したり、いろいろなボードをパソコンに組み込むときには、本体のリアカバー（本体背面に取り付けられているカバー）とルーフカバー（本体上面をおおっているカバー）を外す作業が必要となります。ここでは、その作業について説明します。

用意するもの

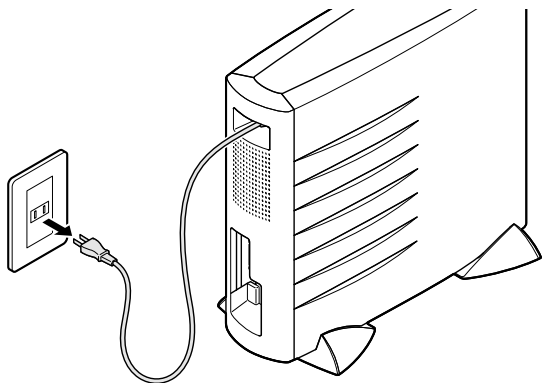
●プラス（＋）ドライバー

ネジ山に合った先端のものを使ってください

ネジの取り外し、取り付けの際に、本体内部にネジを落とす可能性があるため、なるべくドライバーの先端が磁石になったものをおすすめします。

リアカバーの外し方

1 本体と、プリンタなど周辺機器の電源を切る

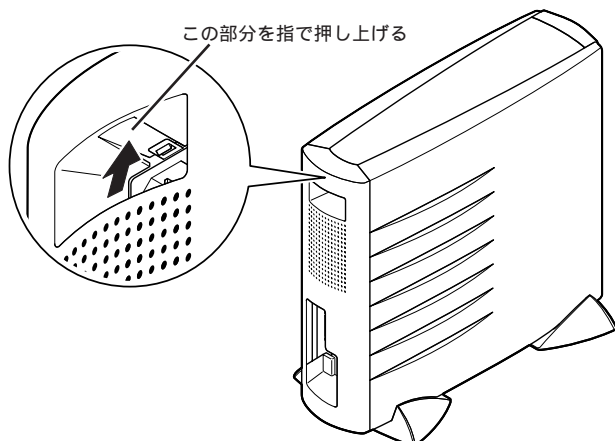
チェック!!
TV モデルにはリアカバーは添付されていません。

2 本体の電源ケーブルをコンセントから抜く

3 本体に接続されているケーブルをすべて取り外す

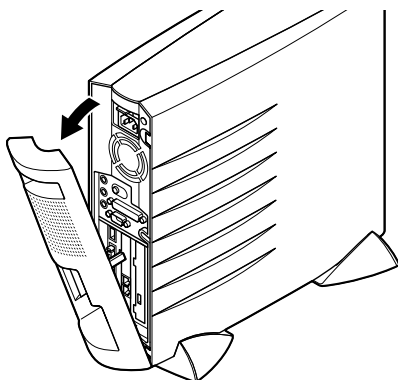
チェック!!
ここで取り外したケーブルは、メモリやボードなどの増設が終わり、ルーフカバーを取り付けたあとで、もとどおりに接続することになります。外す前に、どのコネクタにどのケーブルが接続されているのかを確認しておきましょう。

4 リアカバー上部のフックを図のように押して、

チェック!!

フックを強く押しすぎると破損することがあります。

5 ゆっくりとリアカバーを矢印の方向に倒す

チェック!!

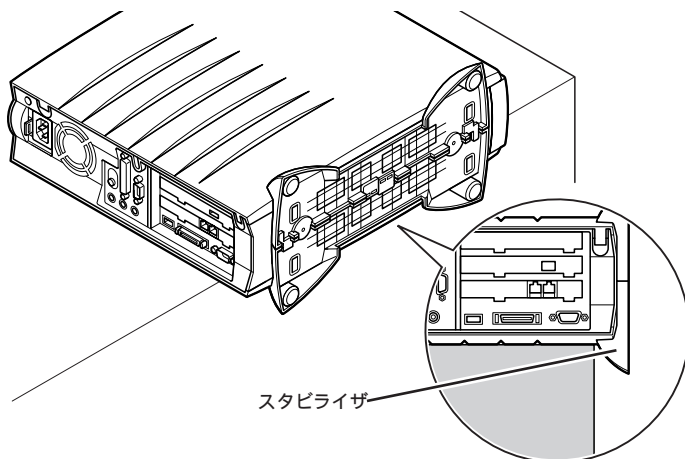
リアカバーを取り外すときは、ゆっくりと外してください。勢いよく外すとカバーやフックが破損することがあります。

6 そのまま上方向に持ち上げて取り外す

ルーフカバーの外し方

リアカバーを外したら、ルーフカバーを取り外します。

1　本体の左面（正面から見て左側）を上に向けて静かに横に倒し、底面のスタビライザがはみ出るように机の端などに置く

本体を横に倒すときは、本体を安定させるためや机やテーブルなどを傷つけたりしないために、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。

スタビライザを外したときに本体が衝撃を受けないように、ちょうどスタビライザの高さの分だけ、本体が机の端などからはみ出るように置いて安定させます。

2　用意したドライバーで本体底面のネジを 2 本外す

外したネジをなくさないように、大切に保管してください。

3　スタビライザを取り外す

スタビライザを落下させないよう、スタビライザを手に持って取り外してください。

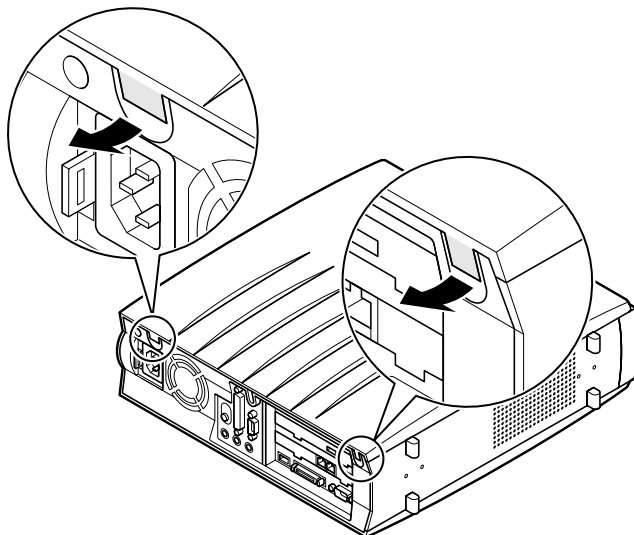
4 ダミーカードを取り出す

参照

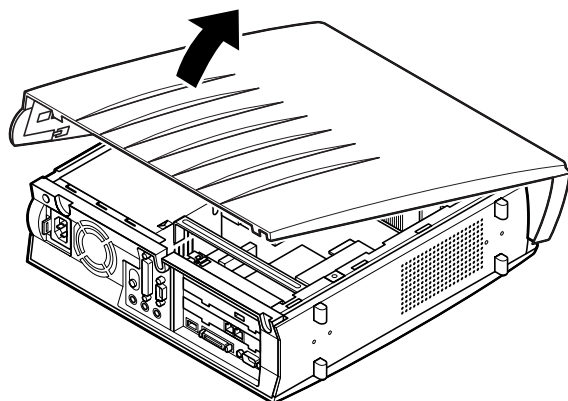
ダミーカードの取り出し方→PART5の「ＰＣ カードの入れ方と出し方」（p.51）

5 下の図のように本体背面のフックを外す

チェック!!

・フックを外すときは、指をはさんだり、切ったりしないよう注意してください。
・本体背面のフックを強くひっぱらないようにしてください。フックが破損することがあります。

6 フックの部分を持ったまま矢印の方向にルーフカバーを持ち上げる

チェック!!

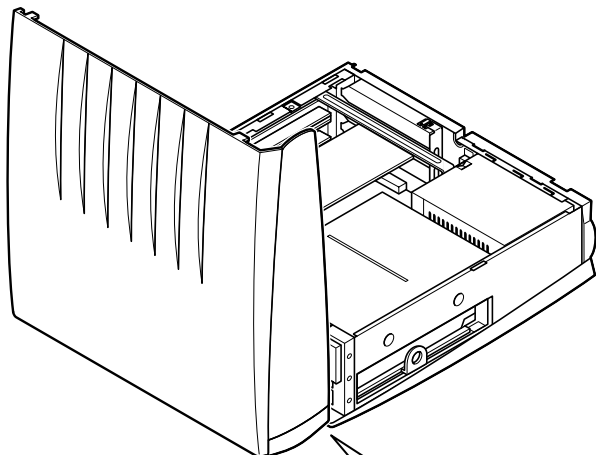
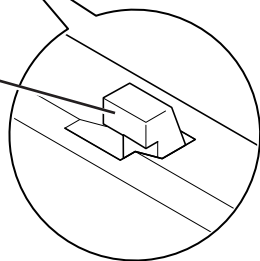
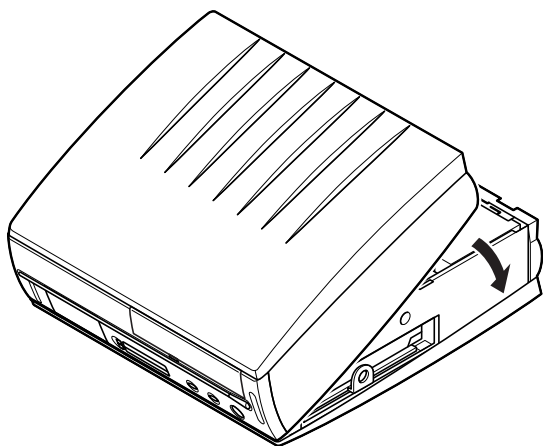
ルーフカバーを取り外す際、PCカードスロットのイジェクトボタンが押し込まれていることを確認してください。また、フロントマスクのシャッター部分に触れないように注意してください。

7 そのままゆっくりルーフカバーが垂直になるまで持ち上げて、正面下側のツメに注意して取り外す

チェック!!

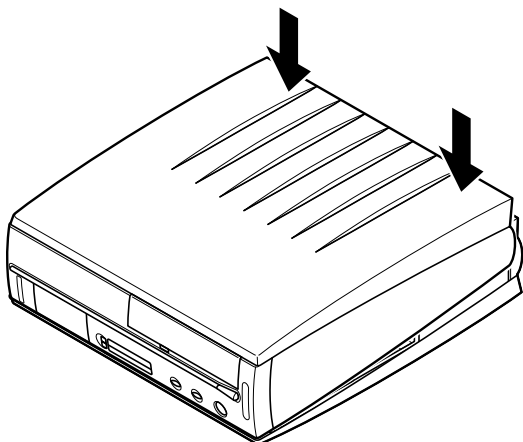
ルーフカバーを取り外す際は、ゆっくりと外してください。勢いよく外すとカバーやツメが破損することがあります。

ルーフカバーの取り付け方

機器の取り付けが終わって、ルーフカバーをもとどおりに取り付けるときは、外すときと逆の順番で作業を進めてください。

1 ルーフカバーを垂直状態にして、本体側のツメにカバー正面裏側の穴をはめ込む

2 ルーフカバーをゆっくりと下げる

チェック!!

- このとき、内部のケーブルや部品を引っかけたり、はさんだりしないように気をつけてください。
- ルーフカバーを取り付ける際、PCカードスロットのイジェクトボタンが押し込まれていることを確認してください。また、フロントマスクのシャッター部分に触れないように注意してください。
- ルーフカバーを取り付ける際は、ゆっくりと取り付けてください。勢いよく取り付けるとカバーやツメが破損する場合があります。

3 上から軽く押して本体背面のフックをはめ込む

4 「ルーフカバーの外し方」の手順1から3（p.30）で取り外したスタビライザをもとどおりに取り付ける

5 ダミーカードを取り付ける

参照

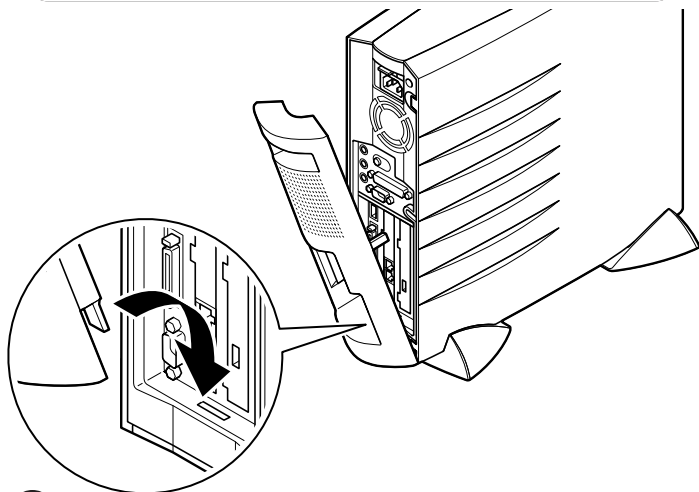
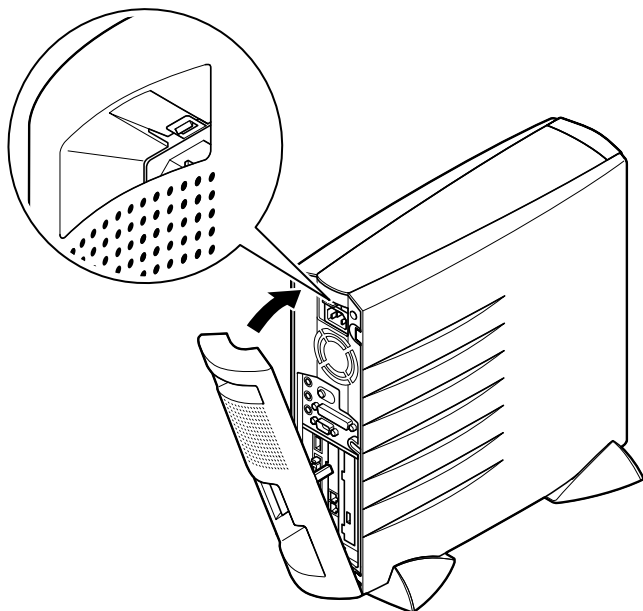
スタビライザの取り付けについて→『はじめにお読みください』PART2の「パソコン本体にスタビライザを取り付ける」

参照

ダミーカードの取り付け方→PART5の「PC カードの入れ方と出し方」（p.51）

リアカバーの取り付け方

リアカバーの取り付けは、取り外すときと逆の順番で作業を進めてください。

1 **リアカバー下部のフックを図のように本体に差し込む**

2 **リアカバー上部のフックをもとどおりにセットする**

3 **「リアカバーの外し方」の手順 3（p.2 8）で取り外したケーブルをもとどおりに取り付ける**

TV モデルには、リアカバーは添付されていません。

チェック!!

リアカバーを取り付けるときは、ゆっくりと取り付けてください。勢いよく取り付けるとカバーやフックを破損することがあります。

参照

ケーブルの接続→『はじめにお読みください』の「PART2 パソコンの接続をする」

PART

3

USB対応機器を使う

USBコネクタには、いろいろな周辺機器を接続して利用することができます。ここでは、USB対応機器の使い方について説明します。

ユーエス ビー
USBとは

USB（ユーエスビー）は、パソコン用インターフェイスの新しい規格です。まずは、このパソコンでUSB対応機器を使うための基礎知識を知っておきましょう。

USBは、Universal Serial Bus（ユニバーサル シリアル バス）の頭文字をとったものです。

インターフェイス

パソコンと周辺機器を接続するコネクタなど、機器を接続するときに必要な共有される部分のことです。

USBなら簡単接続

USB対応機器は、電源を入れた状態のままで接続します。

参照

USB対応機器を使用するときの注意
→このPARTの「USB対応機器を使用するときの注意」（p.43）

本体の電源を入れてWindowsを起動する（→p.39）

プリンタなど、電源スイッチのある周辺機器を利用する場合、あらかじめ周辺機器の電源を入れてから接続してください。

必要に応じてUSB対応機器側の設定を行う

USB対応機器のマニュアルで確認してください。

USBコネクタにプラグを差し込む（→p.39）

パソコンのUSBコネクタにプラグを差し込むと、自動的に設定が始まります。

機器によっては、ドライバの設定作業が必要になることがあります。また、プラグを差し込む前にドライバをインストールする必要のある機器もあります。

正しく接続できたか確認する（→p.41）

確認のしかたは、機器によって異なります。

設定が終わったら準備完了。
すぐに使い始めることができます。

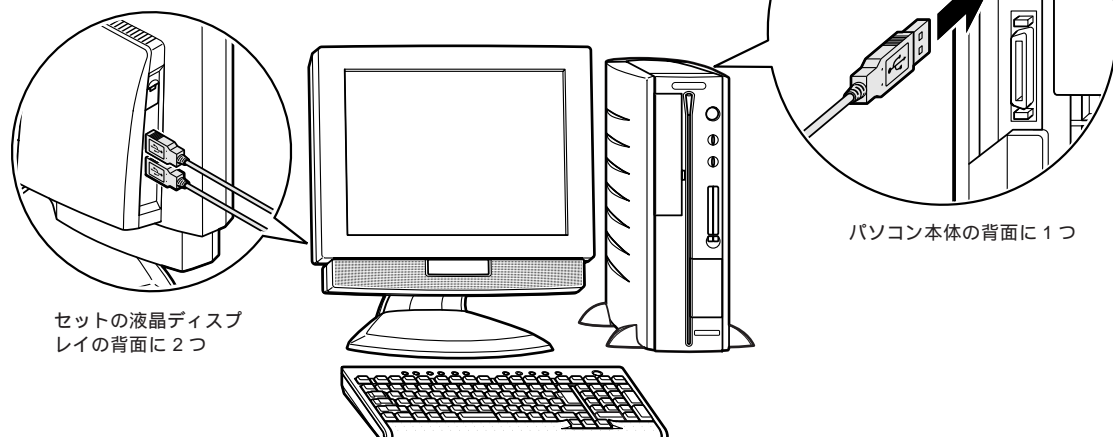
機器によっては、この後、ソフトウェアのインストールなどの作業が必要になります。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

USB対応機器は、一般の周辺機器とは異なり、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外したりできるようになっています。ふだんは取り外しておいて、必要になったときだけ接続し、使い終わったら、また取り外す、というような使い方ができます。

USB コネクタについて

このパソコンには、本体の背面に１つ、セットの液晶ディスプレイの側面に２つの合計３つのUSBコネクタが用意されています。接続する機器に応じて、どのコネクタを使用しても構いません。もちろん、すべてのコネクタに別々のUSB対応機器を接続して、たくさんの機器を同時に使用することもできます。

パソコン本体の背面に１つ

セットの液晶ディスプレイの背面に２つ

なお、標準で用意されているUSBコネクタだけで足りないときは、別売の「USB ハブ」を接続して、コネクタの数を増やすことができます。

参照

各 USB コネクタへの差し込み方→このPARTの「USBコネクタにプラグを差し込む」（p.39）

参照

USB ハブについて→この PART の「USB ハブを使う」（p.42）

USB対応機器を接続する

パソコンの電源を入れたままの状態でUSB対応機器を接続すると、自動的に設定が始まります。設定が終わったら、すぐに使い始めることができます。

⚠警告

雷が鳴り出したら、パソコンやアンテナ線、電源ケーブル、ディスプレイのケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル（電話線）、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

接続する前に

USB対応機器を接続する前に、次の準備が必要です。

●接続するUSB対応機器のマニュアルを読む

あらかじめ、機器に添付のマニュアルをよく読んでおきます。
機器によっては、接続する前にドライバのインストールや、各種設定スイッチ等の設定が必要な場合があるので、マニュアルにしたがって設定します。接続後に設定が必要になることがあるので、CD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば、用意しておきます。

参照

USB対応機器を使用するときの注意
→このPARTの「USB対応機器を使用するときの注意」（p.43）

チェック!!

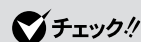
USB対応機器によっては、このパソコンにあらかじめドライバが用意されているものがあります。

チェック!!

USB対応機器に、Windows 95対応のドライバしか添付されていないこともあります。その場合、USB対応機器をWindows 98で使うために専用のドライバが別に必要となることがあります。詳しくは、機器に添付のマニュアルや、機器のメーカーまたはご購入元などにお問い合わせください。

●パソコンの電源を入れておく

USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態で接続できます。あらかじめパソコンの電源を入れて、Windowsが使えるようにしておきましょう。

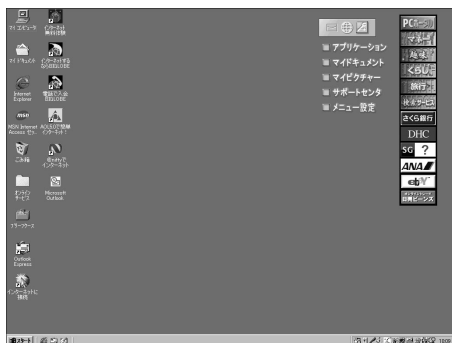
チェック!!

USB 対応機器によっては、フロッピーディスクでドライバが添付されていることがあります。その場合は、別売の USB 対応フロッピーディスクドライブを使うか、ホームページ上からドライバを入手できないか、USB対応機器のメーカーにお問い合わせください。

USB コネクタにプラグを差し込む

1

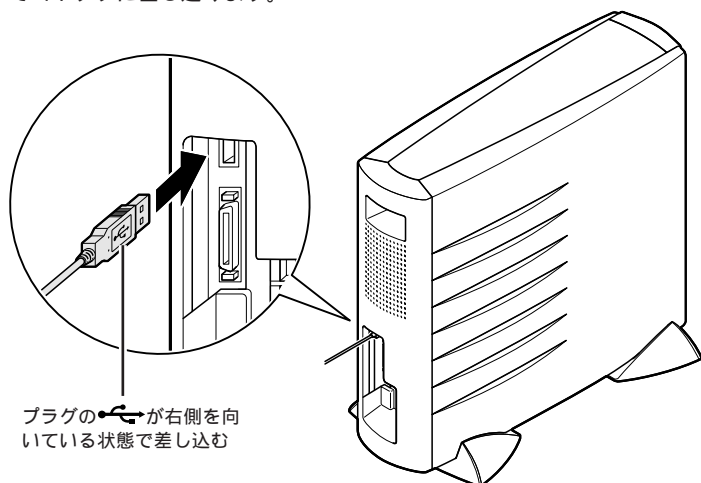
パソコン本体の背面、液晶ディスプレイのUSBコネクタに、プラグを差し込む

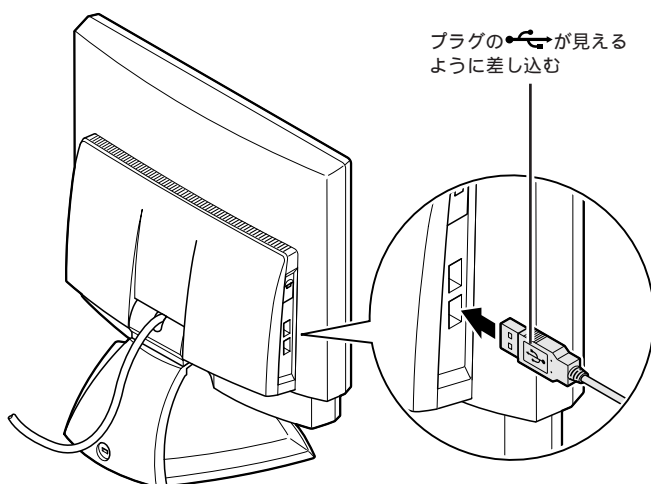
プラグを差し込むときの向きは、どこのUSBコネクタを使うかによって異なります。次の説明を参照して、正しく差し込んでください。

プラグを差し込んでそのまま待っていると、
自動的に画面の表示が切り替わり、

Windows デスクトップの画面に戻る

Windows デスクトップの画面に戻らずに次のような画面が表示された場合は、「PART2 機器を取り付ける前に」(p.23) をご覧ください。

●本体背面の USB コネクタを使う

本体背面のUSBコネクタを使う場合は、プラグの⭠マークを右に向けてコネクタに差し込みます。

●セットの液晶ディスプレイ背面の USB コネクタを使う

液晶ディスプレイのUSBコネクタを使う場合は、プラグの⭠マークが見えるようにコネクタに差し込みます。

USB コネクタは 2 つ並んでいます。どちらのコネクタに差し込んでも構いません。また、USB 対応機器を 2 つ同時に接続できます。

正しく接続できたかどうか確認する

接続したUSB対応機器が正しくパソコンに認識されるかどうかを確認します。確認する方法は、機器の種類によって異なります。また、機器によって下記の方法では確認できない場合もあります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

機器によっては、続けて別の設定作業が必要になります。USB対応機器に添付のマニュアルなどで確認してください。

●USB 対応プレイパッド

「コントロールパネル」の「ゲームコントローラ」をダブルクリックして表示される画面から、操作テストを行えます。

●USB 対応プリンタ

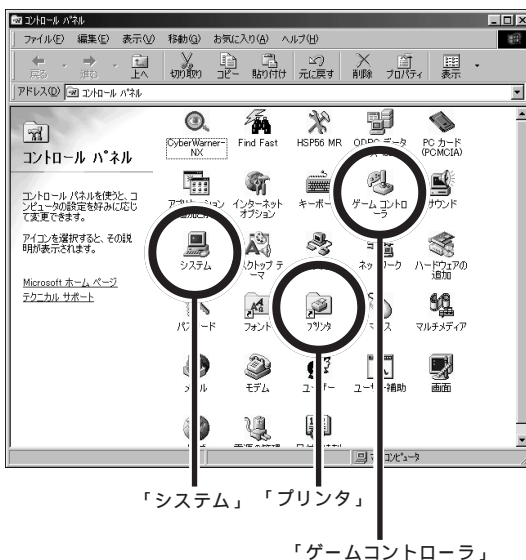
「コントロールパネル」の「プリンタ」をダブルクリックし、接続したプリンタ名が表示されることを確認します。

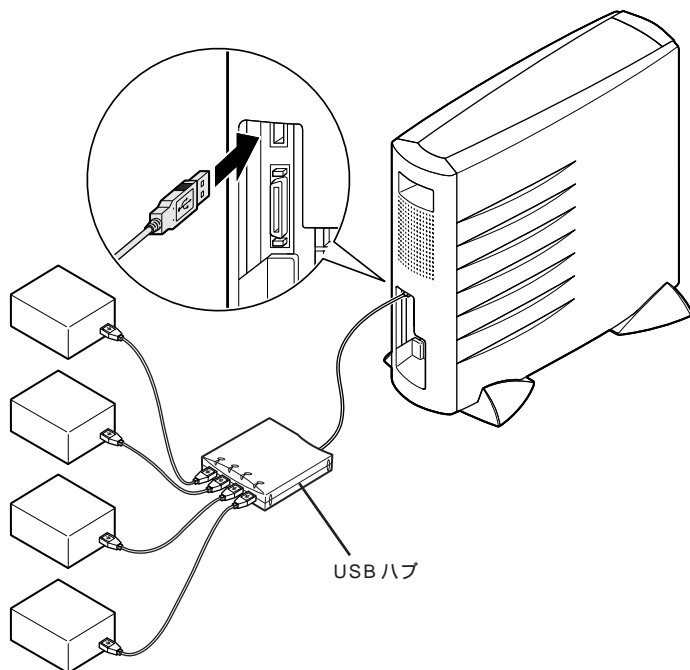
●その他の USB 対応機器

接続を確認する方法は、機器のマニュアルをご覧ください。

一般に、「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックし、「デバイスマネージャ」を表示して、接続した USB 対応機器が登録されていれば、正しく接続されています。なお、デバイスマネージャを表示するには、CyberTrio-NXのモードを「アドバンストモード」にする必要があります。

参照
デバイスマネージャについて→PART10の「デバイスのリソース設定の変更」(p.96)

コントロールパネルの画面

USB ハブを使う

別売のUSB ハブ（PK-UP002 など）を使えば、1 つのUSB コネクタを複数のUSB コネクタに分岐して増やすことができます。このUSB ハブを何台も使えば、規格上127 台（パソコン1 台あたり：USB ハブの数も入れて）までの周辺機器を接続することができます。

チェック!!

USB ハブにキーボードやUSB対応機器を接続する場合、本体に先にUSBハブを接続してから接続してください。USB キーボードを別売のUSBハブに接続するときは、次の手順で接続してください。

1. 本体のUSB コネクタにキーボードを接続する
2. 本体の空いているUSB コネクタにUSB ハブを接続して認識させる
3. USB ハブにキーボードを接続する

PK-UP002 の場合、4 つのUSB対応機器を接続することができます。

USB ハブの詳しい使い方については、USBハブのマニュアルをご覧ください。

チェック!!

複数のUSB機器を同時に使うと、機器によっては処理速度が低下することがあります。

USB 対応機器を使用するときの注意

- USB コネクタの抜き差しを行うときは、3 秒以上間隔をおいて行ってください。
- USBデバイスが正常に認識されていない場合は、いったんUSBコネクタを抜いて、もう一度差し込んでください。
- スタンバイ状態のときやスタンバイ状態に移行中または復帰中のときは、USB コネクタの抜き差しを行わないでください。
- USB ハブ経由でUSB 対応機器を使用するときは、USB ハブをこのパソコンに接続してから、USBハブにUSB対応機器を接続して使用してください。USB ハブに USB デバイスを接続したまま、USB ハブをこのパソコンに接続すると、正常にUSB 対応機器を認識できないことがあります。
- USB の I/O リソースの変更を行った場合、システムの再起動を行ってください。再起動を行わない場合は、Windows 98終了後に「MS-DOS モードで再起動する」を実行すると、動作が不安定になることがあります。
- デバイスマネージャで USB ホストコントローラ（HC）を削除または、「使用不可」にするとキーボードが使用できません。USB HC の削除、「使用不可」は絶対に行わないでください。

PART

4

IEEE1394 対応機器を使う

このパソコンにはIEEE1394コネクタがあります。IEEE1394コネクタは、一本のケーブルでパソコンとIEEE1394対応機器の間を、高速でデータのやりとりをすることができます。デジタルビデオカメラなどで撮った動画をスムーズに再生することもできます。

アイトリプルイー
IEEE1394について

このパソコンには、IEEE1394のコネクタがあります。はじめに、IEEE1394 というインターフェイスについて、少し勉強しておきましょう。

IEEE1394って何？

IEEE1394は、パソコンと周辺機器の間で、データを高速にやりとりするための新しい規格です。
転送速度が速いので、動画などのデータもスムーズにパソコンに転送することができ、接続方法も簡単です。パソコンの電源をそのつど切る必要がなく、電源を入れたままで周辺機器の取り付け、取り外しができます。さらに、プラグ＆プレイに対応しているので、パソコンと機器の間の細かい設定は自動的に行われます。

このインターフェイスは、コンピュータの世界ばかりでなく、さまざまな機器に応用されることが期待されています。将来的には、パソコンとデジタルビデオカメラ、ビデオデッキ、プリンタ、MIDI 機器、ハードディスクなどを、一種類のケーブルでつなぐことができるようになります。そうなれば、映像や音声もすべて一本のケーブルでデジタルに転送されます。

IEEE（アイトリプルイー）

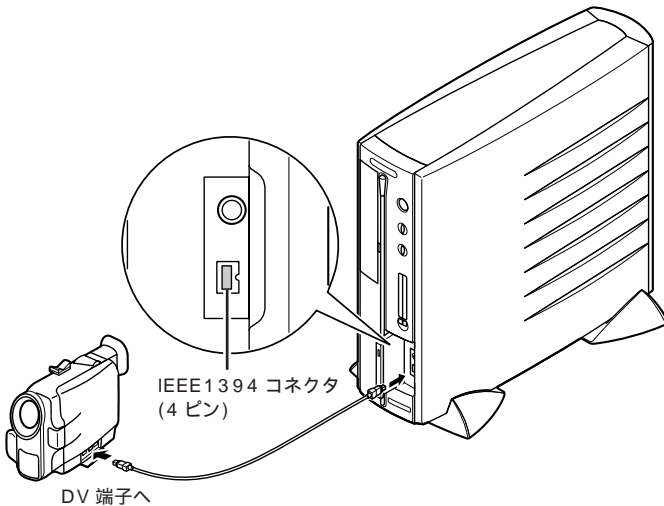
米国電気電子技術者協会のことを言います。エレクトロニクス分野では世界最大規模の学会で、電子分野の規格化に大きな影響力をもっています。IEEE1394は、IEEEで標準化されたインターフェイスの規格です。

アイトリプルイー
IEEE1394対応機器を接続する

ここでは、例としてデジタルビデオカメラをIEEE1394コネクタに接続する方法を説明しています。

デジタルビデオカメラの接続は、IEEE1394 ケーブルを使ってパソコンのIEEE1394 コネクタとデジタルビデオカメラのIEEE1394 コネクタ（DV 端子）を接続するだけです。

●デジタルビデオカメラを接続する

IEEE1394ケーブルでこのパソコンとデジタルビデオカメラを接続します。このパソコンの本体正面には、IEEE1394 コネクタ（4 ピン）が用意されています。

IEEE1394コネクタに接続できる周辺機器には、ほかにハードディスクドライブ、MO ドライブなどがあります。

デジタルビデオカメラによっては、IEEE1394に対応した端子のことをDV 端子と呼びます。

チェック!!

接続の際にはプラグの向きに注意してください。また、接続の際には周辺機器に添付のマニュアルもご覧ください。

IEEE1394 コネクタは、入力用、出力用といった 2 種類のコネクタにはなっていません。デジタル信号の流れによって自動的に入出力が切り替わります。

デジタルビデオカメラの映像は、「Video Wizard」を使って取り込み、編集ができます。デジタルビデオカメラを接続した後、「スタート」ボタン→「プログラム」→「Ulead VideoStudio 4.0 SE Basic」→「Ulead Video Wizard」をクリックして「Video Wizard」を起動し、画面の指示にしたがって操作してください。編集後の映像をビデオテープに出力したい場合は、「Video Wizard」での編集後、「5.作成」をクリックし、「VideoStudioで開く」をクリックした後、「完了」を選択してください。
なお、「VideoStudio」では、画面上部のメニューの順に作業を進めていくと、ビデオ編集ができます。

●IEEE1394接続ケーブル(6ピン-6ピン)を接続する

IEEE1394接続ケーブル(6ピン-6ピン)でパソコン同士を接続すると、パソコン間でプリンタやファイルを共有したり、データの移動が高速にできます。
接続には「IEEE1394 Network Driver Ver 2.0」が必要になります。このパソコンには、このドライバがインストールされていますので、使えるようにドライバの組み込み作業を行ってください。
ドライバの組み込み手順については、「スタート」ボタン→「プログラム」→「IEEE1394 Network Driver Ver 2.0」→「はじめにお読みください」をクリックして、内容をご覧になったうえで、同一フォルダ内のユーティリティの「開始する」ボタンを押してください。自動的に組み込み作業が始まります。

チェック!!

TVモデルではVideoStudioは、ご購入時の状態では、インストールされていますが、その他のモデルでは、インストールされていません。VideoStudioを使うには添付のアプリケーションCD-ROMからインストールを行います。

参照

VideoStudioのインストール方法→「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」-「VideoStudio」

参照

IEEE1394 Network Driver Ver2.0の機能→「スタート」-「プログラム」-「IEEE1394 Network Driver Ver2.0」-「ヘルプ」

次のホームページで、このパソコンで使える周辺機器を紹介していますので、参考にしてください。
「98 Information」のURL
http://www.nec.co.jp/98/

「PCサポート情報コーナーPICROBO」のURL
http://www.nec.co.jp/picrobo/

PART

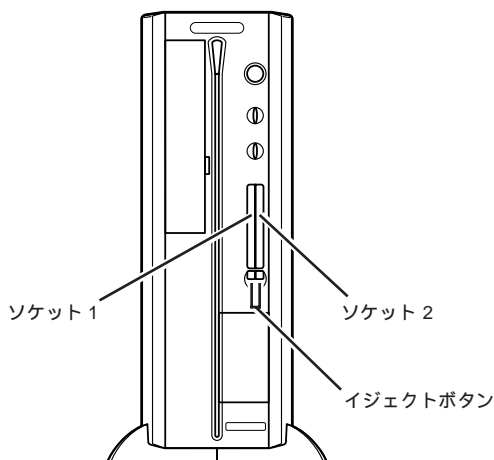
5

PC カードを使う

PCカードは、クレジットカードを厚くしたような形をしている周辺機器です。PCカードは種類が豊富な上に、取り扱いやすく、パソコン側の設定も簡単にできるので、このパソコンの機能を手軽に拡張することができます。

PC カードスロットについて

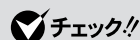
このパソコンにはPC カードスロットがあり、PC Card Standardに準拠したPCカードを使うことができます。

PC カードスロットは、PC カードをセットするためのスロットです。
このパソコンには、図のように左右 2 つの PC カードスロットがあり、それぞれのスロットにTYPE Ⅰまたは TYPE Ⅱの PC カードを 1 枚ずつ、または左右のスロットを合わせて TYPE Ⅲの PC カードを 1 枚、セットして使用できます。

● CardBus 対応 PC カードについて

CardBus（カードバス）は PC カードの拡張仕様で、高速なデータ転送ができます。
このパソコンでは、CardBus 対応のPC カードを、左右のスロットに 1 枚ずつ、計 2 枚同時に使用することができます。

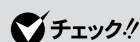
参照

PC カードを使用するときの注意→この PARTの「PCカードを使用するときの注意」(p.56)

チェック!!

PC カードスロットには保護のためにあらかじめダミーカードがセットされています。

PC Card Standard準拠のPCカードは、カードの厚さによって TYPE Ⅰ、TYPE Ⅱ、TYPE Ⅲの 3 種類に分けられます。

- TYPE Ⅰの PC カード
  厚さ約 3.3mm
- TYPE Ⅱの PC カード
  厚さ約 5.0mm
- TYPE Ⅲの PC カード
  厚さ約 10.5mm

チェック!!

- このパソコンでは ZV ポート対応の PC カードは使用できません。PCカードを購入する際は注意してください。
- PCカードの使用中は、スタンバイ状態にしないでください。購入時には、約 20 分間何も操作しないと、自動的にスタンバイ状態になるように設定されていますので自動的にスタンバイ状態にならないように設定し直してください。

参照

スタンバイ状態について→ PART10の「自動的にスタンバイ状態にならないように設定する」(p.107)

PC カードの入れ方と出し方

PC カードは、パソコン本体の電源を入れたままの状態でも、PC カードスロットにセットできます。セットすると自動的に設定が始まり、設定が終わったら、すぐに使えます。

⚠注意

PCカードを取り出すときは、ゆっくりイジェクトボタンを押してください。

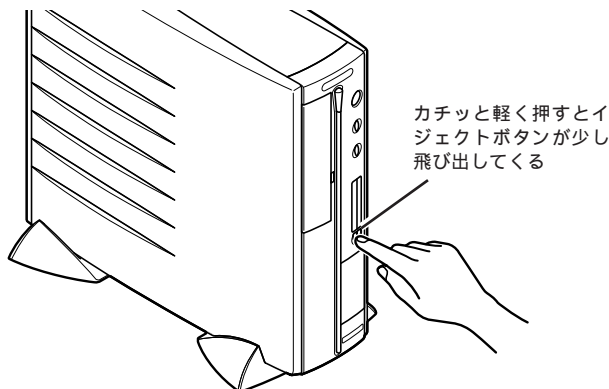
イジェクトボタンを強く押しすぎると、PCカードの取り出し口に指をぶつけてけがをする恐れがあります。

チェック!!

PC カードは大変精密にできています。PCカードやPCカードスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- 高温、多湿、低温の場所に放置しない
- 濡らさない
- 重いものを載せない
- ぶつけたり、落としたりして、衝撃を与えない
- 曲げない
- PCカードの端子部分に金属などを入れない
- PC Card Standardに準拠していないカードを無理に押し込まない

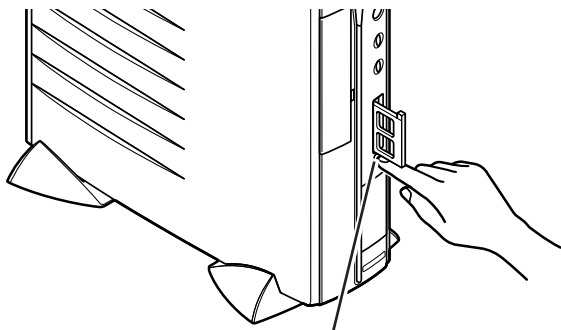
PC カードをセットする

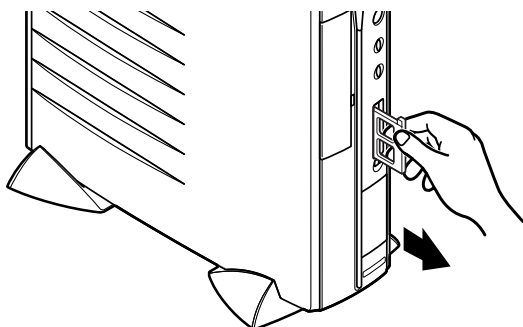
1 パソコンの電源が入っている場合は、すべてのアプリケーションが終了していることを確認する

PC カードはパソコンの電源を入れたまま、抜き差しができます。

チェック!!

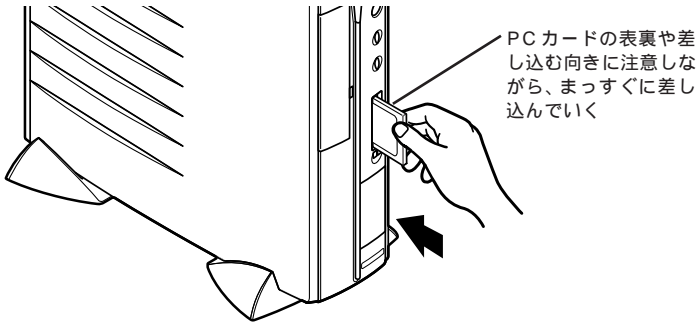
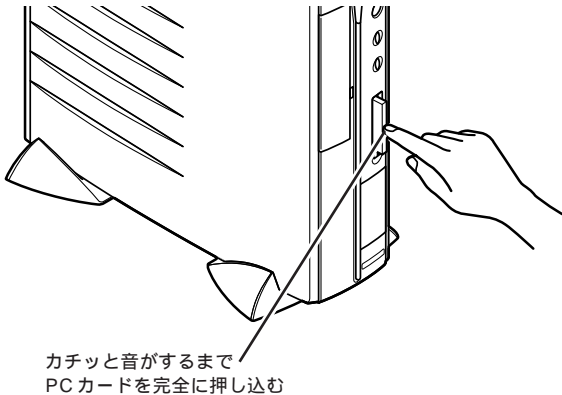
PCカードをセットする前に、このパソコンで使える PC カードかどうかもう一度確認してください。

2 イジェクトボタンを軽く押す

PC カードスロットには保護のために、あらかじめダミーカードがセットされています。

3 もう一度イジェクトボタンを押す

4 出てきたダミーカードを、まっすぐに静かに引き抜く

参照

取り出したダミーカードは、PCカードスロットを使わないときには、差し込んで保護するためのものです。大切に保管しておいてください。

5 用意したPCカードを図のように持ち、PCカードスロットに静かに差し込み、

6 PCカードがスロット内にすべておさまるように、奥までしっかり押し込んでセットする

●PCカードの設定

PCカードをPCカードスロットにセットすると、パソコンが自動的に設定を行い、すぐに使用可能な状態になります。

ただし、一度も使ったことのないPCカードをセットしたときは、設定が自動的には行われず、ドライバのインストールを行うための画面が表示されることがあります。この場合は、画面の指示にしたがって操作してください。詳しくはPCカードに添付のマニュアルをご覧ください。
なお、この操作を一回行えば、次回以降そのPCカードを使うときは、セットしたらすぐに使えるようになります。

チェック!!

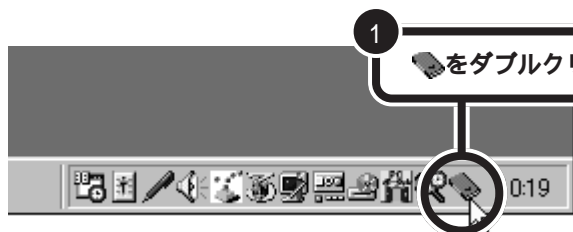
- PCカードをセットする前にイジェクトボタンが収納されているか確認してください。
- PCカードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向も決まっています。間違った向きでむりやり差し込むと、コネクタやスロットを破損する恐れがあります。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。
- アプリケーションソフトを使用中は、PCカードを差し込んだり、取り出したりしないでください。
- スタンバイ状態で、PCカードの抜き差しを行わないでください。スタンバイ時のデータが消えてしまい、復元できなくなってしまうことがあります。

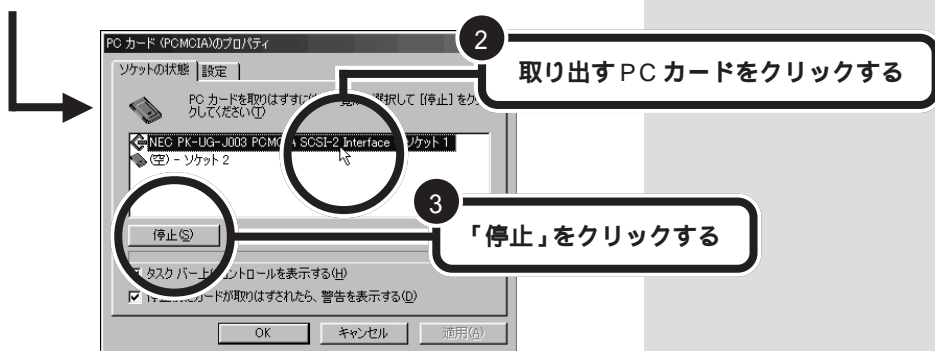
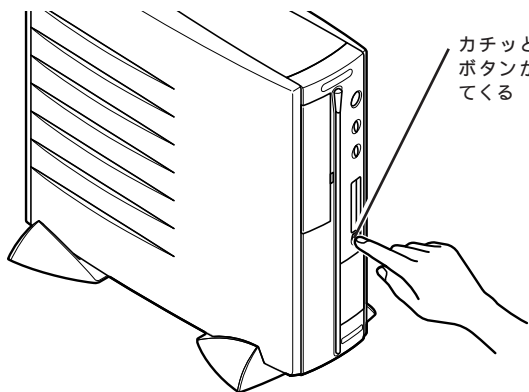
チェック!!

コネクタを破損する恐れがありますので、PCカードを押し込むときに無理な力をかけないように注意してください。

参照

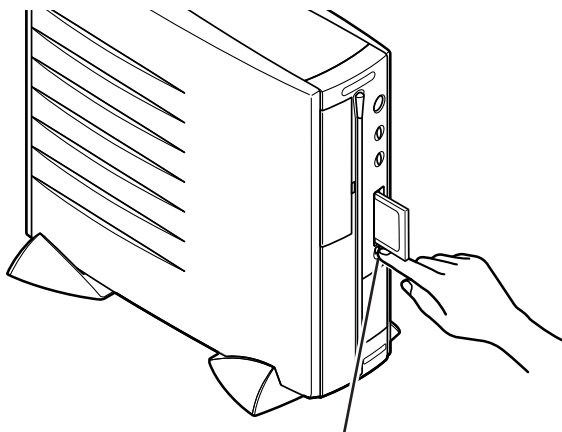
ドライバのインストールについて→PART2の「接続から準備完了までの流れ」(p.24)

PCカードを取り出す

チェック!!

PCカードによっては、左の手順で取り出さないと、このパソコンが正常に動かなくなる可能性があります。必ず手順を守って取り外してください。

チェック!!

PCカードを2枚セットしたときは、同時に取り出さずに、1枚ずつイジェクトボタンを押して取り出してください。

6 もう一度イジェクトボタンを押す

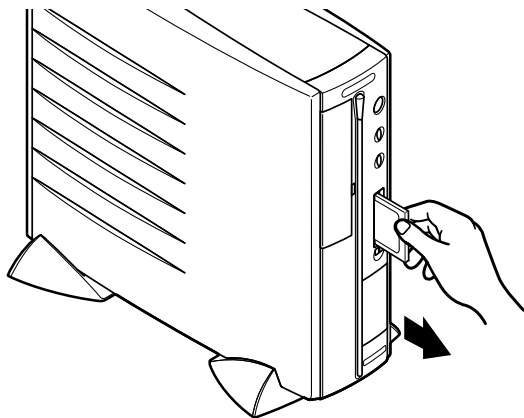
ボタンが飛び出した状態でイジェクトボタンを押し込むと、PCカードスロットにセットされていたPCカードが、少しだけ飛び出します。

チェック!!

イジェクトボタンは、カチッと音がするまでしっかり押し込んでください。

7 出てきたPCカードを、まっすぐに静かに引き抜く

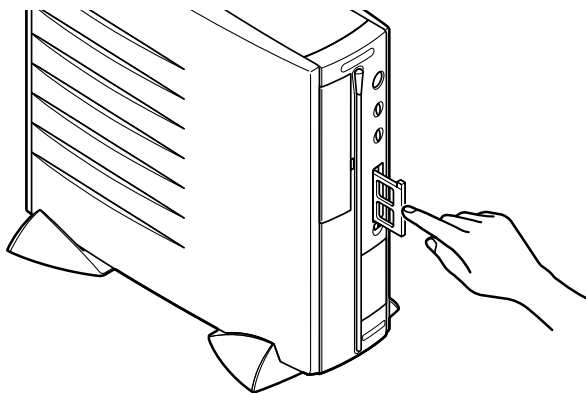
チェック!!

PCカードを取り出したときに「予期せぬPCカードの取り外しが行なわれました」という画面が表示された場合は、「OK」をクリックしてください。

PCカードを取り出したら、ダミーカードをセットします。

8 「PCカードをセットする」の手順2～4（p.51）で取り出したダミーカードをPCカードスロットに静かに差し込む

チェック!!

ダミーカードをPCカードスロットに差し込むときは、「T」印がある方を左側のスロットに、「B」印がある方を右側のスロットにセットしてください。（縦置時）

9 **ダミーカードがスロット内にすべておさまるように、奥までしっかり押し込んでセットする**

コネクタを破損する恐れがありますので押し込むときに無理な力をかけないように注意してください。

PC カードを使用するときの注意

- アプリケーションソフトを使用中はPCカードのセットや、取り出しはしないでください。
- PCカードスロットにPCカードが2枚セットされている状態で、PCカードを同時に取り出さないでください。
- 「PCカードを取り出す」(p.54)の手順を行わずに、PCカードスロットからPCカードを取り外しても、警告が表示がされないことがあります。
- PC Card Standerdに準拠していないPCカードは使用できない場合があります。
- このパソコンでは ZV ポート対応の PC カードは使用できません。
- マルチファンクションカード（LAN とモデムなど 2 つの機能を兼ね備えた PC カード）と ATA カードを同時に使用する場合は、右側のPCカードスロット（ソケット2）にマルチファンクションカードを、左側のPCカードスロット（ソケット1）にATAカードをセットしてださい。
- CardBus対応PCカードのドライバ組み込み中に例外エラーが発生するときがあります。この場合は、Windowsを再起動すると、正常にドライバの組み込みができることがあります。
- PC カードスロットに ATA カードをセットにしているときにスタンバイ状態にすると、通常よりスタンバイ状態から復帰するのに時間がかかります。
- スタンバイ状態にするときには、必ずPC カードをPC カードスロットから取り外してください。
- PC カードや LAN カードを使う場合は、スタンバイ状態にしないでください。また、自動的にスタンバイになる設定も行わないでください。

参照

スタンバイ状態にならないように設定する→PART10の「自動的にスタンバイ状態にならないように設定する」（p.107）

PART

6

PCIボードを使う

このパソコンには、ハードディスクの増設に必要なSCSIインターフェイスボードをはじめ、いろいろな種類のPCIボードを取り付けることができます。

PCIボードについて

ここでは、このパソコンに取り付けることのできるPCIボードについて簡単に説明します。

いろいろな PCIボード

PCIボードには、主に次のようなものがあります。

●SCSIインターフェイスボード

このパソコンにハードディスクなどのSCSIインターフェイス対応機器を接続するためのボードです。

●LAN(ネットワーク)ボード

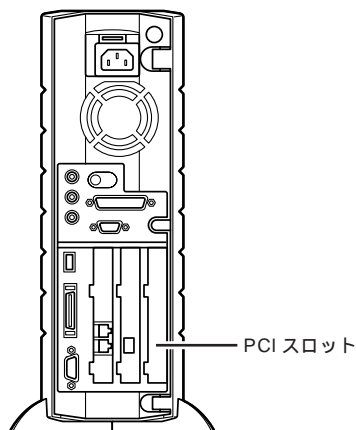
このパソコンを LAN に接続するためのボードです。

●3Dグラフィックアクセラレータボード

3DCG(立体的なコンピュータグラフィックス)の表示を高速にするボードです。

PCIボードは、ここで紹介しているものの他にもいろいろなメーカーから、多種多様な機能を持つものが発売されています。
これらのPCIボード購入時には、必ずこのパソコンで動くかどうかメーカー、ご購入元で確認してください。

PCIスロット

このパソコンでは、下の図のように、1つのPCIスロットを使用できます。スロットにはハーフサイズのPCIボードを取り付けることができます。

上の図はリアカバーを外した状態です

チェック!!

TVモデルでは、PCIスロットに空きがありませんので、新たにPCIボードを追加して取り付けることはできません。

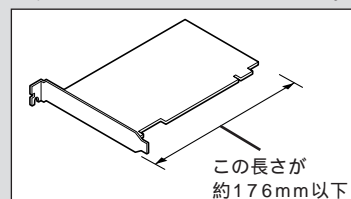
参照

SCSIインターフェイス対応機器→「PART8 SCSIインターフェイス対応機器を使う」(p.71)

チェック!!

- セットの液晶ディスプレイは、本機の液晶ディスプレイ専用コネクタしか取り付けられません。アクセラレータボードにディスプレイを接続する場合は、別途ディスプレイが必要です。
- 1Mバイト空間のメモリリソースを使用するPCIボードは、正常に動作しない場合があります。

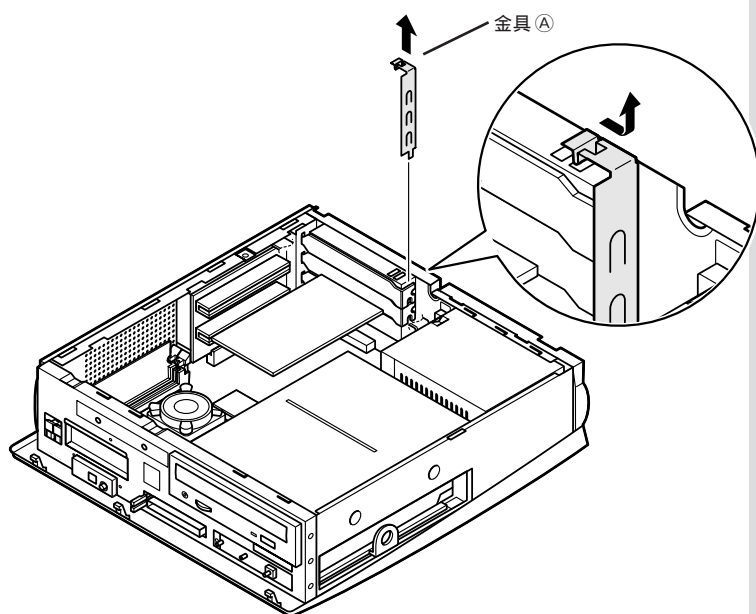
チェック!!

- このパソコンには、フルサイズのPCIボードは取り付けられません。
- ハーフサイズのPCIボードであっても特殊な形状のボードは取り付けられない場合があります。ハーフサイズのPCIボードとは、次のような大きさのボードのことです。

PCIボードの取り付けと取り外し

ここでは、このパソコンにPCIボードを取り付ける方法と取り外す方法を説明します。

PCIボードの取り付け方

1 正しい手順で本体のリアカバー、ルーフカバーを外す

2 下の図のように金具Ⓐを上へ引き抜くようにして取り外す

チェック!!

以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。

PCIボードを取り付けるときには、必ずPCIボードに付属のマニュアルもご覧ください。

参照

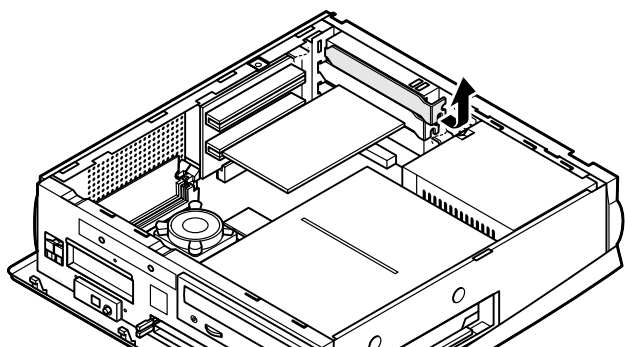
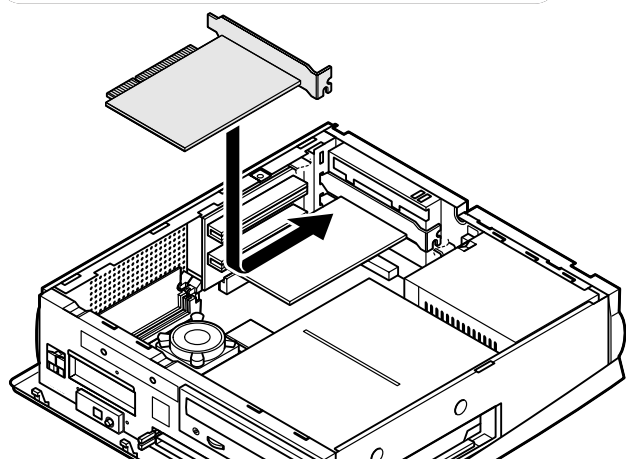
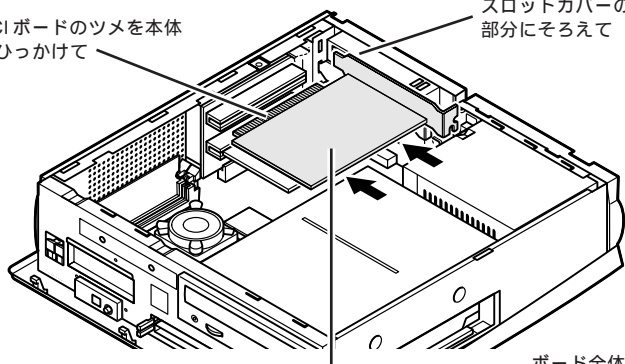
リアカバー、ルーフカバーの外し方
→PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.28)

チェック!!

- 電源ケーブルやディスプレイのケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。
- 机やテーブルを傷つけたりしないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。

チェック!!

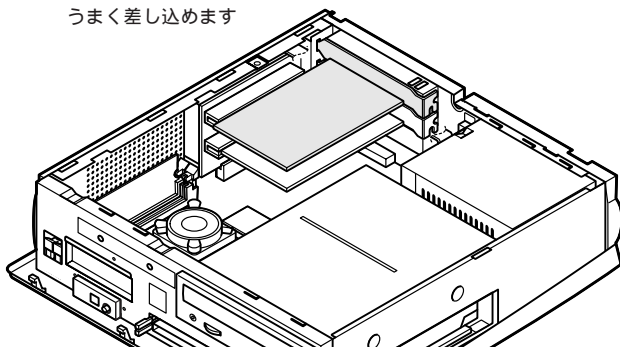
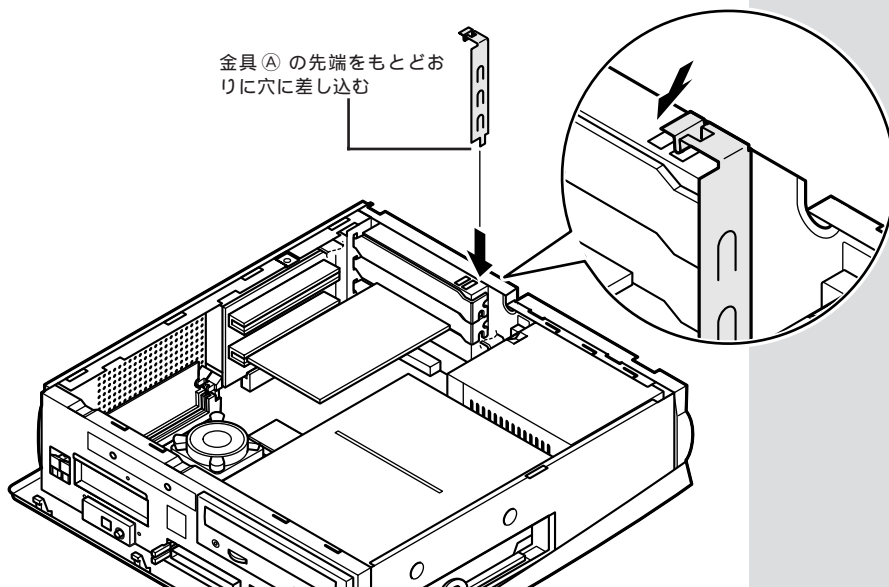
PCIスロットには、FAXモデムボードとIEEE1394ボードが標準で取り付けられています。TVモデルでは、さらに地上波TV&データ放送ボードが、取り付けられています(TVモデルでは空きスロットはありません)。標準で取り付けられているPCIボードを取り外して、別のPCIボードを取り付けた場合はサポートの対象外になります。

3 スロットカバーを取り外す

4 PCIボードを、両手で支えながらスロットに慎重に差し込む

チェック!!

- スロットカバーは、ここで取り付けたボードを取り外さないかぎり、不要となりますが、なくさないように大切に保管してください。
- PCIボードを持つときは、ボード上の部品やツメ(端子)部分に触れないように注意してください。

PCIボードをしっかり差し込むには、強い力が必要です。ボードのツメの先端がPCIスロットにきちんと合っていれば壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。

チェック!!

しっかり差し込んでおかないと、故障の原因になります。

5 手順2で外した金具Ⓐを使って、PCIボードを固定する

6 正しい手順で本体のルーフカバー、リアカバーを取り付ける

PCIボードによっては、ボードの取り付け後、パソコン側で設定作業が必要なものもあります。詳しくは、PCIボードに付属のマニュアルをご覧ください。また、PCIボードの使い方についても、PCIボードに付属のマニュアルをご覧ください。

参照

リアカバー、ルーフカバーの取り付け方→PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.28)

PCI ボードの取り外し方

PCIボードの取り外しは、PCIボードの取り付けの逆の手順で行うことができます。

FAX モデムボードも、PCI ボードと同じ方法で取り付けられています。FAX モデムボードの取り付け、取り外しは、P C I ボードと同じように行ってください。

PART

7

メモリを増やす

メモリは、パソコンで作業をするときの「作業机」のようなものです。机の上が広いと作業がしやすいのと同じように、メモリの量が多いとパソコンの「作業机」も広くなり処理がしやすくなります。一度に複数のアプリケーションを使っているときなどに、パソコンの処理速度が遅いと感じるようであれば、メモリを増やしてみましょう。

メモリを増やすには

このパソコンでメモリを増やすときは、別売の「増設RAMサブボード」というボードを、専用のコネクタに取り付けます。最大で256Mバイトまで増やすことができます。

どのくらいメモリを増やすかを決める（→p.65）

最大256Mバイトまで増やせます。

必要なものを準備する

必要な増設RAMサブボード等を準備します。

増設RAMサブボードを取り付ける（→p.66）

本体のリアカバー、ルーフカバーを取り外し、用意した増設RAMサブボードを専用のコネクタに取り付けます。取り付けたらリアカバー、ルーフカバーを元に戻します。

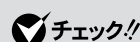
メモリが増えたかどうか確認する（→p.69）

本体の電源を入れて、増やしたメモリがこのパソコンで使えるようになっているかどうか確認します。

このパソコンで使える増設RAMサブボード

パソコンのメモリを増やすときには、「増設RAMサブボード」というボードを使います。
このパソコンでは、「DIMM」と呼ばれるタイプの次のような増設RAMサブボードを使うことができます。

型　名	メモリ容量
PK-UG-M015	32Mバイト
PK-UG-M016	64Mバイト
PK-UG-M017	128Mバイト

DIMM（ディム）は、Dual Inline Memory Moduleの頭文字をとったものです。

このパソコンでは、「SIMM（シム）」と呼ばれるタイプの増設RAMサブボードは使用できません。間違って購入しないように注意してください。

メモリの増やし方の例

このパソコンには、増設RAMサブボード（DIMM）を差し込むコネクタ（スロット）が、2つ用意されています。標準では、この内の1つのコネクタに128Mバイトまたは64MバイトのRAMサブボードが付いています。標準で付いているRAMサブボードは機種によって異なります。下の表で確認してください。

増設RAMサブボードに対して、パソコンに最初から取り付けられているメモリのことを「RAMサブボード」といいます。

型　名	標　準	最　大
VT667J/3	128Mバイト×1	256Mバイト（128Mバイト×2）
VC733J/3 VC667J/3	64Mバイト×1	256Mバイト（128Mバイト×2）

ここでは、標準で64MバイトのRAMサブボードが付いている場合を例に、メモリの増やし方を説明します。

64Mバイト（標準で付いているもの）
空き
合計64Mバイト

空いている残りの1スロットに、増設RAMサブボードを追加することで、メモリを増やします。また、標準で付いているRAMサブボードを取り外して、より大きな容量の増設RAMサブボードに取り替えることも可能です。メモリは、最大で256Mバイト（128Mバイトの増設RAMサブボード×2枚）まで増やすことができます。

実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より0.4Mバイト少ない値になります。

・例1：96Mバイトにする場合

空いているコネクタの1つに32Mバイトの増設RAMサブボードを追加すれば、標準で付いている64Mバイトのメモリと合わせて96Mバイトにすることができます。

64Mバイト（標準で付いているもの）
32Mバイト（別途購入したもの）
合計96Mバイト

・例2：192Mバイトにする場合

128Mバイトの増設RAMサブボードを1枚追加します。

64Mバイト（標準で付いているもの）
128Mバイト（別途購入したもの）
合計192Mバイト

・例3：256Mバイト（最大）にする場合

標準で付いているRAMサブボードを外し、128Mバイトの増設RAMサブボードを2枚追加します。

標準で付いているものは外す
128Mバイト（別途購入したもの）
128Mバイト（別途購入したもの）
合計256Mバイト

メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した標準のRAMサブボードは大切に保管してください。

増設RAMサブボードの取り付けと取り外し

ここでは、増設RAMサブボード（RAMサブボード）の取り付け方と、取り外し方を説明します。

チェック!!

以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。

⚠注意

増設RAMサブボードは以下の手順に従って正しく取り付けてください。

正しく取り付けられていないと、発煙、火災の原因となります。

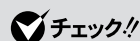
ボードを取り扱うときに気をつけること

増設RAMサブボードおよび標準で付いているRAMサブボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態でこれらのボードに触れると、ボードが破損する原因となります。ボードに触れる前に、身近な金属（アルミサッシやドアのノブなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。

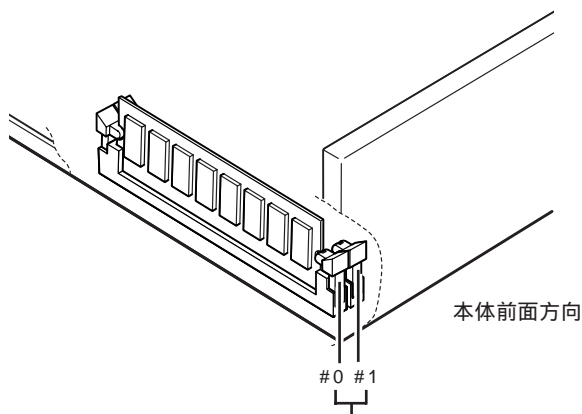
増設RAMサブボードの取り付け方

1 正しい手順で本体のリアカバー、ルーフカバーを外す

参照

リアカバー、ルーフカバーの外し方
→PART2の「本体の開け方と閉め方」（p.28）

チェック!!

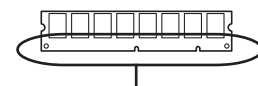
電源ケーブルやディスプレイケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。

ここで、増設RAMサブボード用のコネクタの位置を確認しておいてください。

チェック!!
お使いの機種によって、本体内部の形状が異なります。

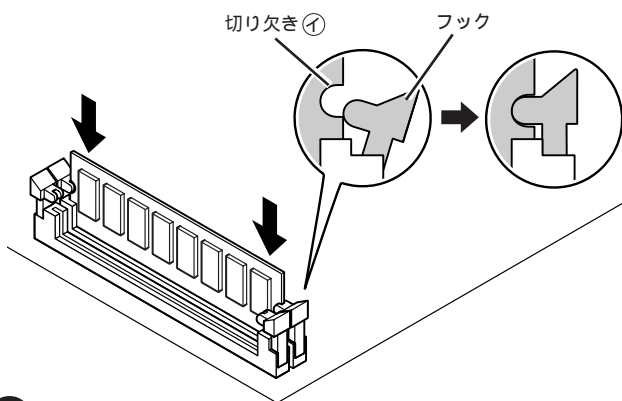
2 ボードを差し込むコネクタの両側のフックを外側に開く

左の図にはありませんが、実際には2つあるコネクタのうち、#0（本体外面に近い方）のコネクタには、標準でRAMサブボードが差し込まれています。

3 切り欠き㋐の方向に注意して、空いているコネクタにボードを垂直に差し込む

増設RAMサブボードは、両手で持ってください。

チェック!!
- 増設RAMサブボードの端子部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

コネクタの溝とボードの切り欠き㋐の位置を確認してから差し込んでください。

4 **そのまま垂直方向に力を加え、コネクタ両側のフックが切り欠き ㋑ に引っかかるまで、強く押し込む**

5 **正しい手順で本体のルーフカバー、リアカバーを取り付ける**

増設 RAM サブボードを奥までしっかり差し込むには、強い力が必要です。手順 3 で差し込んだときに切り欠き ㋐をコネクタの溝に正しく合わせてあれば、壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。

チェック!!

しっかり差し込んでおかないと、故障の原因になります。

参照

ルーフカバー、リアカバーの取り付け方→PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.28)

RAM サブボードの取り外し方

1 **正しい手順で本体のリアカバー、ルーフカバーを外す**

2 **取り外したいボードの両側のフックを外側に開き、ゆっくりと、ボードを垂直に引き抜く**

3 **正しい手順で本体のルーフカバー、リアカバーを取り付ける**

参照

リアカバー、ルーフカバーの外し方→ PART2 の「本体の開け方と閉め方」(p.28)

チェック!!

- 電源ケーブルやディスプレイのケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。
- 左の図にはありませんが、実際には 2 つあるコネクタのうち、#0(本体外面に近い方)のコネクタには、標準でRAMサブボードが差し込まれています。#0のRAMサブボードも同じ方法で取り外せます。

チェック!!

- フックを開きすぎて破損してしまわないように気をつけてください。
- メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した増設 RAM サブボードおよび標準で付いている RAM サブボードは、大切に保管してください。

参照

ルーフカバー、リアカバーの取り付け方→PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.28)

増やしたメモリを確認する

パソコンの電源を入れてみて、増やしたメモリが本当に使えるようになったかどうかを確認します。

確認のしかた

1

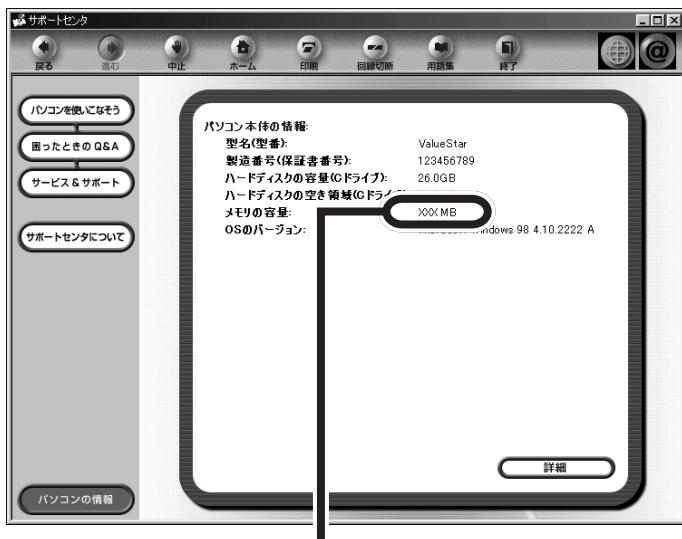
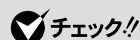
サポートセンタを起動する
アクティブメニューNXの「サポートセンタ」をクリックします。

「サポートセンタ」の画面が表示されます

2

「パソコンの情報」をクリック

メモリはWindows 98の「システム情報」からも確認することができます。
(「スタート」-「プログラム」-「アクセサリ」-「システムツール」-「システム情報」)

3 メモリ容量を確認する

ここに表示されたメモリ容量を確認する
(ここには、増やした後の全メモリ容量(標準で入っている容量＋増設した容量)が表示されます)

チェック!!
ここでは、増やした後の全メモリ容量より数Mバイト少なく表示される場合がありますが故障ではありません。

メモリが増えていなかったら

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合には、次のことを確認してください。

- **メモリが正しく取り付けられているか?**
- **このパソコンで使える増設RAMサブボードを取り付けているか?**

PART

8

SCSIインターフェイス対応機器を使う

このパソコンでSCSI（スカジー）インターフェイスに対応した周辺機器を使うには、SCSIインターフェイスボードが必要です。ここでは、SCSIの基礎知識、SCSIインターフェイスボードの取り付け方、SCSIインターフェイス対応機器を接続する方法を説明します。

SCSI機器を使うには

このパソコンでSCSI機器を使うには、PCIスロット対応のSCSIインターフェイスボードを使います。

SCSI機器の接続は、次のような手順で行います。

必要なものを用意する（→ p.75）
SCSI機器のほかに、PCIスロット用のSCSIインターフェイスボードやSCSIケーブル、ターミネータなどが必要です。

本体にSCSIインターフェイスボードを取り付ける（→ p.76）
本体のリアカバーを外し、カバーを開けて、PCIスロットにSCSIインターフェイスボードを取り付けます。

SCSI機器をボードのSCSIコネクタに接続する（→ p.77）
各機器のSCSI IDを設定したら、ボードのSCSIコネクタに、SCSIケーブルを使って接続します。

SCSI機器の電源を入れる

パソコン本体の電源を入れる

参照
SCSI ID→このPARTの「SCSI IDについて」（p.74）

SCSIインターフェイスについて

ここでは、SCSIインターフェイスを使って周辺機器を接続するとき、覚えておいて欲しいことを説明します。

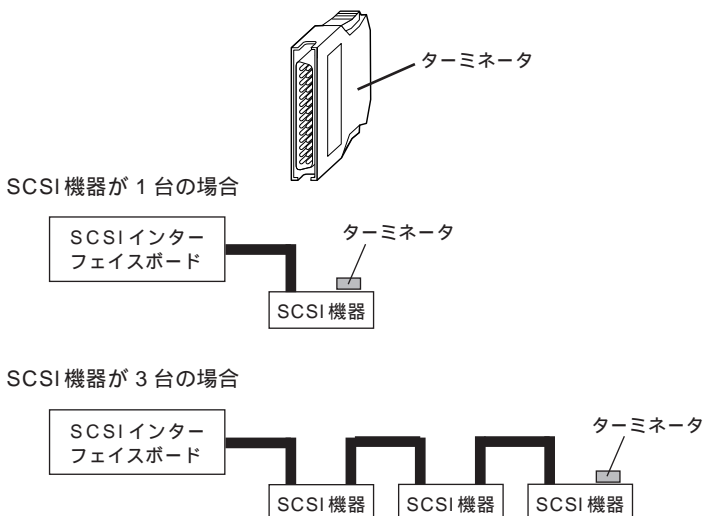
接続できるSCSI機器

SCSIインターフェイスを使って接続できる機器には、次のようなものがあります。

・ハードディスク
・CD-ROMユニット
・DVD-RAMドライブ
・DVD-ROMドライブ
・CD-Rドライブ
・CD-RWドライブ
・MOディスク（光磁気ディスク）ドライブ
・PDユニット
・Zipドライブ
・ミニカートリッジテープユニット
・カセット磁気テープユニット
・イメージスキャナ
など

SCSIに関する基礎知識

●SCSI機器の接続方法について

SCSI機器は、「デイジーチェーン」と呼ばれる「数珠つなぎ」のような形式で、複数（最大7台）の機器をつなぐことができます。
また、その終端となるSCSI機器には「ターミネータ」と呼ばれる装置を付けることになっています。

ターミネータは、「終端BOX」とも呼ばれます。
SCSI機器によっては、ターミネータ機能を内蔵しているものもあります。使用するSCSI機器のマニュアルをよくご覧になり、正しく設定してください。

SCSI機器が1台の場合

SCSI機器が3台の場合

●SCSI IDについて

SCSI機器は、SCSI IDという0〜7の認識番号で区別します。このSCSI IDが重複すると、SCSI機器が正常に動作しなくなりますのでご注意ください。
通常、SCSIインターフェイスボード自身が7番を使用します。一般的に、外付けのSCSI機器のSCSI IDは0〜6番を使います。また、通常、0番はSCSIハードディスクで使います（その他の機器でも0番を使えないわけではありません）。

●SCSI機器接続ケーブルの長さについて

複数のSCSI機器を接続するとき、ケーブルの総延長が3m以内になるようにしてください。

チェック!!
Ultraに設定したUltra SCSIインターフェイス対応機器を4台以上接続する場合は、ケーブルの総延長が1.5m以内になるようにしてください。
ケーブルの総延長は取り付ける機器などによって異なります。ボードや機器のマニュアルで確認してください。

SCSIインターフェイスの種類

現在一般に使われているSCSIインターフェイスの規格には、次の4種類があります。

- SCSIインターフェイス
- SCSI-2インターフェイス
- Ultra SCSIインターフェイス
- Ultra Wide SCSIインターフェイス

SCSI-2インターフェイスは、SCSIインターフェイスのデータ転送速度を2倍にしたものです。また、Ultra SCSIインターフェイスは、SCSIインターフェイスのデータ転送速度を4倍に、Ultra Wide SCSIインターフェイスは、SCSIインターフェイスのデータ転送速度を8倍にしたものです。
それぞれ、対応したインターフェイスボード、SCSI機器、ケーブルがあります。SCSIインターフェイスで、SCSI-2インターフェイスに対応した機器を使うことはできませんが、SCSI-2インターフェイスで、SCSIインターフェイスに対応した機器を使うことはできます。

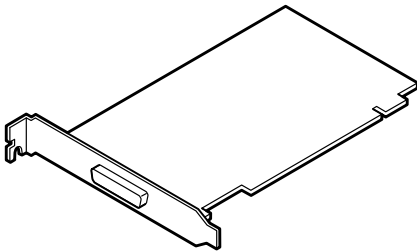
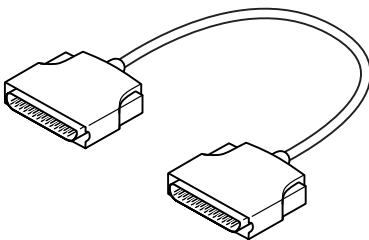
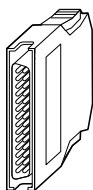
用意するもの

市販のSCSIインターフェイスボードやSCSI機器接続ケーブルなどが必要になります。あらかじめ用意しておきましょう。

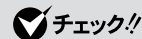
●接続するSCSI機器とそのマニュアル

●SCSIインターフェイスボード

PCIスロットに対応したSCSIインターフェイスボードが1つ必要です。このパソコンで使用できるSCSIインターフェイスボードには、次のようなものがあります。

- Ultra SCSI インタフェースボード（Wide対応）（PK-UG-X007）
- Ultra SCSI インタフェースボード（PK-UG-X014）

このパソコンで使用できるのは、「ハーフサイズ」のSCSIインターフェイスボード（長さが約176mm以下のもの）です。
また、SCSIカードを使うこともできます。SCSIカードはPCカードスロットに差し込みます。

参照

ハーフサイズ→PART6の「PCIスロット」（p.58）

●SCSI機器接続ケーブル

チェック!!

SCSI機器接続ケーブルは、プラグ部分の形状やケーブルの長さ、対応しているSCSIインターフェイス規格の違いによって、いくつかの種類があります。ボードや機器に添付のマニュアルを参照して、適切なケーブルを用意してください。

参照

SCSIインターフェイスの種類→前ページの「SCSIインターフェイスの種類」

●ターミネータ（終端BOX）

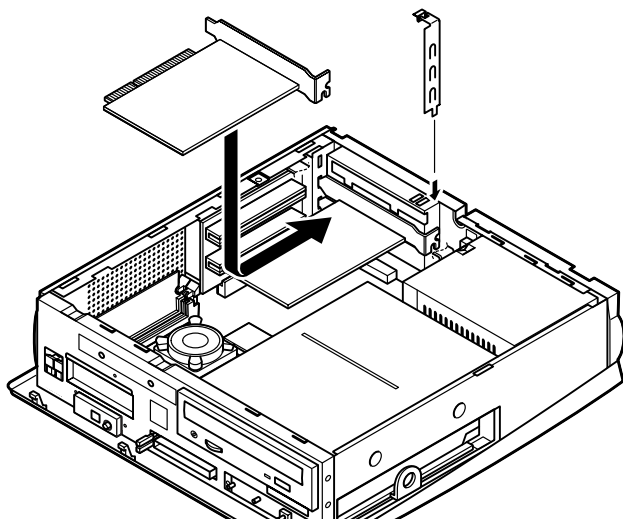
ターミネータ（終端）機能を内蔵しているタイプのSCSI機器を接続するときは、不要です。詳しくは、SCSI機器に添付のマニュアルをご覧ください。

SCSIインターフェイスボードを取り付ける

SCSIインターフェイスボードは、パソコン本体のPCIスロットに取り付けます。取り付け方は、一般のPCIボードと同様です。

1 正しい手順で本体のリアカバー、ルーフカバーを取り外す

2 正しい手順で、SCSIインターフェイスボードをPCIスロットに取り付ける

PCIスロットのスロットカバーを取り外してから、SCSIインターフェイスボードをスロットに慎重に差し込み、固定します。

3 正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

チェック!!

SCSIインターフェイスボードを取り付ける際は、本体のカバーを開けて作業します。

参照

リアカバー、ルーフカバーの外し方→PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.28)

チェック!!

ディスプレイケーブルなど本体背面に接続されているケーブルは、本体からすべて取り外してください。

机やテーブルを傷つけたりしないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。

参照

ボードの取り付け方について詳しくは→「PART6 PCIボードを使う」(p.57)

チェック!!

SCSIインターフェイスボードは、しっかり差し込んでください。故障の原因になります。

SCSIインターフェイスボードを取り付けるときには、必ずSCSIインターフェイスボードに添付のマニュアルもご覧ください。

参照

ルーフカバーの取り付け方→PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.28)

チェック!!

リアカバーを取り付けた状態でSCSI機器を接続することはできません。

SCSI機器を接続する

SCSI機器は次のように接続します。

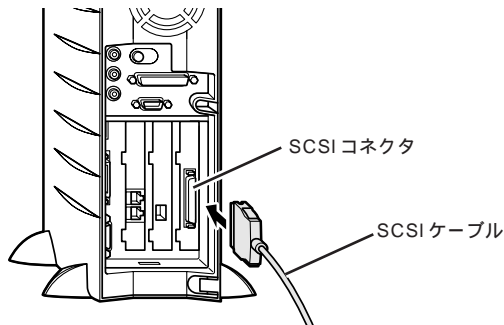
1 SCSI機器のSCSI IDを設定する

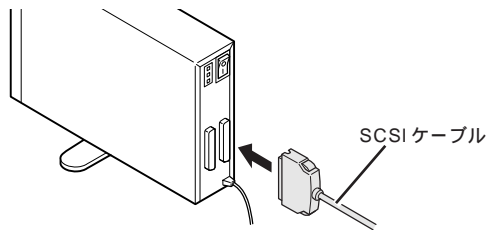
SCSI IDの設定方法については、各SCSI機器に添付のマニュアルをご覧ください。

2 本体に取り付けたSCSIインターフェイスボードのSCSIコネクタにSCSIケーブルのプラグを差し込む

チェック!!

・接続はパソコン本体とSCSI機器の電源を切ってから行ってください。
・SCSIケーブルのコネクタは、逆向きに差し込めないようになっています。向きをよく確認して、無理に押し込まないようにしてください。

コネクタによっては、左右のフックでコネクタが外れないように固定することができます。このようなフックがある場合には、必ず固定するようにしてください。

3 SCSI機器のSCSIコネクタに、SCSIケーブルのもう片方のプラグを差し込む

SCSI機器のSCSIコネクタは通常2つ用意されています。どちらのコネクタを使っても構いません。

4 SCSI機器の残りのSCSIコネクタに、ターミネータを差し込む

複数のSCSI機器を接続する場合には、ターミネータのかわりにもう1本のSCSIケーブルを差し込み、数珠つなぎの方法でSCSI機器を接続していきます。そして終端となる機器にターミネータを差し込みます。

SCSI機器がうまく動かないときは

取り付けたSCSI機器が認識されないときには、次の点をチェックしてみてください。

●ケーブルがきちんと接続されていますか？

見落としがちなことですが、パソコンを移動したときなど、ケーブルが外れかかっていたりすることがよくあります。SCSIインターフェイスボードと各機器、または各機器どうしを接続しているケーブルやターミネータが、きちんと接続されているかどうか、確認してください。

●ケーブルが長すぎませんか？
また、SCSIインターフェイスや機器に対応したケーブルを使っていますか？

SCSI-2のデイジーチェーンには、ケーブルの総延長が3m以内という制限があります。短いケーブルなどを使って、制限を超えない総延長にしてください。また、SCSIケーブルは取り付けるSCSI機器のインターフェイスによって使用できるケーブルが異なります。機器のコネクタの形をよく確認して適したものを使用してください。機器によっては変換アダプタが必要な場合もあります。

●SCSIインターフェイスボードは認識されていますか？

SCSIインターフェイスボードのリソースの設定、ドライバの組み込みが正しくできていない場合、SCSIインターフェイスボードが認識されません。「コントロールパネル」の「システム」の「デバイスマネージャ」で確認してください。正しく認識されていない場合には、SCSIインターフェイスボードのところに、赤い「×」や黄色い「！」のマークが表示されます。

●SCSI IDの設定は正しくできていますか？

複数の機器で同じ番号を設定していたりすると、各機器を認識できません。各機器のSCSI IDの設定を確認してください。

●電源を入れる順序は正しいですか？

SCSIインターフェイス対応機器を取り付けたときは、本体の電源を入れる前にSCSI機器の電源を入れておかないと、本体の起動時に認識されません。電源を入れる順序をまちがっていた場合は、一度、本体の電源を切ってからSCSI機器の電源を入れ、その後でもう一度本体の電源を入れ直してください。

参照

使用できるケーブルについて→SCSIインターフェイスボードのマニュアル、SCSIインターフェイス対応機器のマニュアル

参照

正しく認識されない場合の対処→PART10の「リソースに関する問題」(p.95)、「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「トラブル解決Q&A」-「周辺機器」またはWindowsヘルプ

CyberTrio-NXのモードが「ベーシックモード」の場合は、デバイスマネージャでの設定はできません。「アドバンストモード」に変更してください。

PART

9

ハードディスクを増設する

データをたくさん保存したり、多くのアプリケーションをインストールしていくと、だんだんハードディスクがいっぱいになってきます。もっとたくさんの容量が必要な場合はハードディスクを増設します。このパソコンでは、ハードディスクは外部機器として接続します。

ハードディスクを増設するには

このパソコンでハードディスクを増設するには、SCSIインターフェイスボードを使って、本体の外側に設置するタイプのハードディスクを接続します。

ハードディスクの増設は、次のような手順で行います。

必要なものを用意する（→ p.81）
ハードディスクに添付のマニュアルを読み、スイッチなどの設定が必要ならば設定しておきます。パソコン本体の電源は切っておきます。また、SCSIインターフェイスボードやSCSI機器接続ケーブルなどが必要です。

本体にSCSIインターフェイスボードを取り付ける（→ p.82）
本体のPCIスロットに、SCSIインターフェイスボードを取り付け、使用可能な状態にします。

増設ハードディスクをボードのSCSIコネクタに接続する（→ p.82）
取り付けたSCSIインターフェイスボードのコネクタに、SCSI機器接続ケーブルを使ってハードディスクを接続します。

増設ハードディスクの電源を入れる

パソコン本体の電源を入れる

ハードディスクをフォーマットする（→ p.84）
パソコンの電源を入れて、増設したハードディスクをフォーマットします。

チェック!!

・このパソコンでは、本体に内蔵するタイプのハードディスクは増設できません。
・標準で本体に内蔵されているハードディスクを交換するとサポートの対象外になります。

参照

SCSIインターフェイスボードの取り付け→「PART8 SCSIインターフェイス対応機器を使う」（p.71）

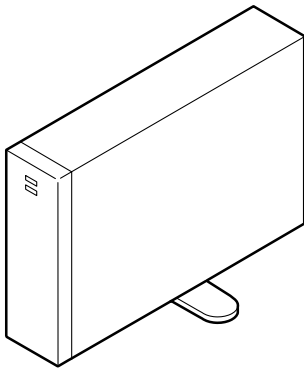
参照

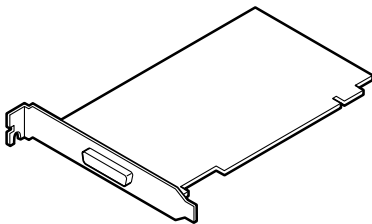
フォーマットのしかた→このPARTの「ハードディスクをフォーマットする」（p.84）、ハードディスクに添付のマニュアル

用意するもの

作業を始める前に、あらかじめ、市販の外付け用ハードディスクやSCSIインターフェイスボードなどを購入して、用意しておきます。

●ハードディスク

市販の「SCSIインターフェイス対応」の外付け用ハードディスクを用意します。容量や性能、大きさ、形などの違いにより、さまざまな種類のハードディスクがありますので、用途に合わせて、適切なものを選びましょう。

● SCSI インターフェイスボードなど

ハードディスクをパソコン本体に接続するために、市販のSCSIインターフェイスボードやSCSI機器接続ケーブル、ターミネータ（終端BOX）などが必要です。PART8 の説明や機器に添付のマニュアルをご覧になり、あらかじめ必要なものを用意してください。SCSIインターフェイスボードにはPCカードスロットにセットできるタイプ（SCSIカード）もあります。

●ハードディスクやボードのマニュアル

ハードディスクとSCSIインターフェイスボードの組み合わせによっては、うまく接続できなかったり、専用の変換コネクタが必要になったりするので、購入する前にお店で確認してください。

参照

SCSIインターフェイスボード→「PART8 SCSIインターフェイス対応機器を使う」（p.71）

本体にハードディスクを接続する

先にパソコン本体にSCSIインターフェイスボードを取り付け、ボードのSCSIコネクタにハードディスクを接続します。

外付け用のハードディスクを増設するときには、必ずハードディスクに付属のマニュアル、SCSIインターフェイスボードに付属のマニュアルもご覧ください。

チェック!!

SCSIインターフェイスボードを取り付ける際は、本体のカバーを開けて作業します。

1 **本体とハードディスクの電源が切れていることを確認する**

2 **正しい手順で、本体にSCSIインターフェイスボードを取り付け、必要な設定を行う**

参照

SCSIインターフェイスボードの取り付けと設定→「PART8 SCSIインターフェイス対応機器を使う」(p.71)

3 **接続しようとするハードディスクのSCSI IDを確認し、必要ならば設定を変更する**

0～6のいずれかの番号に設定します。他のSCSI機器も接続している場合には、それらの機器の番号と重複しないように気をつけてください。

SCSI機器は、SCSI IDという0～7の番号で装置を識別します。ハードディスクにはこの番号を設定するボタンが付いているので、それを使って設定してください。

4 **本体に取り付けたSCSIインターフェイスボードのSCSIコネクタにSCSI機器接続ケーブルのプラグを差し込む**

チェック!!

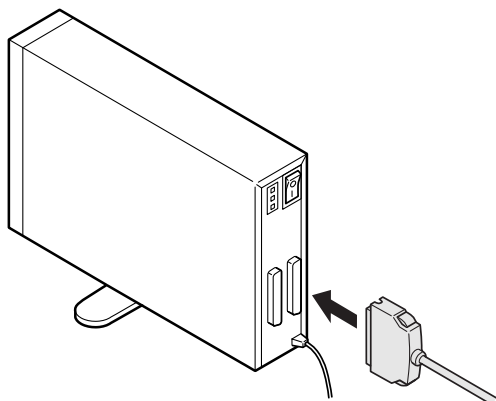
SCSI機器接続ケーブルのプラグは、逆向きに差し込めないようになっています。コネクタの向きをよく確認し、無理に押し込まないようにしてください。

コネクタによっては、左右のフックでプラグが外れないように固定することができます。このようなフックがある場合には、必ず固定するようにしてください。

5 **増設ハードディスクのSCSIコネクタに、SCSI機器接続ケーブルのもう片方のプラグを差し込む**

ハードディスクのSCSIコネクタは通常2つ用意されています。どちらのコネクタを使ってもかまいません。

チェック!!

ハードディスクを接続するときは、ハードディスクに衝撃を加えないように十分取り扱いに気をつけてください。

6 **増設ハードディスクの残りのSCSIコネクタに、ターミネータを差し込む**

参照

ターミネータについては→PART8の「SCSIに関する基礎知識」(p.73)

チェック!!

ターミネータを取り付けないと、ハードディスクが正しく認識されない場合があります。

7 **必要に応じて、フォーマットの作業に進む**

SCSIハードディスクのフォーマットについては、ハードディスクに付属のマニュアルなどもご覧ください。

ハードディスクをフォーマットする

一般的に、ハードディスクは取り付けただけでは使えません。情報を保存するためにハードディスクの区画整理をして、番地をつける「フォーマット作業」が必要です。

ハードディスクのフォーマットは次の手順で行います。

領域作成の準備をする（→ p.86）
以前使っていたことのあるハードディスクを接続した場合は、あらかじめ、そのハードディスク内のすべての領域をいったん削除します。

領域を作成する（→ p.88）
パソコンで使用するハードディスクの領域を設定します。ひとつのハードディスクをいくつかの領域（パーティション）に分けて別のドライブのように扱うことができます。

増設したハードディスクを確認する（→ p.90）

ドライブをフォーマットする（→ p.91）
データをハードディスクに保存できるように区画ごとに番地をつけ、またどのデータをどこにしまったかを記録しておく、一覧表のようなものを作成します。

スキャンディスク（→ p.92）
ハードディスクに壊れている部分がないかどうか、問題なく使えるかどうかをチェックします。破損している部分が見つかった場合には、自動的にその部分を使わないように設定します。

フォーマットには時間がかかります。そのため、フォーマット済みの状態で販売しているハードディスクもあります。この場合にはフォーマットの作業は必要ありません。ハードディスクのマニュアルで確認してください。

チェック!!

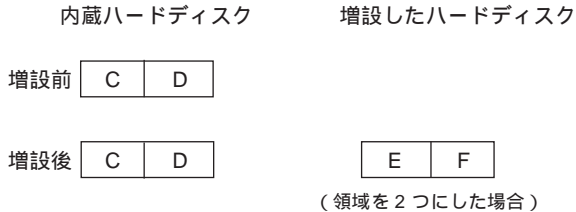
- すでに使用されているハードディスクをフォーマットすると、その中に保存されていたすべてのデータが消えてしまいます。必要なデータは、CD-R、CD-RW、MOディスクなどにバックアップしておいてください。
- すでにPC-9800シリーズ用にフォーマットされているときでも、もう一度領域を作成しフォーマットする必要があります。
- ハードディスクのボリュームラベルが全角文字または半角カタカナで入力されているときは、領域の削除ができません。「マイコンピュータ」でハードディスクドライブのアイコンを右クリックして、「プロパティ」で半角英数字に入力し直すかボリュームラベルを削除してください。
- 本体内蔵ハードディスク内に論理MS-DOSドライブを持たない拡張MS-DOS領域があるときは、ハードディスクを増設する前に削除してください。

増設したドライブのドライブ名について

ハードディスクを増設したときに、通常（基本 MS-DOS 領域を作成しない場合）は、あらかじめ取り付けられている内蔵ハードディスクの最後のドライブ名に続けてドライブ名が割りあてられます。

基本 MS-DOS 領域を作成しない場合

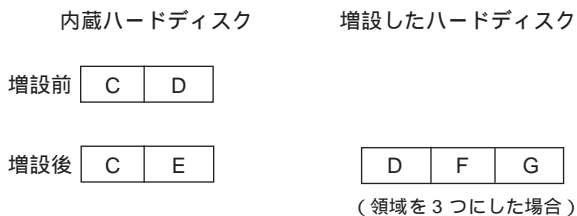
	内蔵ハードディスク	増設したハードディスク
増設前	C D	
増設後	C D	E F

（領域を 2 つにした場合）

ハードディスクの領域を確保するときに基本MS-DOS領域を作成した場合は、複数の領域を作成したドライブのドライブ名が変更されます。
以下の順序でドライブ名が割り当てられますので、ハードディスクを増設した後は、ハードディスクのドライブ名を一度確認してください。

① 内蔵ハードディスクの先頭ドライブ
② 増設したハードディスクの先頭ドライブ
③ 内蔵ハードディスクの残りのドライブ
④ 増設したハードディスクの残りのドライブ

基本 MS-DOS 領域を作成する場合

	内蔵ハードディスク	増設したハードディスク
増設前	C D	
増設後	C E	D F G

（領域を 3 つにした場合）

領域作成の準備をする

1 ハードディスクの電源を入れる

2 パソコンの電源を入れる

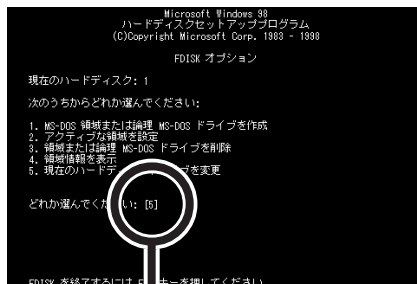
3 「スタート」をクリックし、「プログラム」にポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックする

MS-DOSプロンプトの画面が表示される

4 （8.4G バイト以下のハードディスクの場合）
キーボードから FDISK /x と入力し、【Enter】を押す
（8.4G バイトを超えるハードディスクの場合）
キーボードから FDISK と入力し、【Enter】を押す

「大容量ディスクのサポートを可能にしますか（Y/N）」と表示される。

5 キーボードから Y を入力し、【Enter】を押す

「FDISK オプション」の画面が表示される

6 キーボードから 5 を入力し、【Enter】を押す

チェック!!

手順 4 でのハードディスクの容量は 1G バイト =1,000,000,000 バイト換算です。

Y を選択すると、FAT32 でフォーマットされます（ただし、512M バイトより小さい領域を作成すると、ここで Y を選択していても FAT16 でフォーマットされます）。
N を選択すると、FAT16 でフォーマットされます（ただし、2,047M バイト以下の領域しか作成できません）。
なお、2,048M バイト以上の領域は、FAT32 でないと作成できません。

「現在のハードディスクドライブを変更」の画面が表示される。

画面には接続されているハードディスクが一覧表示されます。この中から増設したハードディスクを探して、その番号を入力します。通常は「2」と入力します。

チェック!!

「1」は、あらかじめ取り付けられている内蔵ハードディスクです。ドライブをまちがえないように、十分注意してください。

買ってきたばかりのハードディスクを接続して使うときは、以下の手順は不要です。このまま、次ページの「領域を作成する」に進んでください。以前使っていたハードディスクを接続した場合で、ハードディスクに領域が設定されているときは、手順8からの記述にしたがって領域を削除してください。

チェック!!

すでに使用しているハードディスクの領域を削除すると、その中に保存されていたすべてのデータが消えてしまいます。十分気をつけてください。

8 キーボードから 3 を入力し、【Enter】を押す

領域削除の画面が表示される。

9 キーボードから 2 を入力し、【Enter】を押す

「削除した拡張 MS-DOS 領域のデータはなくなります. 続けますか (Y/N)」と表示される。

論理ドライブが設定されているときは、手順 9 の前に 3 を入力し、拡張MS-DOS領域内の論理MS-DOSドライブをすべて削除してください。また、基本MS-DOS領域が設定されていれば、手順11のあとにそれも削除してください。

10 キーボードから Y を入力し、【Enter】を押す

「拡張 MS-DOS 領域を削除しました.」と表示される。

11 キーボードの【Esc】を押す

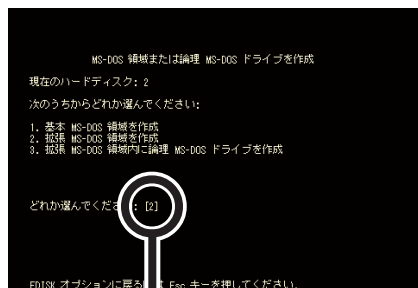
FDISK オプション画面が表示される。

チェック!!

FDISKを終了しないで次の手順に進んでください。

領域を作成する

1 キーボードから 1 を入力し、【Enter】を押す

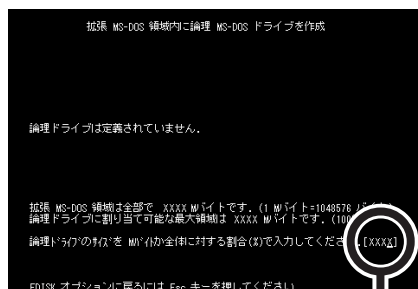
右のような画面が表示される

2 キーボードから 2 を入力し、【Enter】を押す

「領域のサイズを M バイトか全体に対する割合 (%) で入力してください. 拡張 MS-DOS 領域を作ります」と表示される。

3 キーボードの【Enter】を押す

「拡張 MS-DOS 領域を作成しました.」と表示される。

4 キーボードの【Esc】を押す

作成するドライブのサイズを入力する画面が表示される

5 サイズを入力して、【Enter】を押す

「論理 MS-DOS ドライブを作成しました. ドライブ名は変更または追加されました」と表示される。

チェック!!

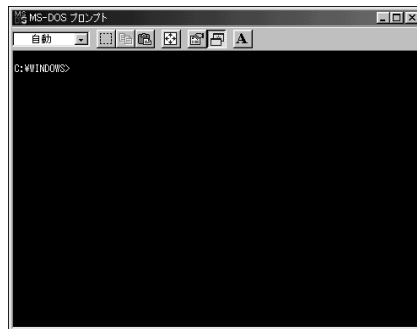
領域作成の途中で電源を切ったりすると、ハードディスクが使えなくなってしまうこともありますので、気をつけてください。

「領域作成の準備をする」の手順 5 で N を入力したとき、ひとつの領域の大きさは 2,047M バイトまでです。それより大きなハードディスクを使う場合には、領域を分けて作成します。

6 拡張 MS-DOS 領域がなくなるまで手順 5 を繰り返し、すべての拡張 MS-DOS 領域を論理ドライブに割り当てる

「拡張MS-DOS領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています」と表示される。

7 キーボードの【Esc】を 3 回押す

MS-DOSプロンプトの画面に戻る

8 キーボードから EXIT と入力し、【Enter】を押す

Windows 98 の画面に戻る。

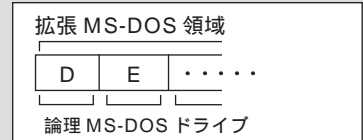
9 「スタート」をクリックし、「Windows の終了」をクリックする

「Windows の終了」画面が表示される。

10 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックする

Windows 98 が再起動する。

ここで、新しく作成した論理ドライブ名をメモにひかえておいてください。フォーマットするときに必要です。

ハードディスクの領域

参照

ハードディスクの増設によるドライブ名の変更について→このPARTの「増設したドライブのドライブ名について」(p.85)

増設したハードディスクを確認する

ハードディスクを増設したあとでWindows 98のマイコンピュータを見ると、増設した分だけ、ハードディスクアイコンが増えて表示されます。

2 増設した分だけハードディスクアイコンが増えていることを確認する

「領域を作成する」（p.88）の手順で、増設したハードディスクを複数の領域に分割した場合は、その分だけハードディスクアイコンも多く表示されているはずです。
もしも表示されていない場合は、増設に失敗しています。
もう一度、「領域作成の準備をする」（p.86）の手順からやり直してみてください。
または、ケーブルが正しく接続できているか、確認してください。

ドライブをフォーマットする

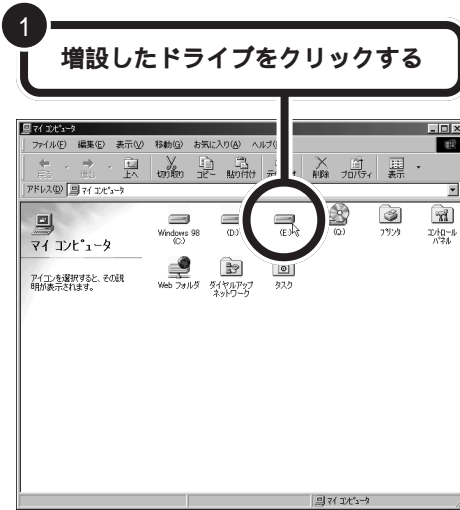
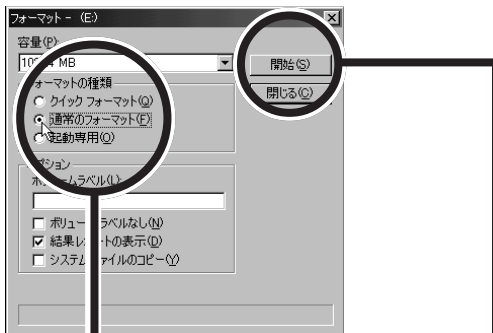
続いてWindows 98で、増設したハードディスクをフォーマットします。

データをハードディスクに保存できるように、Windows 98で区画ごとに番地をつけ、またどのデータをどこにしまったかを記録しておく、一覧表のようなものを作成します。

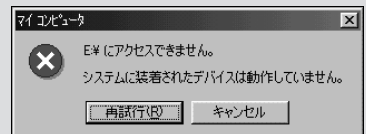
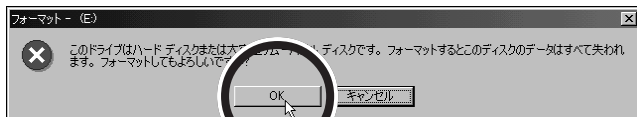
1 増設したドライブをクリックする

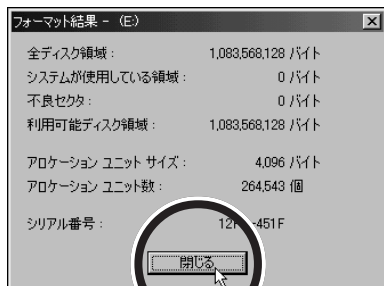
2 「ファイル」をクリックし、「フォーマット」をクリックする

フォーマットの画面が表示される。

3 「通常のフォーマット」をクリックする

4 「開始」をクリックする

チェック!!

すでに使用されているドライブをフォーマットすると、その中に保存されていたすべてのデータが消えてしまいます。十分気をつけてください。

増設したドライブが、どれかわからない場合には、マイコンピュータのハードディスクのアイコンを次々とダブルクリックしてみてください。増設したハードディスクの場合には、未フォーマットであることを示すウィンドウが表示されます。

このウィンドウが表示されたら、「キャンセル」をクリックし、ウィンドウを閉じてください。

確認の画面が表示される。

しばらくするとフォーマットが終了し、フォーマットの結果が表示される。

スキャンディスクの実行をうながす画面とヘルプが表示される。

スキャンディスクが正常に終了したら、フォーマット作業は終わりです。

スキャンディスクは、ハードディスクに壊れている部分がないか、問題なく使えるかをチェックするものです。破損している部分が見つかった場合には、自動的にその部分を使わないように設定します。

PART

10

ハードウェアの活用術

トラブルを解決するヒントやハードウェアを使うときのポイントについて説明しています。手順通りに作業したのに増設した周辺機器が使えないときやパソコンが起動しなくなったといったときには、このPARTを読んでみてください。

困ったときのチェックポイント

増設した周辺機器やパソコンがうまく動かないときは、次の点をチェックしてみてください。

●周辺機器に添付のマニュアルに沿って正しく取り付けましたか？

周辺機器のマニュアルをご覧になり、正しく取り付けたか、正しく設定したかもう一度確認してください。またそのマニュアルにQ&A情報があれば参照してください。

●電源は入っていますか？

外付けの周辺機器の場合には、取り付けた周辺機器の電源が入っていることを確認してください。

●取り付けた周辺機器は、このパソコンで使えるものですか？

取り付けた周辺機器がこのパソコンで使えるものかどうか、周辺機器のマニュアルを読んだりメーカーへ問い合わせて、確認してください。

●ケーブルは正しく接続されていますか？

見落としがちなことですが、パソコンや周辺機器を動かしたときなどに、ケーブルが外れたり、ずれたりしていることがよくあります。ケーブルがきちんと接続されているか、確認してください。

●本体内部のケーブル類はきちんと接続されていますか？

本体内部に機器を取り付けたときに、気づかないうちに内部の信号ケーブルなどを引っぱって、接続がゆるんでしまうことがあります。本体内部のケーブル類がきちんと接続されているかどうか、確認してください。

●ドライバは組み込みましたか？

周辺機器によっては、機器を取り付けた後、パソコン側にドライバ（やソフト）を組み込む必要のあるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧になり、正しくドライバを組み込んでください。

ドライバの情報は、このパソコンの「サポートセンタ」にあります。また、このパソコンに入っている追加情報や周辺機器のReadmeファイルに書いてあることがあります。

●周辺機器を、一度に複数取り付けませんでしたか？

周辺機器を一度に複数取り付けると、不具合があったとき、原因究明が困難になります。このような場合は、取り付けた機器をいったん全部外し、1つずつ取り付けてパソコンの動作を確認してください。

●設定はしましたか？

プレイパッドのように、接続したあとで設定の必要な機器があります。

●他の機器とリソースが競合していませんか？

システムのリソースが足りない場合、他の使用していないリソースを一時的に外し、そのリソースを割り当てる必要があります。

参照

ドライバについて→PART2 の「ドライバなどをインストールする」（p.25）

参照

このパソコンのドライバ情報→「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「トラブル解決Q&A」-「追加情報」-「周辺機器を使おうとしたら…」

周辺機器のドライバは、知らないうちに改善されて新しくなっていることもあります。「ドライバの組み込み方は正しいのに、うまく動かない」といった場合は、ドライバを最新のものにするとうまく動くようになることもあります。周辺機器のメーカーに問い合わせて、最新のドライバを入手してください。

参照

リソースの問題について→次のページの「リソースに関する問題」、「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「トラブル解決Q&A」-「周辺機器」またはWindowsヘルプ

リソースに関する問題

パソコンには、周辺機器が使用するための「リソース」という概念があります。ここでは、少しだけこのリソースについて説明します。

リソースって何？

リソースは、パソコンの中心となる「CPU」と周辺機器が、円滑に情報をやりとりするために必要な設定項目です。大きく「割り込みレベル(IRQ)」、「DMA チャネル」に分けられます。

これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定を割り当てなければいけませんが、リソースの数は限られており、このパソコンをご購入時には、すでにいくつかのリソースが使用されています。周辺機器を増設したら、それらの機器に空いているリソースを割り当てることになるのです。

リソースについて詳しく知りたい方は、市販のWindows 98の解説本やパソコン専門誌などをご覧ください。

参照

ご購入時のリソースの割り当て→PART12の「このパソコンが使用しているリソース」（p.128）

リソースの競合とは

周辺機器を増設した際、通常は、パソコン（Windows 98）が自動的にこれらのリソースの設定を管理するので、自分で設定を変更したり、確認する必要はほとんどありません。

ところが、機器によっては、パソコンまかせだとうまく設定できないことがあります。設定がうまくできずに、同じリソースが複数の機器に重複して割り当てられている状態を「リソースの競合」といいます。リソースが競合していると、機器が正常に使用できなかったり、システム全体の動作が不安定になってしまいます。

Windows 98 などでは、ひとつの割り込みレベルを複数の機器で使用できることがあります。このようにリソースを共有することを「リソースをシェアする」と表現します。この場合は、そのまま機器を利用できます。

増設したPCIボードや周辺機器にリソースの競合が起こっているかどうかは、「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」で調べることができます。

デバイスマネージャを表示したときに、その機器のアイコンに「！」マークや「×」マークが付いていたら、その機器の「プロパティ」を表示してみます。「デバイスの状態」の欄に「競合」を示すメッセージが表示されていたら、リソースが競合しています。

チェック!!
CyberTrio-NX のモードが「ベーシックモード」のとき（購入時の状態）は、デバイスマネージャの設定が行えません。「アドバンストモード」に変更してください。

リソースが競合していたら

増設した周辺機器のリソースが競合していて使えないときは、リソースの割り当てを変更する必要があります。

たとえば、当面使わない機器を一時的に「使用しない」設定に変えることで、その機器が使用していたリソースを解放して、増設した周辺機器に割り当て直すことができます。また、競合している相手の機器のリソースの割り当てを変更することで使用できるようになる場合もあります。

リソースの割り当ての変更やリソースの解放は、デバイスマネージャで行います。

チェック!!
- リソースの競合などを避けるため、ある機器のリソースを解放すると、その機器は使えなくなります。再びその機器を使う場合には、リソースを設定し直してください。
- 機器によっては、リソースの割り当て方に制限がある場合があります。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

デバイスのリソース設定の変更

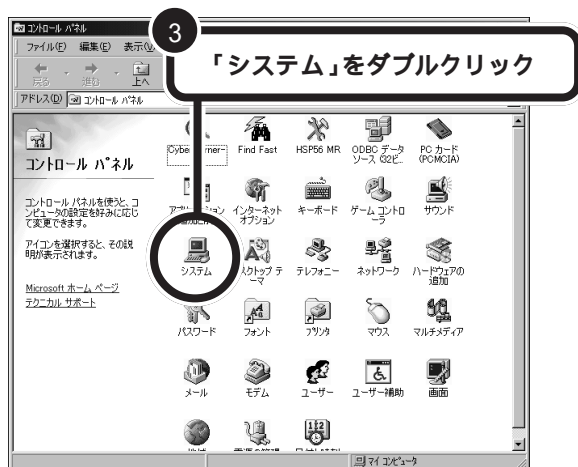
通常、プラグ＆プレイ対応のデバイスは、デバイスマネージャによって、自動的に設定されています。リソース設定が変更できないデバイスはそのままにして、変更できるデバイスを設定変更します。

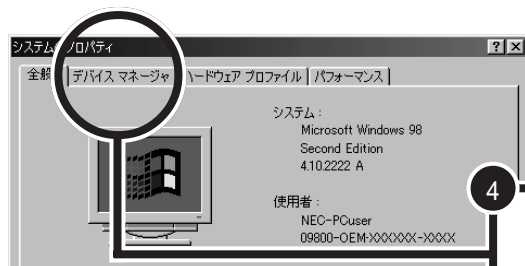
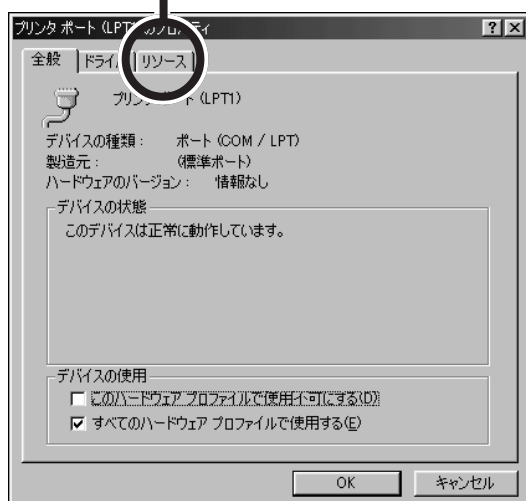
ここではプリンタポートのリソースを変更してみます。

チェック!!
CyberTrio-NX のモードが「ベーシックモード」のとき（購入時の状態）は、デバイスマネージャの設定が行えません。「アドバンストモード」に変更してください。

1 **「スタート」→「プログラム」→「CyberTrio-NX」の順にポイントして「Go to アドバンスモード」をクリック**

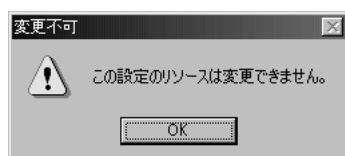
2 **「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックして「コントロールパネル」を開く**

6 「プリンタポート (LPT1)」をダブルクリック

チェック!!

「CyberTrio-NX」のモードが「ベーシックモード」の場合は、リソース設定の変更はできません。「アドバンストモード」に変更してください。
このパソコンはご購入時はベーシックモードになっています。

7 「リソース」タブをクリック

「リソース」タブが表示されます。

8 「自動設定を使う」のチェックを外す

「設定の変更」ボタンが有効になります。

ここで、「リソースの種類」から変更したい「I/Oの範囲」または「割り込み要求をクリックして、「設定の変更」をクリックすると、リソースの変更ができます。ただし、次のようなメッセージが表示されたデバイスは、リソースの変更はできません。

参照

このパソコンのリソースについて→PART12の「このパソコンが使用しているリソース」(p.128)

デバイスによっては、readme ファイル(「はじめにお読みください」)に変更方法が記載されていることがあります。

ハードディスク

ここでは、このパソコンに内蔵のハードディスクの使用上のポイントについて説明しています。

ハードディスクの取り扱い上の注意

- 電源が入っているときは、本体に振動や衝撃を加えたり、持ち運んだりしないでください。
- 電源を切って本体を運ぶときでも、できるだけ慎重に扱ってください。
- 電源を切るときは、『はじめにお読みください』で説明されている手順に従ってください。Windows 98以外のOSを使用している場合、キーボードの【Esc】を押してから電源スイッチを押してください。
- 温度・湿度条件を守ってください。
  温度10℃～35℃、湿度20%～80%（ただし、結露しないこと）
- ゴミやホコリの多い場所での使用・保管は避けてください。

参照
ハードディスクを増設する→「PART9 ハードディスクを増設する」（p.79）

ハードディスクのバックアップはこまめにとる

このパソコンに内蔵されているハードディスクは、非常に精密に作られています。毎分数千回転するディスク面と情報を読み取る磁気ヘッドの間は、わずかしか空いていません。このため、データを読み書きしていることを示すハードディスクアクセスランプの点灯中には、少しの衝撃を与えても故障の原因となることがあります。ハードディスクが故障すると、大切なデータが一瞬にして消滅してしまい、復帰できない可能性があります。二度と同じものを作れないような大切なデータは、バックアップをこまめにとることをおすすめします。

参照
バックアップ→「添付ソフトの使い方」-「バックアップ-NX」

CD-R/RWドライブ

このパソコンではCD-RやCD-RWに大量にデータを書き込むことができます。ここではCD-RやCD-RWにデータを書き込むときのポイントなどについて説明しています。

このパソコンのCD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブではCD-RやCD-RWに大量のデータ（650Mバイトなど）を記録できます。ハードディスクのように装置本体にデータを保存するのではなく、CD-RやCD-RWというCD-ROMと同じサイズの持ち運び可能なメディア（記録媒体）にデータを保存します。また、多くのCD-ROMドライブで読み込むことができるため、CD-ROMドライブのある他のパソコンとのデータの受け渡しに適しています。

CD-RとCD-RWの特長

このパソコンのCD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブでデータを書き込む（記録する）ことができるメディアには、CD-R（CD-Recordable）とCD-RW（CD-ReWritable）があります。それぞれ、次のような特長があります。

- CD-R（CD-Recordable）
  一度だけデータを書き込むことができる（書き換え不可）
  CD-ROMドライブで読み込みが可能
  メディアが安価
- CD-RW（CD-ReWritable）
  データを繰り返し書き換えることができる

CD-RやCD-RWに書き込む

CD-RWやCD-Rにデータを書き込むためには、専用のアプリケーション（ライティングソフト）が必要です。このパソコンには、次の2種類のライティングソフトが用意されています。それぞれに特徴がありますので、目的に応じて適した方をお使いください。

● DirectCD

- 書き込む前に、メディアをDirectCD専用にフォーマットする必要がある
- マイコンピュータやエクスプローラ、アプリケーションなどからデータを直接書き込める
- 作成したCDを他のパソコンで読み込むには、DirectCDでの処理が必要
- いろいろなデータを頻繁に書き込むのに適しているので、データのバックアップに適している

参照

DirectCDの操作について→「スタート」-「プログラム」-「Adaptec Direct CD」の「Direct CD ヘルプ」または「クイックリファレンス」

●Easy CD Creator

Easy CD Creatorは、ご購入時ではインストールされていません。Easy CD Creatorを使うには添付のアプリケーションCD-ROMからインストールを行います。

- データを書き込むときに、Easy CD Creatorを起動させる必要がある
- いろいろな形式のCDをガイドに沿って簡単に作成できる
- 作成したCDを他のパソコンでそのまま読み込むことができる
- 大きなデータをまとめて書き込むのに適している
- デジタルカメラで撮った写真データなどの受け渡しに適している

●データを書き込む際の注意

- 書き込みを行う前には必ず、アプリケーションを終了し、スクリーンセーバーや常駐プログラムを解除してください。
- 書き込みに失敗したCD-Rは再生できなくなります。書き損じによるCD-Rの補償はできませんのでご注意ください。
- データを書き込むときは、書き込み中にスタンバイ状態にならないように、省電力の設定を「なし」に設定してください。
- 作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他のCD-ROMドライブ、CD-Rドライブ、CD-RWドライブでは使用できない場合がありますのでご注意ください。

他のCD-ROMドライブでメディアを読み込むときの注意

このパソコンのCD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブでデータを記録したメディアを、他のCD-ROMドライブで読み込めるようにするには、書き込みに使用したアプリケーションによっては注意が必要な場合があります。詳しくは、アプリケーションに添付のマニュアルやヘルプで確認してください。またCD-R/RWメディアによっては、お使いのCD-R/RWドライブでは、読み込めない場合があります。マルチリード対応のCD-ROMドライブであれば読み込むことができます。マルチリード対応のCD-ROMドライブについては、各メーカーにお問い合わせください。

参照

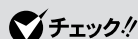
Easy CD Creatorのインストール方法→「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」-「Easy CD Creator」

参照

Easy CD Creatorの操作について→「スタート」-「プログラム」-「Adaptec Easy CD Creater 4」-「クイックリファレンス」

参照

スタンバイ状態にならないように設定する→このPARTの「自動的にスタンバイ状態にならないように設定する」(p.107)

チェック!!

お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD等について著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製等の際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製等に関する注意事項にしたがってください。

参照

CD-RやCD-RWをCD-ROMドライブで読めるようにするには→「Easy CD Creator」または「DirectCD」のヘルプ

省電力機能（スタンバイ）

パソコンを使っていないときに、電源を切らずに電力の消費を節約できる省電力機能（スタンバイ）の設定や注意について説明しています。

パソコンを使っていないときには、電源を切っておくと、電力の節約になります。しかし、電源を切るには、作業中の状態を終了（アプリケーションを終了したり）して、Windowsを終了する必要がありますので、少しの間だけパソコンを使わない場合には、つい電源を入れっぱなしにしがちです。

しかし、このパソコンには、電源が入ったままでも電力消費を抑える機能があります。これを省電力機能（スタンバイ）といいます。この機能を使うと、本体は電源が入ったままでも、ファンを止めたり、ディスプレイの画面を暗くしたり、ハードディスクの電源を切ったりして、電力消費を抑えることができます。

このようにして電力消費を抑えている状態を「スタンバイ状態」と呼びます。スタンバイ状態のときは、作業していた内容は保持（記憶）されているので、もとの状態に復帰させると、すぐに作業が再開できます。

このパソコンは購入時の状態では、「ホーム / オフィス デスク」に設定されています。この設定では、キーボードやマウスに触れない状態が 20 分以上続くと、スタンバイ状態になり、電源ランプがオレンジ色に点灯します。

チェック!!

- プリンタやスピーカなどの周辺機器や、通信回線などは自動的に切れないので、注意してください。
- ファンは使用環境、温度などによっては、スタンバイ状態になっていても、回転することがあります。
- アプリケーションによっては、省電力機能のことを「サスペンド」という呼び方をしている場合があります。これは、スタンバイ状態にすることと同じ意味ですので、サスペンドをスタンバイに読みかえてください。また、アプリケーションによっては、スタンバイ状態から、もとの状態に復帰することを「レジューム」と呼んでいる場合があります。
- ご使用になる周辺機器やアプリケーションによっては、省電力機能を使用できない場合があります。

電源の状態

このパソコンの電源の状態について説明します。

- 電源が入っている状態
  通常、パソコンを使っている状態です。
- 電源が切れている状態
  Windows を終了して、パソコンの使用を終了している状態です。
- スタンバイ状態
  さまざまな省電力機能（ファンを止める、ディスプレイの表示を消す、ハードディスクの電源を切るなど）により、消費電力が抑えられている状態です。本体の電源は入ったままですが、消費電力は、節約されています。スタンバイ状態にする前の状態へ、すぐに復帰することができます。

●このパソコンのスタンバイ状態について

スタンバイ状態になると、このパソコンは次のようになります。

	本体	ディスプレイ	
	電源ランプ	表示	電源ランプ
電源ON	緑色に点灯	表示される	緑色に点灯 ※
スタンバイ	オレンジ色に点灯	表示されない	オレンジ色に点灯 ※

※別売のディスプレイの場合は、異なることがあります。

スタンバイ状態にする

スタンバイ状態にするには、次の方法があります。

●一定時間後に自動的にスタンバイ状態にする

「コントロールパネル」の「電源の管理」で時間を設定しておくと、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクへのアクセスがなく、一定の時間が経つと、自動的にスタンバイ状態になります。購入時には、約20分間で自動的にスタンバイ状態になるように設定されています。

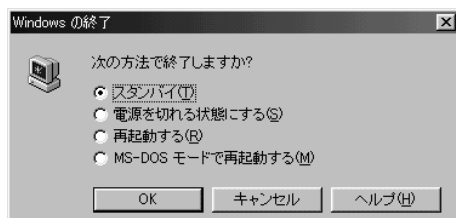
参照

電源管理の設定について→「添付ソフトの使い方」-「省電力機能の設定」

●「Windows の終了」画面でスタンバイ状態にする

「Windows の終了」画面で、スタンバイ状態にします。
次の手順にしたがってください。

1 「スタート」ボタン→「Windows の終了」をクリックする

「Windows の終了」画面が表示されます。

2 「スタンバイ」をクリックする

3 「OK」をクリックする
スタンバイ状態になります。

●「タイマー機能で指定した時間に自動的にスタンバイ状態にする

「Timer-NX」のタイマー機能を使うと、指定した時間にスタンバイ状態にすることができます。

参照
Timer-NX の使い方→「添付ソフトの使い方」-「Timer-NX」

スタンバイ状態にするときの注意

スタンバイ状態にするときには、次のような注意が必要です。これを怠ると、スタンバイ状態にする前の内容が失われたり、スタンバイ状態にする前の内容が復元できないこともあります。

●スタンバイ状態にできないとき

使用するアプリケーションソフトや拡張機器によっては、スタンバイ状態からの復帰ができなかったり、アプリケーションソフトが正常に動作しないことがあります。このようなアプリケーションの使用時には、スタンバイ状態にしないでください。また、使用する周辺機器によっては、スタンバイ状態から復帰できないことがあります。

参照
このパソコンがスタンバイ状態にならないようにする→このPARTの「自動的にスタンバイ状態にならないように設定する」(p.107)

●スタンバイ状態にする前の内容が失われるとき

スタンバイ状態にするときに次のことが起きると、電源が切れた状態になるため、スタンバイ状態にする前の内容は失われます。

- 電源ケーブルが本体や AC コンセントからはずれたとき
- 停電が起きたとき
- 電源スイッチを約 4 秒以上押し続けて、強制的に電源を切ったとき

このような場合は、次に電源を入れたときに、「Windowsが正しく終了されませんでした...」と表示され、スキャンディスクが実行されます。画面の指示にしたがってください。

●スタンバイ状態にする前の内容の復元が保証されない場合

次のような場合は、スタンバイ状態にする前の内容は保証されません。

- スタンバイ状態にする前の内容の記憶中、または復元中にCD-ROMなどを入れ替えたとき
- スタンバイ状態にする前の内容の記憶中、または復元中にこのパソコンの環境を変更したとき
- スタンバイ状態のときにこのパソコンの機器構成を変更したとき

また、次のような状態でスタンバイ状態にしても、スタンバイ状態から復帰後の内容は保証されません。

- プリンタへ出力中のとき
- モデムなどを使って通信中のとき
- サウンド機能により音声を再生しているとき
- ハードディスクを読み書き中のとき
- CD-ROMなどを読み取り中のとき
- スタンバイに対応していない周辺機器、拡張ボードを取り付けたとき

●スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されない場合

次のような場合には、スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されなかったことを表しています。

- アプリケーションソフトが動作しない
- キーボードやマウスを操作しても、スタンバイ状態から復帰しない

このような状態になるアプリケーションソフトを使用中には、スタンバイ状態にしないでください。
キーボードやマウスを操作してもスタンバイ状態から復帰できなかったときには、電源スイッチを約4秒以上、押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。この場合、BIOSセットアップメニューの内容が、ご購入時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。また何らかのエラーメッセージが表示されたときは『困ったときのQ&A』をご覧ください。

参照
BIOSセットアップメニュー→PART12の「BIOSセットアップメニュー」(p.120)

●その他の注意

- 通信ソフトを使用中の場合は、必ず通信を終了させてから、スタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- CD-R/RWドライブなどにフォトCDが入っているときにスタンバイ状態にした場合は、復帰に多少の時間がかかることがあります。
- CDの再生中にスタンバイ状態にした場合、CDは再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前にCDの再生を止めてください。
- 「デバイスマネージャ」でドライバなどの設定をしているときや、「プリンタウィザード」や「ハードウェアウィザード」、「モデムウィザード」実行中は、スタンバイ状態にしないでください。これらの画面を表示しているときに、スタンバイ状態になると、復帰した後、キーボードとマウスを使用することができなくなります。

・「Windows Media Player」でビデオCDやMPEGデータを再生しているときは、スタンバイ状態にできない場合があります。
・スタンバイ状態にするときは必ずPCカードをPCカードスロットから取り外してください。
・PCカードやLANカードを使う場合は、スタンバイ状態にしないでください。また、自動的にスタンバイ状態になる設定も行わないでください。

参照
このパソコンがスタンバイ状態にならないようにする→このPARTの「自動的にスタンバイ状態にならないように設定する」(p.107)

スタンバイ状態から電源が入っている状態に復帰する

スタンバイ状態から電源が入っている状態に復帰するには、次の方法があります。

●マウスやキーボードを操作して復帰する

スタンバイ状態のときに、マウスを動かすか、キーボードのキーをどれか押す。

●タイマー機能で指定した時間に自動的に復帰する

「Timer-NX」のタイマー機能を使って、指定した時刻に、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

参照
タイマー機能→「添付ソフトの使い方」-「Timer-NX」

●電話やFAXを受信したときに自動的に復帰する（リング機能）

・電話やFAXを受信すると、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

・「Timer-NX」のリング機能を使用して、電話やFAXを受信したときに、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

参照
Timer-NXの使い方→「添付ソフトの使い方」-「Timer-NX」

●タスク スケジューラで指定した時間に自動的に復帰する

タスク スケジューラ（「マイコンピュータ」-「タスク」）を使うと、指定した時刻に自動的に電源が入っている状態に復帰し、指定したアプリケーションを起動することができます。

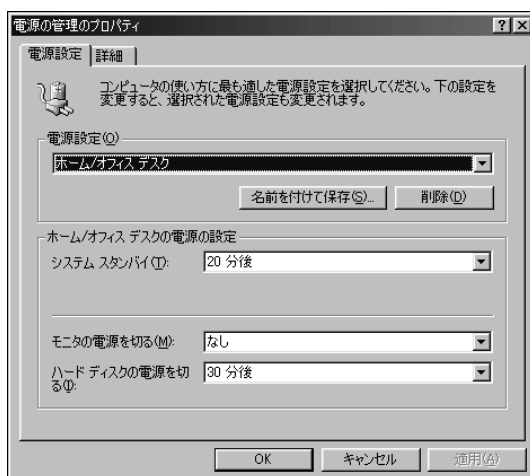
参照
タスク スケジューラの使い方→Windows 98のヘルプ

自動的にスタンバイ状態にならないように設定する

このパソコンはご購入時には20分間キーボードやマウスから入力がないと自動的にスタンバイ状態になるように設定されています。アプリケーションやPCカードなどの周辺機器によっては自動的にスタンバイ状態にならないように設定が必要な場合があります。そのときは、次の方法で自動的にスタンバイ状態にならないように設定してください。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックして「コントロールパネル」開く

2 「電源の管理」アイコンダブルクリックする

「電源の管理 プロパティ」画面が表示されます。

3 「電源設定」タブの「システム スタンバイ」の▼をクリックして「なし」を設定する

4 「OK」をクリックする

チェック!!

省電力機能(スタンバイ)の詳細な設定については「電源の管理 プロパティ」画面で設定します。

参照

「電源の管理 プロパティ」で設定する
→「添付ソフトの使い方」-「省電力機能の設定」

PART

11

さらに広がるパソコンワールド

ここでは、パソコンの使い方を広げるアプリケーションを紹介します。自分流にパソコンを使いこなすための参考にしてください。

携帯電話と連携する

このパソコンには、携帯電話と連携して利用できるソフト「携快電話 2001N」、「携帯連携 /i」が用意されています。

このパソコンでは、携帯電話と連携してそれぞれ、次のようなことができるアプリケーションが用意されています。

・携快電話 2001N

別売の携帯電話接続ケーブルを接続して、携帯電話の電話帳を編集したり、着信メロディを作ることができます。また、iモード機能を備えている携帯電話なら、パソコンで入力した文章を携帯電話から送信したり、反対に携帯電話で受信したメールをパソコンに読み込んで保存できます。

・携帯連携 /i

このパソコンに入っている Microsoft Outlook 2000 に入力したスケジュールなどをインターネットの自分のホームページスペースにアップしておくと、そのページにアクセスしてスケジュールを携帯電話に呼び出すことができます

携快電話 2001N を利用する

●携快電話 2001N を利用できる携帯電話の種類

主な対応機種は、次のとおりです。
N502i*/N501i/N208/N207/P502i*/P501i/P208*/P207
（＊：着メロ編集機能は、ご利用になれません。）
対応機種については、以下を参照してください。
・携快電話専用ホームページの対応機種について
　http://www.sourcenext.co.jp/k1/target/
・携快電話 2001N の Readme ファイル
「スタート」-「プログラム」-「携快電話 2001N」-「Readme」
（Readmeファイルを見るには、携快電話2001Nをインストールする必要があります。）

●携快電話 2001N のインストール

「携快電話 2001N」は、ご購入時の状態ではインストールされていません。「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」-「携快電話 2001N」をご覧になり、「アプリケーション CD-ROM」を使ってインストールしてください。

●ドライバのインストール

携帯電話をはじめてパソコン本体に接続するときには、ドライバのインストールが必要となります。次の手順にしたがって、ドライバをインストールしてください。なお、この操作を一回行えば、次回以降はケーブルを接続するだけですぐに使えるようになります。

1　パソコンの電源を入れる。

チェック!!

携帯電話をパソコン本体に接続するには、別売の携帯電話を接続するケーブル（PC-VS-K10 または PC-VS-K11）が必要です。お使いの携帯電話の機種により接続できるケーブルは異なりますので、ご購入の際、よくお確かめください。

参照

携快電話 2001N のインストール→「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」-「携快電話 2001N」

2 CD-R/RWドライブに「アプリケーションCD-ROM Vol.1」をセットする。

3 携帯電話接続ケーブルのプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」の画面が表示されます。

4 「次へ」をクリックする。

5 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」が選択されていることを確認して、「次へ」をクリックする。

6 「検索場所の指定」にチェックを入れて、次のように入力して、「次へ」をクリックする。
Q:\K2001N\driver
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」と表示されます。

7 「次へ」をクリックする。
「新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました」と表示されます。

8 「完了」をクリックする。

9 CD-R/RWドライブから「アプリケーションCD-ROM Vol.1」を取り出す。
これで、ドライバのインストールは完了です。

●携快電話 2001N を使う

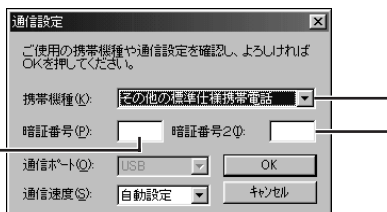
携快電話2001Nには、携帯電話の電話帳などを編集するための「携快電話2001N」、ウェイクアップ画面を編集するための「ウェイクアップツール」、着信メロディを編集するための「着メロツール」があります。ここでは、「携快電話 2001N」の使い方を説明します。

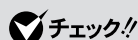
1 携帯電話接続ケーブルがパソコン本体のUSBコネクタに正しく接続されていることを確認する。

2 携帯電話の電源を入れる。

3 携帯電話接続ケーブルと携帯電話を接続する。

4 「スタート」-「プログラム」-「携快電話2001N」-「携快電話2001N」の順にクリックする。
「はじめに、お使いの携帯電話から機種情報を受信します。」と表示されます。

5 「OK」をクリックする。
「携快電話2001N」をはじめて起動した場合や前回と接続している機種が異なる場合は、ここで「通信設定」画面が表示されるので、携帯機種、暗証番号をそれぞれ設定してください。

参照
USBコネクタを差し込む→PART3の「USB対応機器を接続する」(p.38)

チェック!!

・携帯電話接続ケーブルはパソコンに接続したあとに携帯電話に接続してください。
・携帯電話によっては携帯電話接続ケーブルのコネクタを携帯電話のコネクタに差し込むと電源がオフになりますが、問題ありません。

①▼をクリックして携帯電話の機種を選択します。機種名がない場合は、該当する事業者モード、または標準機種を選択します。
②携帯電話の暗証番号を入力します。入力したパスワードは「*」で表示されます。
③携帯電話の機種により暗証番号が2つある場合のみ入力します。入力したパスワードは「*」で表示されます。

6 「OK」をクリックする。
「携快電話2001N」の起動画面が表示されます。

これで、「携快電話2001N」がご利用になれます。「ヘルプ」ボタンをクリックすると、ヘルプが表示されます。詳しい使い方は、ヘルプをご覧ください。

携帯連携 / iを利用する

●必要な環境を確認する

「携帯連携 / i」を利用するには、次の環境が必要です。
・パソコンにMicrosoft Outlook 2000がインストールされていること
・携帯電話にiモード機能があること
・パソコンがインターネットに接続でき、データを登録できる領域を持っていること（FTPプロトコルに対応したインターネットに公開可能なホームページスペースがあること）
詳しくは、携帯連携 /iのヘルプをご覧ください。

●携帯連携 /iのインストール

携帯連携 /iは、ご購入時の状態ではインストールされていません。「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」-「携帯連帯 /i」をご覧になり、「アプリケーションCD-ROM」を使ってインストールしてください。

参照
携帯連携 /iのインストール→「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」-「携帯連携 /i」

● Microsoft Outlook 2000でデータを編集する

携帯連携 / iは、Microsoft Outlook 2000のデータを利用します。Office 2000に添付されていたマニュアルやヘルプをご覧の上、Microsoft Outlook 2000のデータを編集してください。

●携帯連携 /iを起動して、自分のホームページスペースにデータをアップする

インターネットに接続できる環境にあるか確認（電話回線に正しく接続されているかなど）し、携帯連携 /iを起動してMicrosoft Outlook 2000のデータを自分のホームページスペースにアップします。アップしておいたデータは、携帯電話で、アップしたホームページにアクセスすることで呼び出すことができます。詳しくは、携帯連携/iのヘルプをご覧ください。

音声でパソコンを操作する

日本語音声認識ソフト「SmartVoice3.0c」をインストールすると声で文字の入力やパソコン操作や文章入力ができます。

チェック!!
このパソコンの音声対応アプリケーションは以下のとおりです。
- 一太郎10・花子10パック（VoiceATOK）
- Office 2000 Personal（MS-IME2000）
- 翻訳アダプタ
- 招福麻雀 七福神
- 駅すぱあと

ヘッドセットマイクを接続する

このパソコンに添付のヘッドセットマイクを接続します。

1 本体と周辺機器の電源を切り、リアカバーを外す

参照
リアカバーの外し方→PART2の「本体の開け方と閉め方」（p.28）

チェック!!
ヘッドセットマイクを接続するとリアカバーは本体に取り付けることができなくなります。取り外したリアカバーは大切に保管しておいてください。

2 本体背面のマイクロホン端子にヘッドセットマイクのプラグを差し込む

チェック!!
「駅すぱあと」、「招福麻雀 七福神」を音声対応でご利用になる場合は、SmartVoiceをインストールする前にこれらを削除し、SmartVoiceをインストールした後、再インストールしてください。

参照
「駅すぱあと」、「招福麻雀 七福神」の追加と削除→「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」-「駅すぱあと」または「招福麻雀 七福神」

● SmartVoice のマイク機能を使うときの注意

周囲の騒音のため、発声した音声が正しくひろえないことがありますので、できるだけ静かな環境で使用してください。

SmartVoice 起動時の標準の設定では、マイクは OFF の状態です。マイクのON/OFFの切り替えは、【Shift】キーで行います。文字入力で【Shift】キーを使うためマイクの ON/OFF の切り替えがうまくいかないときは、マイクキーを【Shift】キー以外に設定することができます。

参照

SmartVoice起動時のマイク状態の設定を変更する→SmartVoiceのヘルプまたは「スタート」-「プログラム」-「SmartVoice」-「SmartVoice ユーザーズガイド」の「第4章Smart Voice の設定」-「音声機能のオプションの設定」

参照

マイクキーを設定する→SmartVoiceのヘルプまたは「スタート」-「プログラム」-「SmartVoice」-「SmartVoice ユーザーズガイド」の「第4章Smart Voice の設定」-「音声機能のオプション設定」の「マイクの設定」

SmartVoice を使うための設定をする

ヘッドセットマイクを接続したら、SmartVoiceのインストールを行います。

● SmartVoice のインストール

SmartVoiceを使うには、パソコンに添付のアプリケーションCD-ROMでインストールをする必要があります。SmartVoiceのインストールの方法については、「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」の「SmartVoice」をご覧ください。

参照

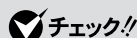
SmartVoice のインストール→「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「アプリケーションの追加と削除」-「SmartVoice」

● SmartVoice の起動

SmartVoiceのインストールが終了したら、ヘッドセットマイクを装着して SmartVoice を使う前の設定や調整をします。

参照

ヘッドセットマイクの装着のしかた→ヘッドセットマイクのビニール袋に入っている説明書

チェック!!

起動中の他のアプリケーションはすべて終了してください。

1 「スタート」ボタン -「プログラム」-「SmartVoice」-「SmartVoice バー」をクリックする

SmartVoice バーが表示され、「入力レベルの調整が一度もおこなわれていません。」と表示されます。

2 「OK」をクリックする

音声入力のための調整画面が表示されます。

●音声入力の準備をする

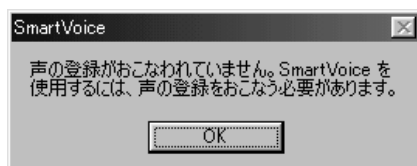
はじめて SmartVoice を起動するときは「入力レベル調整」につづいて「話者の声の登録」を行う必要があります。画面の指示にしたがって、設定するとパソコンが音声の認識をしやすくなります。

・「入力レベル調整」を行ってください。

1 「すべての調整をおこなう」が選択されていることを確認して「次へ」ボタンをクリックする

画面の指示にしたがって調整の操作を行ってください。

・「入力レベル調整」が終わったら「話者の声の登録」を行ってください。

1 「OK」をクリックする

2 「新しく登録する」が選択されていることを確認して「次へ」ボタンをクリックする

画面の指示にしたがって調整の操作を行ってください。

チェック!!

初回起動時は「すべての調整をおこなう」のみ選択できます。

参照

「入力レベル調整」のしかたについて
→「スタート」-「プログラム」-「SmartVoice」-「SmartVoiceユーザーズガイド」の「第 2 章　Smart Voice の起動」-「入力レベル調整」

参照

「話者の声の登録」のしかたについて
→「スタート」-「プログラム」-「SmartVoice」-「SmartVoiceユーザーズガイド」の「第 2 章　Smart Voice の起動」-「話者の声の登録」

参照

「話者の声の登録」がうまくいかないとき→「スタート」-「プログラム」-「SmartVoice」-「SmartVoiceユーザーズガイド」の「第 5 章 困ったときは」

チェック!!

話者の名前はキーボードで入力します。音声では入力できません。

「入力レベル調整」と「話者の声の登録」が終了すると、SmartVoiceバーの話者名に名前が表示され、「ワンポイント」画面が表示されます。

これでSmartVoiceが使えるようになります。

● SmartVoiceバーの機能について

①「メニュー」ボタン
「メニュー」ボタンを押すと、次のメニューが表示されます。
・[音声機能メニュー]：音声機能メニューを表示します。
・[SmartVoiceバーの設定]：SmartVoiceバーの設定ダイアログを表示します。
・[音声機能の設定]：音声機能の設定サブメニューを表示します。
・[ヘルプ]：ヘルプサブメニューを表示します。
・[SmartVoiceバーの終了]：SmartVoiceを終了します。

②音声入力状態表示アイコン
音声入力が使用可能な状態にあるかを示します。青は音声入力ができる状態を、赤は音声入力ができない状態を示します。

③テロップ表示エリア
音声コマンド名やSmartVoiceのメッセージなどが表示されます。

④話者名
現在の話者の名前が表示されます。

⑤ボリュームメーター
マイクロホンがON状態のときの受け取った音量が表示されます。

⑥マイクボタン
マイクロホンのON/OFFの切り替えができます。

⑦最小化ボタン
SmartVoiceを最小化します。

⑧終了ボタン
SmartVoiceを終了します。

チェック!!

・声の登録を多く行うと認識性能を向上させることができますので、なるべく多くの文章を発音することをおすすめします。
・声の登録は後から行うことができます。SmartVoiceバーのボタン-「音声機能の設定」-「声の登録」をクリックしてください。

チェック!!

SmartVoiceをある程度使いこなし、マイクロホンに向かって発声することにも慣れてきた時点でもう一度「話者の声の登録」を行うことをおすすめします。

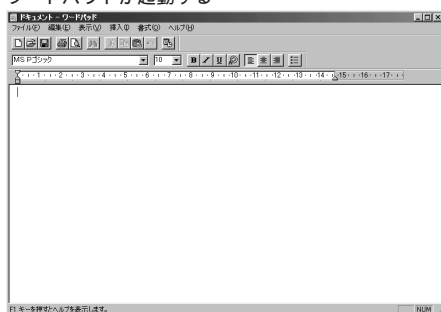
チェック!!

最小化ボタンをクリックするとSmartVoiceバーが消えて、デスクトップ右下のタスクトレイにを表示します。再度表示したいときはをダブルクリックします。

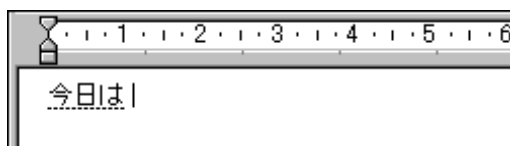
音声でアプリケーションの操作や文章の入力をする

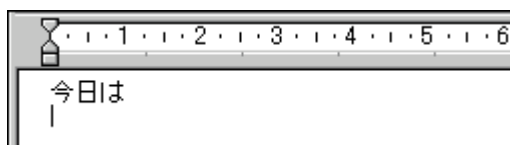
ここでは、ワードパッドを音声で起動して、SmartVoiceインラインで音声入力します。

1 「わーどぱっどをきどう」と発音する

ワードパッドが起動する

2 「いんらいんにゅうりょく」と発音する

入力の準備ができるとSmartVoiceバーに とデスクトップの右下に が表示される

3 「こんにちは」と発音する

下線つきの文字が表示される

4 「けってい」「ここでかいぎょう」と発音する

下線が消えて入力する文字が決定する
カーソルが次の行の先頭に移動する

SmartVoice インラインとは、音声で直接ワープロソフトやメールソフトなどに文章入力することができるSmartVoice の機能のひとつです。

チェック!!

- 話すときは、ヘッドセットマイクを口から約 2cm 以内のところに近づけてください。
- 音声が正しく認識されない場合は、口とヘッドセットマイクの距離を調整してください。
- ヘッドセットマイクに向かって何か話すと、ボリュームメーターが動くことを確認してください。

SmartVoice にはあらかじめ、パソコンを操作する音声が登録されています。これを「音声コマンド」といいます。

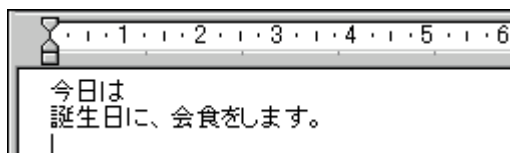
参照

音声コマンドの一覧→SmartVoice バーの メニュー ボタン -「音声コマンドリストの表示」をクリックします。

チェック!!

SmartVoice インライン入力中はキーボードによる文字入力はできません。

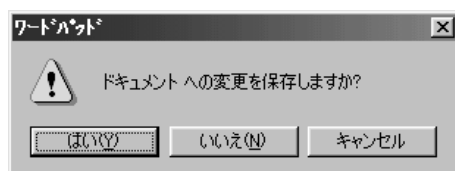
同じように、文字を音声で入力していきます。

5 「たんじょうびに」「けってい」「てん」「けってい」「かいしょくをします」「けってい」「まる」「けってい」「ここでかいぎょう」と発音する

文を一気に読み上げてしまうと正しく認識できません。うまく入力できないときは、ゆっくりとていねいに発音してください。

6 「いんらいんしゅうりょう」と発音する

しばらくすると と が消える

7 「ふぁいる」「わーどぱっどのしゅうりょう」と発音する

次の画面が表示される

8 ここでは文章の保存はしないので「いいえ」と発音する

画面が消えて、ワードパッドが終了する

最後にSmartVoiceを終了します。

9 SmartVoiceバーの［メニュー］ボタンをクリックして、「SmartVoiceバーの終了」をクリックする

SmartVoiceバーとSmartVoiceAssistantが消えてSmartVoiceが終了する

参照

うまく入力できないとき→SmartVoiceのヘルプまたは「スタート」-「プログラム」-「Smart Voice」-「SmartVoiceユーザーズガイド」の「第3章 SmartVoiceの使い方」-「SmartVoiceインラインで文章を入力する」、「第5章 困ったときは」

PART

12

本機の設定を変更する

ここでは、本機の使用環境を設定するBIOSセットアップメニューとこのパソコンのリソースについて説明しています。
通常は、この設定を変更する必要はありません。

BIOS セットアップメニュー

「BIOS セットアップメニュー」ではハードウェア環境の確認と変更、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

チェック!!

BIOS セットアップメニューは画面上では「Phoenix BIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。

BIOS セットアップメニューを使ってできること

次のような設定ができます。

・現在の日付と時間の設定

・BIOS セットアップメニューで使用する言語の選択

・ハードウェア環境の確認と変更

・セキュリティの設定

・省電力管理の設定

・起動の設定

BIOS セットアップメニューを使う

BIOS セットアップメニューの起動とメイン画面

① 電源を入れ、「NEC」ロゴの画面で「＜F2＞キーを押すと、BIOS セットアップメニューを起動します。」と表示されたら、すぐに【F2】を押す。
「セットアップを起動しています。...」と表示された後、BIOS セットアップメニューが起動します。

Windows が起動した場合は、Windows を終了して電源を切り、もう一度手順①からやり直してください。

```
PhoenixBIOSセットアップユーティリティ
メイン  詳細  セキュリティ  省電力管理  起動  終了
  システム時刻:        [XX:XX:XX]           項目ヘルプ
  システム日付:        [XXXX/XX/XX]         <Tab>キー、<Shift-T
                                            ab>キー、<Enter>キー
  言語:                [日本語（JP）]       は、項目を選択します。
  フロッピィディスクA:  [1.44/1.25Mb 3.5 ”]

▶プライマリマスタ      [XXXXX]
▶プライマリスレーブ    [XXXXX]
▶セカンダリマスタ      [なし]
▶セカンダリスレーブ    [なし]

▶キーボード機能
  起動時の自己診断画面  [使用しない]

  システムメモリ：      640KB
  拡張メモリ：          ××KB
  BIOS リビジョン       XXXX

F1  ヘルプ  ↑↓ 項目の選択      −/+     値の変更              F9  デフォルトの設定
Esc 終了    ←→ メニューの選択  Enter▶ サブメニューの選択    F10 保存して終了
```

メニューバー
パラメータ
キーステータスバー

BIOS セットアップメニューの終了

変更した設定を有効にして終了する場合

① 【F10】を押す。
「セットアップ確認」画面が表示されます。

② 「はい」を選んで【Enter】を押す。
設定値が保存され、BIOS セットアップメニューが終了します。また、メニューバーの「終了」でも BIOS セットアップメニューを終了することができます。

起動前の設定のまま終了する場合

① 【←】【→】でメニューバーの「終了」を選ぶ。

② 【↓】を押して「変更を保存せずに終了する」にカーソルを合わせ【Enter】を押す。

チェック!!

ここで「設定が保存されていません！保存してから終了しますか？」と表示された場合は、【→】を押して「いいえ」にカーソルを合わせ【Enter】を押してください。
BIOSセットアップメニューを起動する前の設定のまま（設定の変更を行った場合はすべて無効にして）BIOS セットアップメニューが終了します。

デフォルト値の設定

① 【F9】を押す。
「セットアップ確認」画面が表示されます。

② 【←】【→】で「はい」を選んで【Enter】を押す。
すべての設定値をデフォルト値（初期値）に戻します。
また、メニューバーの「終了」でもデフォルト値の設定ができます。

次にメニューバーで選択された各画面について説明します。

BIOS セットアップメニューの基本操作

- 操作はキーボードで行います。
- 【←】、【→】でメニューバーのカーソルを選択し、【↑】、【↓】で設定項目を選択します。
- 設定内容（例：システム時計の時、分、秒）のカーソル移動は【Tab】で選択します。設定内容の値は【＋】、【－】で変更します。
- ▶印がついた設定項目は【Enter】でサブメニューを表示し、【Esc】で元の画面に戻ります。

メインの設定

システム時刻
現在の時刻を「時 / 分 / 秒」で入力します。時間については 24 時間形式で入力します。

システム日付
日付を「年 / 月 / 日」で入力します。ただし、言語を英語に設定しているときは、「月 / 日 / 年」で入力します。

言語
BIOS で使用する言語を設定します。日本語または英語を選べます。

プライマリマスタ
現在接続されているIDEデバイスが表示されます。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面になります。
【Esc】を押すと元の画面に戻ります。

表中の□は購入時の設定です。

設定項目	設定内容	説明
タイプ	自動 /なし/CD-ROM/ 取外し可能IDE/ 取外し可能ATAPI/ Other ATAPI/ユーザ	BIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。
32ビットI/O	使用しない/使用する	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定します。

プライマリスレーブ
プライマリマスタの設定と同様です。

セカンダリマスタ
プライマリマスタの設定と同様です。

セカンダリスレーブ
プライマリマスタの設定と同様です。

チェック!!
本機に搭載されているハードディスクの容量を確認したい場合は BIOS セットアップメニューの「メイン」—「プライマリマスタ」のサブメニューを開き、詳細表示を行い「LBAフォーマット」の「最大容量」を参照してください。

キーボード機能
キーボード機能を設定します。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すとサブメニュー設定画面になります。
【Esc】を押すと元の画面に戻ります。

表中の□は購入時の設定です。

設定項目	設定内容	説明
Num lock	自動/オン/オフ	システム起動時にNum Lockをオンにするかどうかを設定します。
キークリック	使用しない/使用する	キークリック音を使用するかどうかを設定します。
キーボード自動リピート間隔	30/秒、26.7/秒、21.8/秒 18.5/秒、13.3/秒、10/秒 6/秒、2/秒	キーリピート間隔を設定します。
キーボード自動リピート待ち時間	1/4秒、1/2秒、3/4秒 1秒	キーリピートが開始されるまでの待ち時間を設定します。
USBレガシー機能	使用しない/使用する	「使用する」を選択するとUSBレガシー機能を有効にします。

起動時の自己診断画面
起動時に自己診断画面を表示するかどうかを設定します。「使用する」にすると NEC のロゴを表示せずに自己診断画面を表示します。購入時は「使用しない」に設定されています。

システムメモリ
搭載されているシステムメモリ容量を表示します。

拡張メモリ
搭載されている拡張メモリを表示します。

BIOS リビジョン
BIOS のリビジョンを表示します。

Processor Serial Number
プロセッサシリアルナンバの読みとりを可能にするかどうかを設定します。
購入時は、「使用しない」に設定されています。この設定では、プロセッサシリアルナンバの読みとりはできません。

チェック!!

プロセッサシリアルナンバは、Pentium® IIIプロセッサの新機能で、プロセッサの識別子です。プロセッサごとに固有になっているので、ホームページやアプリケーションを利用する際に、システムを識別するためのより詳細な情報として使われることがあります。ホームページやアプリケーションを利用する際に、プロセッサシリアルナンバの読みとりが必要になった場合には、この項目の設定を「使用する」にしてください。

詳細の設定

プラグ＆プレイ O/S

プラグ＆プレイ対応のオペレーティングシステムを使用している場合には、「はい」(購入時)を選びます。

設定値の初期化

システムの設定値を初期化したい場合には、「する」を選びます。購入時には「しない」に設定されています。

PCI設定

各PCIデバイスの割込み番号(IRQ)を設定します。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面になります。

表中の[網掛け]は購入時の設定です。

設定項目	設定内容	説明
PCI IRQ line 1	使用しない/自動選択/3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 1で使用するIRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 2	使用しない/自動選択/3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 2で使用するIRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 3	使用しない/自動選択/3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 3で使用するIRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 4	使用しない/自動選択/3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 4で使用するIRQ番号を設定します。

PCIデバイスはISAデバイスが使用している割込み番号を使用することはできません。割込み番号が重複しないように設定する必要があります。通常は、「自動選択」に設定してください。

キャッシュメモリ

この項目の設定は変更しないでください。

周辺機器設定

各種周辺機器の設定を行います。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面になります。

表中の[網掛け]は購入時の設定です。

設定項目	設定内容	説明
シリアルポートA	使用しない	シリアルポートAは使用できません。
	使用する	ユーザがI/Oベースアドレスと割込み番号を設定することができます。
	自動	BIOSがI/Oベースアドレスと割込み番号を自動的に設定します。
I/Oベースアドレス	3F8/2F8/3E8/2E8	シリアルポートAにI/Oベースアドレスを設定します。
割込み	IRQ3/IRQ4	シリアルポートAに割込み番号を設定します。
パラレルポート	使用しない	パラレルポートは使用できません。
	使用する	ユーザがパラレルポートのモード、I/Oベースアドレス、割込み番号を設定することができます。
	自動	BIOSが自動的にパラレルポートの設定を行います。
モード	出力のみ/双方向/ECP	パラレルポートにモードを設定します。
I/Oベースアドレス	378/278/3BC	パラレルポートにI/Oベースアドレスを設定します。
割込み	IRQ5/IRQ7	パラレルポートに割込み番号を設定します。

大容量ディスクアクセスモード

この項目の設定は変更しないでください。

ローカルバス IDE アダプタ

内蔵のIDEアダプタを使用するかどうかを設定します。購入時には「両方」に設定されています。

クイックブート

「使用する」(購入時)に設定した場合、システム起動時の一部のテストをスキップします。システム起動時間が短縮されます。

DMI イベントログ

起動時に起きたシステムのイベントログを参照できます。

AC 投入時の電源状態

AC電源が失われ、再投入されたとき、どの状態に復旧するかを設定します。購入時には「自動」に設定されています。なお、この項目の設定は変更しないでください。

■ PCI デバイスによる電源オン
PCIデバイスによる電源オンおよびレジュームを有効にします。購入時には「しない」に設定されています。

■ セットアップ情報画面
「使用する」に設定すると起動時にシステム設定状況を表示します。購入時には「使用しない」に設定されています。

セキュリティの設定

セキュリティに関する各種設定を行います。

■ スーパバイザパスワード
スーパバイザパスワードの設定状態を表示します。
購入時の状態ではパスワードが設定されていないため、「クリア」と表示されます。

表中の　　　は購入時の設定です。

設定項目	設定内容	説明
スーパバイザパスワード	クリア	スーパバイザパスワードが設定されていません。
	設定	スーパバイザパスワードが設定されています。

■ ユーザパスワード
ユーザパスワードの設定状態を表示します。
購入時の状態ではパスワードが設定されていないため、「クリア」と表示されます。

表中の　　　は購入時の設定です。

設定項目	設定内容	説明
ユーザパスワード	クリア	ユーザパスワードが設定されていません。
	設定	ユーザパスワードが設定されています。

チェック!!
スーパバイザパスワードとユーザパスワードの設定や入力のしかたについては、「パスワードの設定と入力」(p.125)をご覧ください。

■ スーパバイザパスワード設定
スーパバイザパスワードの設定を行います。設定方法については、「パスワードの設定と入力」(p.125)をご覧ください。

■ ユーザパスワード設定
ユーザパスワードの設定を行います。設定方法については、「パスワードの設定と入力」(p.125)をご覧ください。

■ 起動時のパスワード
システム起動時にスーパバイザパスワードやユーザパスワードの入力を行うかどうかの設定を行います。購入時には「使用しない」に設定されています。

■ ハードディスク起動セクタ
ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかの設定を行います。書き込み禁止にすると起動セクタをウィルスから保護します。購入時には「通常動作」に設定されています。

■ ウィルスチェック警告
起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「使用しない」、「毎日」、「毎週(月曜日)」、「毎月(1日)」の中から選びます。購入時には「使用しない」に設定されています。

■ システムのバックアップ警告
起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「使用しない」、「毎日」、「毎週(月曜日)」、「毎月(1日)」の中から選びます。購入時には「使用しない」に設定されています。

省電力管理の設定

システムの省電力管理設定を行います。

■ 省電力
パワーマネジメントモードを選びます。モードを選ぶことによってシステムのパワーマネジメント設定を変更します。

チェック!!

Windows 98では、ACPIモード時は、この設定は無効です。

表中の　　　は購入時の設定です。

設定項目	設定内容	説明
省電力	使用しない	パワーマネジメント機能を停止します。
	カスタマイズ	各種タイムアウト時間をユーザ自身で選べます。
	最大省電力	消費電力を最小限におさえることができます。このときのタイムアウト時間は以下のとおりです。 自動サスペンドタイムアウト：5分 ハードディスクタイムアウト：1分
	性能優先	電力をより多く消費しますが、性能は最大限に発揮します。このときのタイムアウト時間は以下のとおりです。 自動サスペンドタイムアウト：60分 ハードディスクタイムアウト：15分

自動サスペンドタイムアウト

システムが自動的にサスペンドするまでの時間を設定します。購入時には「20分」に設定されています。

チェック!!

Windows 98では、この設定は無効です。

ハードディスクタイムアウト

ハードディスクのモータが停止するまでの、ハードディスクの非アクティブ状態の時間を設定します。購入時には「使用しない」に設定されています。

チェック!!

- 「ハードディスクタイムアウト」の設定は、Windows 98の「コントロールパネル」-「電源の管理」の「ハードディスクの電源を切る」でも設定できますが、これらの設定は、設定時間の短いほうが有効になります。通常は、BIOSセットアップメニューの「ハードディスクタイムアウト」は「使用しない」に設定し、Windows 98側で設定するようにしてください。
- 10分未満に設定した場合、設定した時間になっても、ハードディスクのモータが停止しないことがあります。

システムスイッチ

本体の電源スイッチの機能を設定します。

「パワーボタン」に設定すると、電源のオン/オフができます。「スリープボタン」に設定すると、サスペンド/レジュームすることができます。購入時には、「パワーボタン」に設定されています。

チェック!!

Windows 98では、ACPIモード時は、この設定は無効です。ACPIモードのときにWindows 98で電源スイッチを使ってサスペンド/レジュームを行うには、「コントロールパネル」→「電源の管理」→「詳細」タブで「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「スタンバイ」にしてください。

モデムリングによるレジューム

「オン」に設定すると、モデムが呼出し信号を受信したときに、システムをサスペンド状態から復帰します。購入時には「オフ」に設定されています。

チェック!!

Windows 98では、この設定は無効です。

時刻指定によるレジューム

「オン」に設定すると、レジューム時刻の設定時間でシステムをサスペンド状態から復帰します。購入時には「オフ」に設定されています。

チェック!!

Windows 98では、ACPIモード時は、この設定は無効です。このパソコンではACPIモードのみなので、この機能は利用できません。

レジューム時刻

「時刻指定によるレジューム」で「オン」に設定した場合、システムを復帰する時刻を設定します。

チェック!!

Windows 98では、ACPIモード時は、この設定は無効です。

起動の設定

設定項目	説明
取外し可能デバイス	複数のデバイスが存在するため、さらにこの中で起動する優先順位を設定することができます。
ATAPI CD-ROM	
ハードディスク	
ネットワークブート	

チェック!!

「取外し可能デバイス」は本機に接続したデバイスを取外したときに「! Big Floppy Drive」と表示される場合があります。

これは一度、認識したデバイスの状態を記憶しておくためです。動作上、特に問題はありません。

終　了

BIOSセットアップメニューの終了とシステム設定の読み込み / 保存を行います。

■ 変更を保存して終了する
システムの設定を終了して、変更を保存します。

■ 変更を保存せずに終了する
設定値を保存せずにBIOSセットアップメニューを終了します。

■ デフォルト値をロードする
すべての設定値にデフォルト値を書き込みます。

■ 変更を取り消す
すべての設定項目に対して変更前の値に戻します。

■ 変更を保存する
設定値を保存します。

パスワードの設定と入力

パスワード（スーパバイザパスワード、ユーザパスワード）を設定すると、BIOS セットアップメニュー起動時に設定したパスワードを入力しないと BIOS セットアップメニューを起動できなくなります。

パスワードの設定

パスワードには、スーパバイザパスワードとユーザパスワードがあります。
これらのパスワードを設定することにより、BIOSセットアップメニューで設定できる項目が制限されます。
BIOS セットアップメニュー起動時に、スーパバイザパスワードを入力すると全項目が設定可能ですが、ユーザパスワードを入力すると設定できる項目が制限されます。

■ パスワードに使用できる文字と記号
半角英数字のみがパスワードして使用でき、7 文字以内でなければなりません。大文字 / 小文字の区別はありません。

■ スーパバイザパスワードの設定
BIOS セットアップメニューで次の設定を行います。

① 【←】【→】でメニューバーの「セキュリティ」を選ぶ。

② 【↑】、【↓】で「スーパバイザパスワード設定」を選ぶ。

③ 【Enter】を押す。
「新しいパスワードを入力して下さい。」と表示されます。

④ パスワードを入力し、【Enter】を押す。

⑤ もう一度同じパスワードを入力し、【Enter】を押す。
「変更が保存されました。」と表示されます。

⑥ 【Enter】を押す。
これでスーパバイザパスワードが設定されました。

■ ユーザパスワードの設定
BIOS セットアップメニューで次の設定を行います。

チェック!!
ユーザパスワードは、スーパバイザパスワードを設定しないと設定できません。

① 【←】【→】でメニューバーの「セキュリティ」を選ぶ。

② 【↑】、【↓】で「ユーザパスワード設定」を選ぶ。

③ 【Enter】を押す。
「新しいパスワードを入力して下さい。」と表示されます。

④ パスワードを入力し、【Enter】を押す。

⑤ もう一度同じパスワードを入力し、【Enter】を押す。
「変更が保存されました。」と表示されます。

⑥ 【Enter】を押す。
これでユーザパスワードが設定されました。

パスワードの変更

チェック!!
パスワードが設定されている状態をクリアして、次回BIOSセットアップメニュー起動時からパスワード入力を行わないようにするには、手順⑤、⑥でパスワードを入力しないで【Enter】を押してください。

■ スーパバイザパスワードの変更
すでにスーパバイザパスワードが設定されている場合は、次の手順によりパスワードを変更することができます。

① 【←】【→】でメニューバーの「セキュリティ」を選ぶ。

② 【↑】、【↓】で「スーパバイザパスワード設定」を選ぶ。

③ 【Enter】を押す。
「現在のパスワードを入力して下さい。」と表示されます。

④ 今まで設定していたパスワードを入力し、【Enter】を押す。

⑤ 新しいパスワードを入力し、【Enter】を押す。

⑥ もう一度、手順⑤と同じパスワードを入力し、【Enter】を押す。
「変更が保存されました。」と表示されます。

⑦【Enter】を押す。
これでスーパバイザパスワードが変更されました。

■ ユーザパスワードの変更

すでにユーザパスワードが設定されている場合は、次の手順によりパスワードを変更することができます。

①【←】【→】でメニューバーの「セキュリティ」を選ぶ。

②【↑】、【↓】で「ユーザパスワード設定」を選ぶ。

③【Enter】を押す。
「現在のパスワードを入力して下さい。」と表示されます。

④ 今まで設定していたパスワードを入力し、【Enter】を押す。

⑤ 新しいパスワードを入力し、【Enter】を押す。

⑥ もう一度、手順⑤と同じパスワードを入力し、【Enter】を押す。
「変更が保存されました。」と表示されます。

⑦【Enter】を押す。
これでユーザパスワードが変更されました。

BIOSセットアップメニュー起動時のパスワード入力

パスワードを設定すると、次回BIOSセットアップメニュー起動時に、「パスワードを入力して下さい。」と表示されます。

・スーパバイザパスワードのみを設定している場合

スーパバイザパスワードを入力して【Enter】を押すと、BIOS セットアップメニューが起動します。

・スーパバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定している場合

スーパバイザパスワード、またはユーザパスワードを入力して【Enter】を押すと、BIOS セットアップメニューが起動します。

ただし、ユーザパスワードでBIOS セットアップメニューを起動すると、以下の項目が設定できなくなります。

- 「メイン」メニュー
  - プライマリマスタ
  - プライマリスレーブ
  - セカンダリマスタ
  - セカンダリスレーブ
  - キーボード機能
  - 起動時の自己診断画面
  - Processor Serial Number
- 「詳細」メニュー
  - PCIデバイスによる電源オン以外の項目
- 「セキュリティ」メニュー
  - ユーザパスワード設定以外の項目
- 【F9】などによるデフォルトの設定

チェック!!

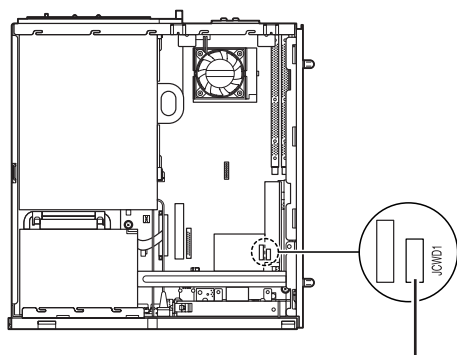
・パスワードの入力を間違えると、「パスワードが正しくありません。」と表示されますので、【Enter】を押してもう一度パスワードを入力してください。

・パスワードを忘れてしまうとこのパソコンを起動できなくなります。この場合は、次の「パスワードの解除」にしたがって、本体内部のストラップスイッチを取り外さなければなりません。パスワードは忘れないようにしてください。

パスワードの解除

このパソコンでは、ユーザパスワードとスーパバイザパスワードを設定できます。これらのパスワードを忘れると、パソコンを起動できなくなります。パスワードを忘れた場合は、本体内部のストラップスイッチを使ってパスワードを解除します。

ストラップスイッチ

本体内部には、次の図のようなストラップスイッチがあります。このスイッチを取り外すことでパスワードの解除ができます。

ここのストラップスイッチです

パスワードの解除のしかた

> **⚠注意**
>
>
> けが注意
>
> **本体内部に手を入れるときは、指をはさんだり、ぶつけたり、切ったりしないように注意してください。**
>
>
> 高温注意
>
> **このパソコンの使用直後は、CPU や CPU の周辺に触れないでください。**
>
> CPUが高温になっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。

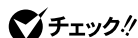
① このパソコンの電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

② 正しい手順でリアカバー、ルーフカバーを外す。

参照

リアカバー、ルーフカバーの外し方→ PART2 の「本体の開け方と閉め方」(p.28)

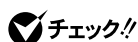
③ IEEE1394 ボード、FAX モデムボード、地上波TV&データ放送ボード (TV モデルのみ) を外す。

チェック!!

IEEE1394 ボード、FAX モデムボード、地上波 TV&データ放送ボード (TVモデルのみ) はPART6で説明しているPCIボードと同じように取り外すことができます。

参照

PCIボードの外し方→ PART6 の「PCIボードの取り付けと取り外し」(p.59)

④ ストラップスイッチを上に引き抜く。
ストラップスイッチを引き抜くには、ピンセットなどを使ってください。

チェック!!

抜いたストラップスイッチはなくさないようにしてください。

⑤ 手順③で外した PCIボードをもとどおりに取り付ける。

⑥ 正しい順序でルーフカバー、リアカバーを取り付ける。

参照

ルーフカバー、リアカバーの取り付け方→PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.28)

⑦ 本体背面から外したケーブルをもとどおり接続して、パソコンの電源を入れる。
Windows が起動します。

⑧ Windows を終了し、パソコンの電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

⑨ 手順②、③を行い、手順④で引き抜いたストラップスイッチをもとどおりに差し込む。
手順②、③と同じようにリアカバー、ルーフカバーを外して、PCI ボードをすべて外し、ピンセットなどを使ってストラップスイッチをもとどおりに取りつける。

⑩ 手順⑤と同じように PCI ボードをすべてを取り付ける。

⑪ 正しい手順でリアカバー、ルーフカバーを取り付ける。

⑫ 外したケーブルをもとどおりに接続する。

このパソコンが使用しているリソース

このパソコンは、次のようにリソースを使用しています（購入時の設定）。

チェック!!

TVモデルの購入時のリソース設定（割り込みレベルおよびDMAチャネル）については、別冊の『TVモデルガイド』をご覧ください。

参照

TVモデルのリソース設定→『TVモデルガイド』付録の「このパソコンが使用しているリソース」

割り込みレベル（IRQ）

IRQ	機能
0	システムタイマ
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	（空き）
4	シリアルポート（COM1）
5	（空き）
6	（空き）
7	パラレルポート
8	リアルタイムクロック
9	アクセラレータ/ACPI/IEEE1394
10	サウンド/USBインターフェイス/SMBus/CardBus/FAXモデムボード
11	（空き）
12	マウス
13	数値データプロセッサ
14	IDEコントローラ（プライマリ）
15	IDEコントローラ（セカンダリ）

DMAチャネル

DMA	機能
#0	（空き）
#1	（空き）
#2	（空き）
#3	（空き）
#4	DMAコントローラ
#5	（空き）
#6	（空き）
#7	（空き）

付　録

パソコンのお手入れ

パソコンを長く使っていると、本体やディスプレイの汚れが気になるものです。また、マウス内部のローラーやボールにホコリなどがついて汚れてしまうと、マウスの操作がうまくできなくなります。日頃から、お手入れをするように心がけましょう。

⚠注意

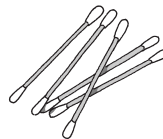
お手入れの前には、パソコンの電源を切り、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。

感電の原因になります。

準備するもの

■ 軽い汚れのとき
乾いたきれいな布

■ 汚れがひどいとき
水かぬるま湯を含ませて、よくしぼった布

■ マウスをクリーニングするとき
綿棒

チェック!!

OA機器用クリーニングキットも汚れをふきとるのに便利です。
OA機器用クリーニングキットについては、ご購入元やNECフィールディングの各支店、営業所に問い合わせてください。

チェック!!

シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や揮発性の有機溶剤を含む化学ぞうきんは、使わないでください。キーボードを傷めたり、故障の原因になります。

参照

NECのお問い合わせ先→『NEC PC あんしんサポートガイド』

電源を切って、電源ケーブルを外す

お手入れの前には、かならず、パソコンの周辺機器やパソコンの電源を切ってください。電源ケーブルはコンセントから抜いてください。
電源を切らずにお手入れをはじめると、感電することがあります。

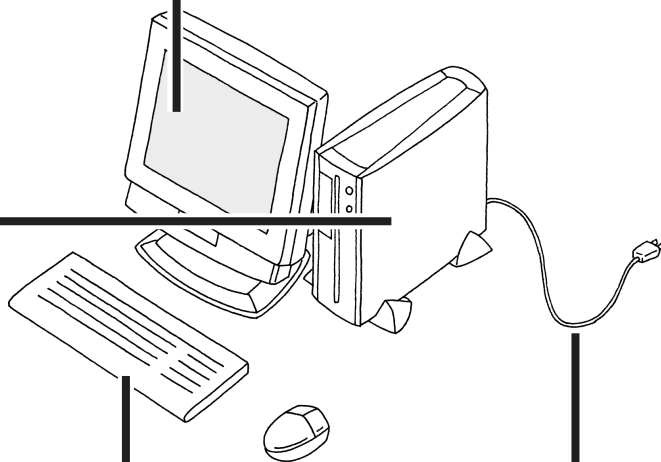
清掃する

液晶ディスプレイ
やわらかい布でふいてください。
化学ぞうきんやぬらした布は使わないでください。

パソコン
やわらかい布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

パソコンの内部
長期間使うと、ほこりがたまるので、定期的に清掃してください。パソコン内部の清掃については、ご購入元、NEC フィールディングの各支店、営業所に相談してください。

チェック!!
水やぬるま湯は、絶対にパソコン本体やキーボードに直接かけないください。故障の原因になります。

参照
NECのお問い合わせ先→『NEC PC あんしんサポートガイド』

キーボード
やわらかい布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。
キーのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。
ゴミが取れないときは、ご購入元、NEC フィールディングの各支店、営業所に相談してください。

電源ケーブル
電源ケーブルのプラグを長期間コンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にやわらかい布でふいて、清掃してください。

マウス
やわらかい布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

マウスの内部
マウスポインタの動きが悪いときは、ボールとローラーもクリーニングしてください。

参照
→「マウスのクリーニング」(次ページ)

電池切れにご注意

キーボードやマウスの電池が切れると、文字入力やマウス操作がうまくできなくなります。そんなときのために も、いつも予備の電池を準備しておくことをおすすめします。

チェック!!

キーボードの電池が消耗するとキーを操作するたびに「ピィ」というブザー音が鳴ります。そのときは、新しい電池に交換してください。

参照

電池を交換するには→『はじめにお読みください』PART2 の「キーボードとマウスの準備をする」

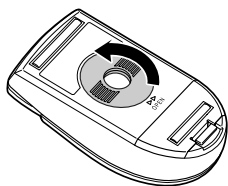
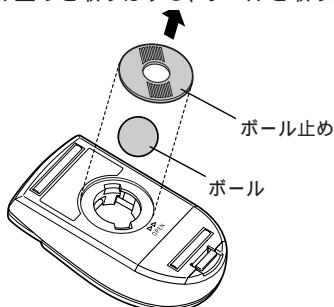
マウスのクリーニング

マウス内部のローラーやボールが汚れると、マウスポインタの動きが悪くなります。とくに、ローラーやボールに油分が付くと、故障の原因になったりします。
ローラーはとくに汚れがたまりやすいので、定期的にクリーニングしてください。ローラーだけクリーニングするときは、4 ～ 6 の手順は省略して構いません。

チェック!!

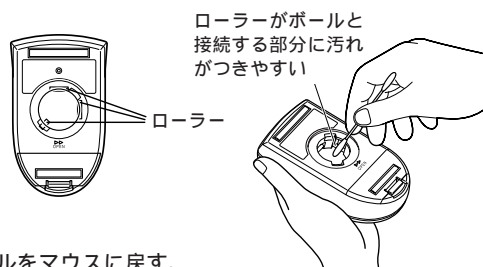
取り外したボールやボール止めは、お子さまが誤って飲みこんだりしないよう、ご注意ください。

①パソコンの電源を切る。

②マウスの裏側のボール止めを、下図の矢印の方向に回転させる。

③ボール止めを取りはずし、ボールを取り出す。

④ボールを中性洗剤で洗い、汚れを落とす。

⑤水で中性洗剤を洗い落とす。

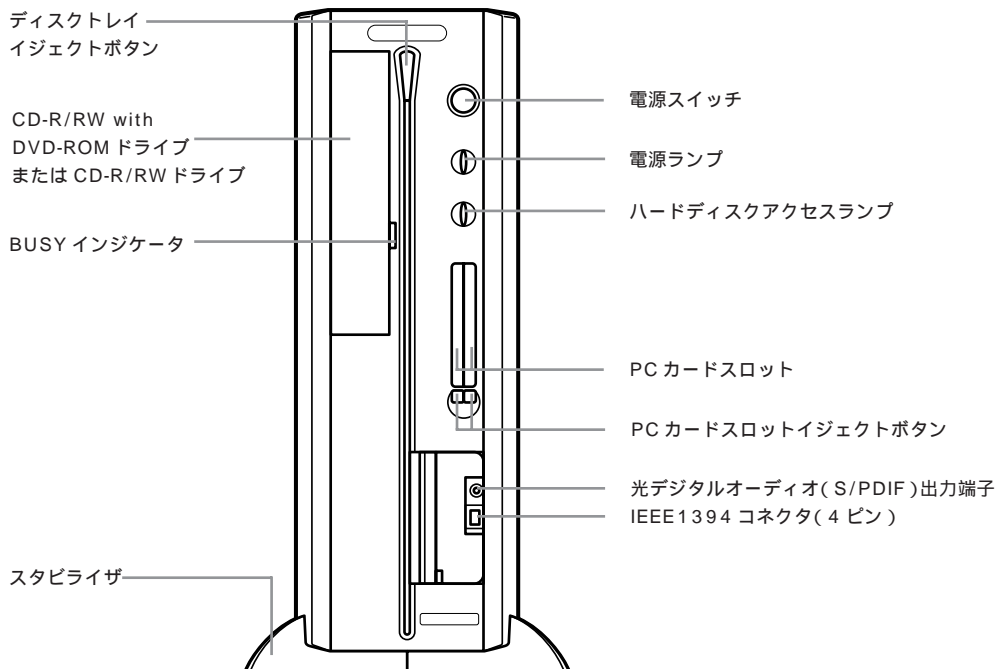
⑥布で水分をふき取り、風通しの良いところで充分に乾燥させる。

⑦マウス内部のローラーの汚れを、水分を含ませた綿棒でこすり落す。
汚れが落ちないときは、やわらかい歯ブラシなどで汚れを取る（このとき、歯ブラシに、水やはみがき粉などをつけないでください）。

⑧ボールをマウスに戻す。

⑨ボール止めを取り付け、手順 2 と逆の方向に回して固定する。

本体の各部の名称

本体の各部の名称とその役割について説明しています。
TV モデルについては、『TV モデルガイド』をご覧ください。

本体前面

① 電源スイッチ（ ）
電源を入れるスイッチ。電源を切るときは、Windows 98 の「スタート」メニューで「Windows の終了」をクリックして「電源を切れる状態にする」を選んで「OK」をクリックします。電源スイッチを切る / 入れる操作はコンピュータに負担をかけるので、少なくとも 5 秒以上の間隔をあけてください。

チェック!!

ソフトウェアが明らかに停止している状態になった場合は、電源スイッチを約 4 秒以上押し続けることで、強制的に電源を切ることができます。なお、この場合、作成中のデータなどは消えてしまいますので、正しい方法で操作してください。

停電や、電源ケーブルを抜いているために本体に電源が供給されていないときは、電源スイッチを押しても電源を入れることはできません。

② 電源ランプ（ ）
電源の入/切状態を表示するランプ。 電源を入れると緑色に、スタンバイ状態ではオレンジ色に点灯します。

③ ハードディスクアクセスランプ（ ）
ハードディスクの動作中に点灯するランプ。

チェック!!

点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスクの内容が壊れることがあります。

④ PC カードスロット（ ）
PC カードを取り付けるスロット。2 スロットあります。あらかじめ、PCカードスロットを保護するためにダミーカードがセットされています。PCカードには、メモリカードやモデムカード、SCSI インターフェイス対応機器とつなげるためのSCSIカードなどいろいろな種類があります。

⑤ PCカードスロットイジェクトボタン
PCカードをPCカードスロットから取り出すときに使うボタン。

⑥ 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子( )
MDデッキやAVアンプなどデジタル入力機能を持ったオーディオ機器を接続する端子。ただし、プラグ形状によっては使用できないものがありますので、ケーブルは、よくお確かめの上、ご購入ください。

⑦IEEE1394コネクタ(4ピン)(IEEE 1394)
IEEE1394対応機器(4ピン)を接続するためのコネクタ。

⑧ ディスクトレイイジェクトボタン(⏏)
ディスクをセットするディスクトレイを出し入れするためのボタン。

⑨ CD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ
・CD-R/RW with DVD-ROMモデル
DVD-ROMやCD-ROM、音楽CDを入れるところ。また CD-R、CD-RW メディアにデータを記録するところ。
・CD-R/RWモデル
CD-ROMや音楽CDを入れるところ。また、CD-R、CD-RWメディアにデータを記録するところ。

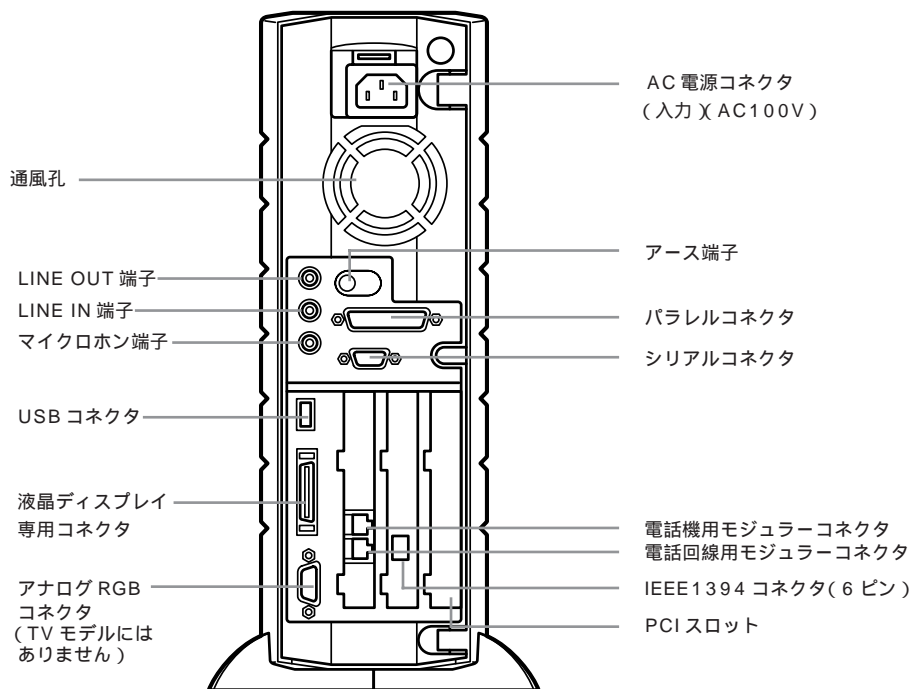
⑩ BUSYインジケータ
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ、またはCD-R/RWドライブからデータを読み出しているときに点灯します。

チェック!!
点灯中は電源を切ったり、CD-ROMなどを取り出したりしないでください。CD-R/RWドライブの故障の原因となります。

⑪ スタビライザ
本体を安定して設置するための脚。

チェック!!
スタビライザは必ず付属のネジで本体に固定してください。また、本体を横置きにする場合は、ネジとスタビライザをなくさないよう大切に保管してください。

本体背面

各アイコンの向きは、下の説明と異なることがあります。
図はリアカバーを外した状態です。

① AC 電源コネクタ（入力）（AC100V）
ACコンセントから本体に電源を供給するためのコネクタ。添付の電源ケーブルを接続します。
本体添付の電源ケーブルは、AC コンセント側が普通の 2 ピン、本体側が特殊な 3 ピンになっています。

② アース端子（ ）
アース線を接続するための端子。

③ パラレルコネクタ（ ）
プリンタなどを接続するためのコネクタ。

チェック!!

PC-9800シリーズ用のプリンタケーブルを接続する場合は、別売のプリンタインタフェース変換アダプタ（PK-CA101）が必要です。PK-CA101 は、別売の RS-232C 変換アダプタ（PK-CA102）と同時に取り付けることはできません。

④ シリアルコネクタ（ IOIOI ）
周辺機器を接続するためのコネクタ。
通信を行うときに必要な通信機器や、イメージスキャナなどの周辺機器を接続します。

チェック!!

・PC-9800 シリーズ用の機器を接続する場合は、別売のRS-232C変換アダプタ（PK-CA102）が必要です。PK-CA102 は別売のプリンタインタフェース変換アダプタ（PK-CA101）と同時に取り付けることはできません。
・周辺機器によっては、変換アダプタを使用すると動作しないことがあります。

⑤ 電話機用モジュラーコネクタ（ ）
電話機を接続するためのコネクタ。

⑥ 電話回線用モジュラーコネクタ（ ）
電話回線を接続するためのコネクタ。

⑦ IEEE1394 コネクタ（6 ピン）
IEEE1394 対応機器（6 ピン）を接続するためのコネクタ。

⑧ PCI スロット
本機の機能を強化したり拡張したりするための各種ボードを、挿入するためのスロット。高速なデータ転送ができる PCI バスに対応。

⑨ 通風孔
本体内部の熱を逃がすための孔です。壁などでふさがないように注意してください。

⑩ LINE OUT端子（ステレオ）（ ）
添付の外付けスピーカや市販のオーディオ機器などに、音声信号(ステレオ)を出力するためのミニジャック端子。

⑪ LINE IN端子（ステレオ）（ ）
市販のオーディオ機器などから、音声信号（ステレオ）を本体に入力するためのミニジャック端子。

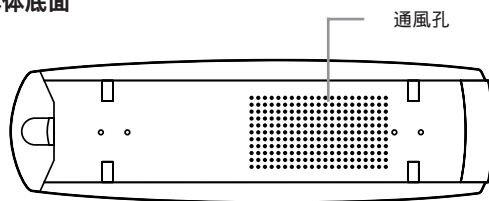
⑫ マイクロホン端子（モノラル）（ ）
マイクロホンを接続するためのミニジャック端子。

⑬ USBコネクタ（ ）
USB対応機器を接続するためのコネクタ。
Windows 98、Windows 2000でのみ使用可能。
USBコネクタに接続する周辺機器が本機で使用できるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。

⑭ 液晶ディスプレイ専用コネクタ（LCD）
セットの液晶ディスプレイを接続するためのコネクタです。セットの液晶ディスプレイ以外は接続できません。

⑮ アナログRGBコネクタ（ ）
アナログRGB対応ディスプレイを接続するためのコネクタ。TVモデルにはこのコネクタはありません。

チェック!!
このコネクタに別売のディスプレイを接続して2台のディスプレイを接続してもマルチモニタサポート機能は使えません。

本体底面

① 通風孔
本体内部の熱を逃がすための孔。
底面にスタビライザを取り付けることで、通風孔をふさがない状態になります。

チェック!!
パソコン本体を横置きにする場合は、通風孔をふさがないようにしてください。

マウス

スクロールボタンを使って画面を上下左右にスクロールすることができます。

参照
マウスの使い方について→『使っておぼえるパソコンの基本』後編の「マウス」、「パソコンのいろは」

スクロールボタンを使う

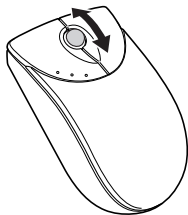
スクロールボタンを使うと、画面を上下左右にスクロールさせたり、画面を拡大縮小させることができます。

チェック!!
スクロールボタンの機能に対応していないアプリケーションではスクロールボタンは使えません。
コントロールパネルの「マウスのプロパティ」画面では、ダブルクリックの速さの調整、マウスポインタの形の変更や動きの調整、左ききの方のためのマウスの設定などができます。

参照
マウスの設定→「添付ソフトの使い方」-「マウスの設定」

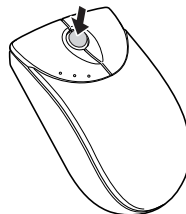
画面を上下方向にスクロールする

① アプリケーションの上下スクロールバーがある画面をクリックしてアクティブにします。

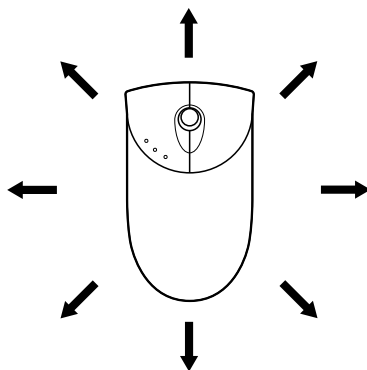
② スクロールボタンを前方に押す。または手前に引く。

前方に押すと画面が上にスクロールし、手前に引くと画面が下にスクロールします。
スクロールボタンを押しつづけると、画面が連続的にスクロールします。

画面を上下、左右方向にスクロールする

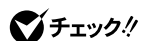
① スクロールさせたい画面にマウスポインタを移動する。

② スクロールボタンを真下に押す。

マウスポインタの形が や のように変わります。

チェック!!
スクロールボタンは、真下に押し込むようにしてください。スクロールボタンを前後に動かすと、通常の上下のスクロールになります。

③ や が表示されたらスクロールしたい方向にマウスを動かす。

マウスを動かした方向に画面がスクロールしていきます。
もう一度スクロールボタンを押すと、マウスポインタの形が元に戻ります。

チェック!!
・アプリケーションによってスクロールできる方向は異なります。
・ が表示されているときは上下にだけスクロールすることができます。

ズーム機能を使う

アプリケーションによっては、この機能は使えません。

① 拡大、縮小したい画面にマウスポインタを動かす。

② キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールボタンを前方に押す。または手前に引く。
前方に押すと画面の表示が拡大し、手前に引くと画面の表示が縮小します。

キーボード

各キーの名称と一般的な機能を説明します。

参照
キーボードの使い方、日本語入力のしかた→『使ってみよう パソコンの基本』、「パソコンのいろは」

キーの役割

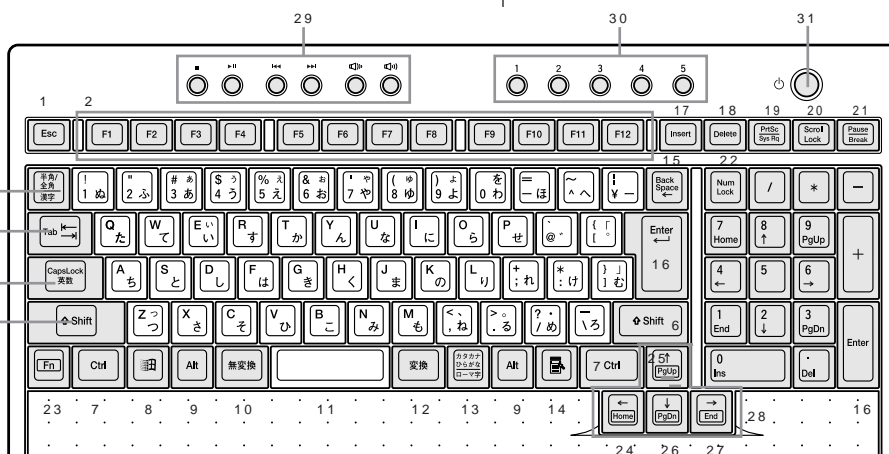
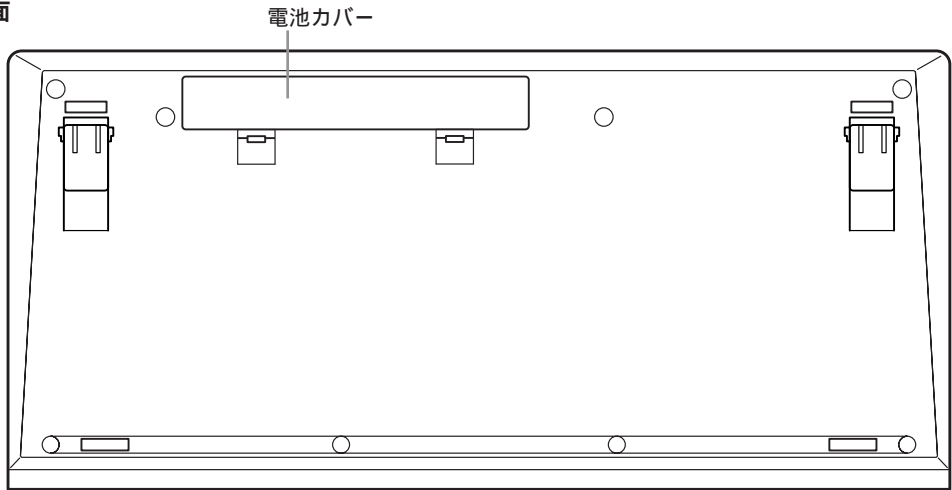
一般的なキーの役割です。

キーボードのキーは、一般的に次のように2種類に分けられます。
・文字を入力するキー
　英数字やカタカナ、記号などの文字を入力します。下の図で白くなっている部分のキーです。

・コンピュータに指示を与えるためのキー
　コンピュータに直接指示を与えるためのキーです。下の図でグレーの色が付いている部分のキーです。このキーの働きは、お使いになるアプリケーションによって違います。詳しくは、各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

キーの名称

キーボード正面

1 【Esc】：エスケープキー
2 【F1】～【F12】：ファンクションキー
3 【半角/全角/漢字】：半角/全角/漢字キー
4 【Tab】：タブキー
5 【CapsLock】：キャップスロックキー
6 【Shift】：シフトキー
7 【Ctrl】：コントロールキー
8 【 】：Windows キー
9 【Alt】：オルトキー
10 【無変換】：無変換キー
11 スペースキー
12 【変換】：変換キー
13 【カタカナ/ひらがな/ローマ字】：
　カタカナ/ひらがな/ローマ字キー
14 【 】：アプリケーションキー
15 【BackSpace】：バックスペースキー
16 【Enter】：エンターキー
17 【Insert】：インサートキー
18 【Delete】：デリートキー
19 【PrtSc/SysRq】：
　プリントスクリーンキー/システムリクエストキー
20 【ScrollLock】：スクロールロックキー
21 【Pause/Break】：ポーズ/ブレークキー
22 【NumLock】：ニューメリックロックキー
23 【Fn】：Fn キー
24 【Home/←】：ホームキー/カーソルキー
25 【PgUp/↑】：ページアップキー/カーソルキー
26 【PgDn/↓】：ページダウンキー/カーソルキー
27 【End/→】：エンドキー/カーソルキー
28 【↑】【↓】【←】【→】：カーソルキー
29 CD/DVD プレーヤボタン
30 ワンタッチスタートボタン
31 電源スイッチ

キーボード裏面

キーのロック

【NumLock】と【CapsLock】がロックされているかいないかでキーの機能は異なります。
ロック状態は【NumLock】ではキーを押すたびに、【CapsLock】は【Shift】を押したままキーを押すと切り替わります。

それぞれのキーがロックされているときには液晶ディスプレイ正面のランプが点灯します。

	ロックされているとき	ロックされていないとき
【NumLock】	テンキーから数字が入力できます。	テンキーの数字の下に表示されている機能が使えます。
【CapsLock】	アルファベットが表示されているキーを押すと大文字が入力されます。	アルファベットが表示されているキーを押すと小文字が入力されます。

アプリケーションキーとWindowsキーについて

アプリケーションキーとWindowsキーはWindows 98で使用できるキーです。アプリケーションによってどのように利用するかは異なりますが、標準で次のような機能が割り当てられています。

■ アプリケーションキー（ ）
アプリケーションキーを押すと、マウスで右クリックしたときと同じ状態になります。

■ Windowsキー（ ）
Windowsキーを押すと、「スタート」メニューが表示されます。

Windowsキーを押しながら次のキーを押すと、次のような機能を利用することができます。

【 】＋【R】	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示する
【 】＋【M】	現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化する
【Shift】＋【 】＋【M】	【 】＋【M】でアイコン化しているウィンドウを元に戻す
【 】＋【F1】	Windowsのヘルプを起動する
【 】＋【F】	ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示する
【Ctrl】＋【 】＋【F】	コンピュータを検索するウィンドウを表示する
【 】＋【Tab】	タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替える

チェック!!
キーボードの詳細な設定については、コントロールパネルの「キーボードのプロパティ」ウィンドウで設定します。

参照
キーボードの設定→「添付ソフトの使い方」-「キーボードの設定」

Fnキーについて

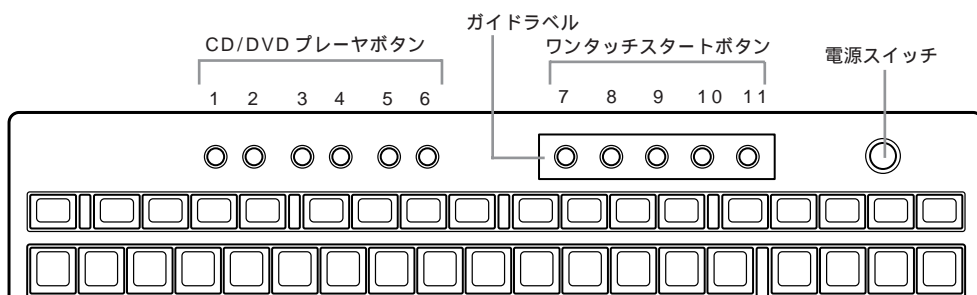
Fnキーを押しながら次のキーを押すと、キーの役割を変えることができます。

【Fn】＋【Pause】	【Break】を押したときと同じです。
【Fn】＋【PrtSc】	【SysRq】を押したときと同じです。
【Fn】＋【←】	【Home】を押したときと同じです。
【Fn】＋【→】	【End】を押したときと同じです。
【Fn】＋【↑】	【PgUP】を押したときと同じです。
【Fn】＋【↓】	【PgDn】を押したときと同じです。
【Fn】＋【Alt】	【→】を押しながら【Alt】を押したときと同じです。
【Fn】＋【 】	【→】を押しながら【 】を押したときと同じです。
【Fn】＋【Pause】	【Break】を押したときと同じです。

チェック!!
キーボードの詳細な設定については、「キーボード　プロパティ」画面で設定します。

参照
「キーボードのプロパティ」で設定する→「添付ソフトの使い方」-「キーボードの設定」

ワンタッチスタートボタンの名前と役割

ボタンを押すだけでアプリケーションを起動することができるボタンを「ワンタッチスタートボタン」といいます。「ワンタッチスタートボタン」はキーボードの上部に並んでいます。また、「ワンタッチスタートボタン」の左側には「CD/DVDプレーヤボタン」、右側には電源スイッチがあります。

CD/DVDプレーヤボタン

音楽CDやフォトCD、カラオケCD、ビデオCD、DVD VIDEOディスクなどの再生をコントロールしたり音量の調節ができます。

各ボタンの役割は次の通りです。

1【■】:停止
2【▶II】:再生/一時停止
3【I◀◀】:前のトラック/巻き戻し
4【▶▶I】:次のトラック/早送り
（1〜4：再生をコントロールできます。）

5【🔈】:ボリュームダウン
6【🔊】:ボリュームアップ
（5〜6：音量を調節できます。）

ワンタッチスタートボタン

7 【メール】ボタン
このボタンを押すと、「Outlook Express」が起動します(ご購入時の状態では、メールボタンのご案内が表示されます)。

8 【インターネット】ボタン
このボタンを押すとインターネットエクスプローラが起動します(ご購入時の状態では、「インターネット無料体験」がスタートします)。

9 【サポート】ボタン
このボタンを押すと、「サポートセンタ」が起動します。

10 【ランチ-NX】ボタン
このボタンを押すと、「ランチ-NX」が起動します。起動している状態で押すと最小化されます。

11 【ソフト終了】ボタン
このボタンを押すと、アクティブになっているソフトが終了します。(TVモデルでは【テレビ】ボタンです。MGI PURE DIVA for NECが起動します)

電源スイッチ

パソコン本体の電源を入れるスイッチ。

チェック!!

電源スイッチを約4秒以上押し続けると強制終了しますので注意してください。

ガイドラベル

ワンタッチスタートボタンにどんなアプリケーションが割り当てられているかを示すラベルです。

チェック!!

- CD-R/RWモデルでは、DVD VIDEOディスクは再生できません。
- MS-DOSモードで起動した場合やWindows 98のSafeモードなど、Windows 98のキーボードドライバが動作しない状態では、CD/DVDプレーヤボタン、ワンタッチスタートボタン、電源スイッチの機能は使えません。
- 【インターネット】ボタンと【メール】ボタンは、「BIGLOBEサインアップナビ」または「BIGLOBE電話で入会ナビ」を使ってBIGLOBEに入会すると、それぞれインターネットエクスプローラとOutlook Expressが起動するようになります。
それ以外の方法でプロバイダに入会した場合に【インターネット】ボタンと【メール】ボタンでインターネットエクスプローラとOutlook Expressを起動させるには、ワンタッチスタートボタンの設定が必要です。

参照

ワンタッチスタートボタンの設定→「添付ソフトの使い方」-「ワンタッチスタートボタンの設定」

PC-9800シリーズのキーボードとのキーの違い

PC-9800シリーズに添付されているキーボードとこのパソコンのキーボードとのキーの違いは以下のとおりです。

PC-9800シリーズのキーボード	本機のキーボード	備　考
【リターン】	【Enter】	
【GRPH】	【Alt】	
【BS】	【BackSpace】	
【STOP】	【Pause】	
【CAPS】	【Shift】+【CapsLock】	大文字
【ROLL UP】	【Fn】+【PgDu】	
【ROLL DOWN】	【Fn】+【PgUp】	
【CTRL】	【Ctrl】	
【DEL】	【Delete】	
【HELP】	【Fn】+【End】	
【ESC】	【Esc】	
【f･1】-【f･10】	【F1】-【F10】	
【vf･1】-【vf･2】	【F11】-【F12】	
【HOME CLR】	【Fn】+【Home】	
【INS】	【Insert】	
【SHIFT】	【Shift】	
【COPY】	【PrtSc】	
【TAB】	【Tab】	
【XFER】	【変換】	
【NFER】	【無変換】	
【CTRL】+【XFER】	【Alt】+【半角/全角】 または【半角/全角】	日本語入力
【かな】	【Ctrl】+【英数】	

機能仕様

TV モデルは、『TV モデルガイド』をご覧ください。

VC733J/3、VC667J/3

分類	項目		VC733J/3FD	VC667J/3FD	VC667J/3XD
モデル			VC733J/3FD	VC667J/3FD	VC667J/3XD
CPU			Pentium®IIIプロセッサ（733MHz）	Pentium®IIIプロセッサ（667MHz）	
			キャッシュメモリ32Kバイト セカンドキャッシュメモリ256Kバイト（CPUに内蔵）		
メモリ	BIOS ROM		512Kバイト、プラグ＆プレイ対応		
メモリ	RAM※1	メインRAM	64Mバイト※2 ユーザーズメモリ 63.6Mバイト		
メモリ	RAM※1		DIMMスロット×2（うち1スロットに64Mバイトメモリを取り付け済）最大256Mバイト		
メモリ	ディスプレイキャッシュ		4Mバイト（SDRAM）		
メモリ	ビデオRAM		8～11Mバイト※2		
表示機能	グラフィックアクセラレータ		Intel®810E Chipset内蔵		
表示機能	グラフィック表示		640×480ドット 16色/256色/65,536色/1,677万色※4 800×600ドット 256色/65,536色/1,677万色※4 1,024×768ドット 256色/65,536色/1,677万色※4 1,280×1,024ドット※3 256色/65,536色/1,677万色		
入力装置	キーボード		ワイヤレス接続、JIS標準配列（英数、かな）、109キーレイアウト準拠、CD/DVDプレーヤボタン、電源スイッチ、ワンタッチスタートボタン、テンキー・12ファンクションキー付き		
入力装置	マウス		ワイヤレス接続、スクロール機能付きマウス		
補助記憶装置	ハードディスク※5		約30Gバイト※6		約20Gバイト※7
補助記憶装置			Microsoft Windows 98 Second Editionをインストール済		
補助記憶装置	CD-R/RW with DVD-ROM・CD-R/RW		CD-R/RW with DVD-ROM内蔵 読み込み：最大4倍速（DVD-ROM） ：最大24倍速（CD-ROM） 書き込み：最大4倍速（CD-R） ：最大4倍速（CD-RW）	CD-R/RW内蔵 読み込み：最大32倍速（CD-ROM） 書き込み：最大8倍速（CD-R） ：最大4倍速（CD-RW）	CD-R/RW内蔵 読み込み：最大32倍速（CD-ROM） 書き込み：最大4倍速（CD-R） ：最大4倍速（CD-RW）
補助記憶装置	5型ベイ		1スロット（CD-R/RW with DVD-ROMまたはCD-R/RWで1スロット占有済）［空きスロット0］		
補助記憶装置	内蔵3.5型ベイ		1スロット（ハードディスクで1スロット占有済）［空きスロット0］		
拡張スロット	PCIスロット		2スロット（IEEE1394ボードで1スロット占有済）［空きスロット1］		
拡張スロット	PCカードスロット		TypeII×2（TypeIII×1スロットとしても使用可） PC Card Standard準拠 Card Bus対応		
サウンド機能※8	サウンドチップ		Creative社製 EV1938		
サウンド機能※8	音源		PCM録音再生機能：ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート4～48KHz、全二重対応（モノラル、量子化8ビット時）、ウェーブテーブルシンセサイザー機能搭載（GM演奏モード対応）、最大同時発音数64音、Downloadable Sound（DLS）Level-1対応		
サウンド機能※8	サラウンド		エンハンストステレオ対応		
サウンド機能※8	スピーカ		液晶ディスプレイに内蔵		
通信機能	モデム		データ転送速度 最大送信33.6Kbps／最大受信56Kbps、V.90、K56flex、V.34、V.32bis、V.32、V.22bis、V.22、V.21 エラー訂正V.42/MNP4、データ圧縮V.42bis/MNP5		
通信機能	FAX		データ転送速度 最大14.4Kbps（V.17）、FAX制御 CLASS 1		

VC733J/3、VC667J/3

モデル			VC733J/3FD	VC667J/3FD	VC667J/3XD
インターフェイス	ディスプレイ		アナログRGBセパレート信号出力（75Ωアナログインターフェイス、ミニD-Sub 15ピン）、液晶ディスプレイ専用（専用30ピン）※9		
	オーディオ	入力	マイク入力（モノラル） 入力インピーダンス 10KΩ 入力レベル最大100mVrms ゲイン20dB ライン入力（ステレオ） 入力インピーダンス 10KΩ 入力レベル最大2Vrms ゲインー6dB		
		出力	ライン出力（ステレオ）出力レベル最大1Vrms（負荷インピーダンス47kΩ）、光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力		
	プリンタ		パラレルインターフェイス（D-Sub25ピン）		
	シリアル		最大115,200bps（D-Sub 9 ピン）		
	USB※10	本体	1ポート内蔵		
		ディスプレイ	2ポート内蔵		
	IEEE1394		2ポート内蔵（6ピン×1、4ピン×1）		
カレンダー時計			電池によるバックアップ		
電源			AC 100V±10%、50/60Hz		
温湿度条件			10～35℃、20～80%※11（ただし結露しないこと）		
外形寸法	本体		106（W）×337（D）×315（H）㎜ （突起部除く） 155（W）×361（D）×325（H）㎜ （スタビライザおよびリアカバー取り付け時）		
	キーボード		382（W）×179（D）×40（H）㎜		
質量	本体		約7.4kg	約7.7kg	
	キーボード		約0.9kg ※13		
消費電力※12	標準構成時		約56W	約54W	約44W
	内蔵オプション最大接続時		105W	103W	93W
	スタンバイモード時		約26W		

※1　利用OSにより、使用可能なメモリ容量は異なります。
※2　ビデオRAMは、メインRAMを使用します。表示領域として使用するのは、この一部です。
※3　本機にセットの液晶ディスプレイでは表示できません。
※4　ディザリングにより1,619万色となります。
※5　ハードディスクの容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より小さく表示されることがあります。
※6　Windowsのシステムからは、約27.9Gバイトと認識されます。
※7　Windowsのシステムからは、約18.6Gバイトと認識されます。
※8　サウンド機能を利用したアプリケーションソフトのうちハードウェアを直接制御しているものは、一部使用できないものがあります。アプリケーションソフト購入に際しては、発売元に確認してください。
※9　セットの液晶ディスプレイを接続する専用ポートです。セットの液晶ディスプレイ以外は接続できません。
※10　Windows 98、Windows 2000でのみサポート。接続する周辺機器の使用可否については、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。
※11　18～28℃、45～75%での使用を推奨します。
※12　セットの液晶ディスプレイの消費電力を含みます。
※13　乾電池の重量は含まれておりません。

FAX モデムボード機能仕様

■ 機 能 概 要

CPU I/F	AC-linkインターフェイス
NCU部	・ダイヤルパルス送出機能 ・リンガ検出機能
モデムチップセット部	•115.2Kbpsまでのデータ•モデム•スループット V.90 K56flex V.34 V.32bis V.32、V.22bis、V.22、V.21 V.42LAPMおよびNMP4エラー訂正 V.42bisおよびMNP5データ圧縮 •最高14.4Kbpsのファックス•モデム送受信速度 V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 •TiesATコマンドセット AT Sレジスタ •回線品質モニタリングおよびオートリトレイン •受信ライン信号品質に基づく自動ライン•スピード選択 •フロー制御およびスピード•バッファリング •パラレル非同期データ •自動ダイヤルおよび自動アンサー •トーンおよびパルスダイヤリング(DTMFトーン、ダイヤルパルス制御)

■ FAX 機 能

項目	規格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14,400/12,000/9,600/7,200/4,800/2,400/300bps 注
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	TCM:14,400/12,000/9,600/7,200bps QAM:9,600/7,200bps DPSK:4,800/2,400bps FSK:300bps
送信レベル 受信レベル	-11〜-15dBm(出荷時 -15dBm) -10〜-40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

注　回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

■ データモデム 機 能

項　目	規　格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送 受 信：33,600/31,200/28,800/26,400/24,000/21,600/19,200/16,800/14,400/12,000/9,600 7,200/4,800/2,400/1,200/300bps 注 受信のみ：56,000/54,666/54,000/53,333/52,000/50,666/50,000/49,333/48,000/46,666/46,000 45,333/44,000/42,666/42,000/41,333/40,000/38,666/38,000/37,333/36,000/34,666 34,000/33,333/32,000/30,666/29,333/28,000bps 注
通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32/V.32bis/V.22/V.22bis/V.21
変調方式	PCM: 56,000/54,666/54,000/53,333/52,000/50,666/50,000/49,333/48,000/46,666/46,000 45,333/44,000/42,666/42,000/41,333/40,000/38,666/38,000/37,333/36,000/34,666 34,000/33,333/32,000/30,666/29,333/28,000bps TCM: 33,600/31,200/28,800/26,400/24,000/21,600/19,200/16,800/14,400/12,000/9,600 7,200/4,800/2,400bps QAM: 9,600/4,800/2,400/1,200bps DPSK:1,200bps FSK: 300bps
エラー訂正	ITU-T V.42（LAPM） MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-11～-15dBm（出荷時 -15dBm）
受信レベル	-10～-40dBm
制御コマンド	TiesATコマンド準拠

注　回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

■ NCU 機 能

項　目	規　格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル方式	パルスダイヤル（10/20PPS） トーンダイヤル（DTMF）
NCU形式	AA（自動発信／自動着信型） MA（手動発信／自動着信型） MM（手動発信／手動着信型） AM（自動発信／手動着信型）
制御コマンド	TiesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンド（CLASS 1）

AT コマンド *については、このパソコンの電子マニュアル「サポートセンタ」の「パソコンを使いこなそう」-「ハードウェア情報」-「AT コマンド一覧」、あるいは「スタート」ボタン→「サポートセンタ」→「AT コマンド一覧」をご覧ください。

＊：DTE（パソコンなどの端末機器）から電話回線に対してこのコマンドを送ることで自動発着信を行うことができる。

英数字

ア行

カ行

サ行

タ行

ハ行

マ行

ヤ・ラ・ワ行

やりたいこと別マニュアルガイド

あなたのやりたいことがどのマニュアルに書いてあるか、このガイドを参考に探してください。

VALUESTAR

もっと知りたいパソコン

初版　2000年5月
NEC
P
808-884670-005-A